

2025年度（令和7年度）

事業報告書

社会福祉法人 手稲ロータス会

目 次

社会福祉法人 手稲ロータス会

手稲ロータス会の理念	2
中期経営（後期）計画（2025～2027年度）の取組内容	4
1. 法人の運営	
(1) 法人の開設	7
(2) 寄付金品の状況	7
(3) 理事会 2025年度 理事会開催状況	8
(4) 評議員会 2025年度 開催状況	9
(5) 監査及び外部評価	9
(6) 研修実施状況	12

手稲ロータス会 法人本部事務局

1. 重点推進課題の実施報告	17
----------------------	----

特養手稲

1. 重点推進課題の実施報告	22
2. 事業運営	
(1) 施設の開設	25
(2) 施設職員の配置状況	25
(3) 行事实施状況	26
(4) 利用者の状況	27
(5) 苦情受付件数と主な内容	30
(6) 介護事故件数	30
(7) 慰問・ボランティア状況	31
(8) 実習生受入れ状況	31
(9) 地域における公益的な取組	31

手稲ロータス 指定居宅介護支援事業所

1. 重点推進課題の実施報告	33
2. 事業運営	
(1) 事業所の開設	35
(2) 施設職員の配置状況	35
(3) 居宅介護支援事業所 相談実件数及び相談内容	36
(4) 介護度別 居宅介護サービス計画作成状況	36
(5) 苦情受付件数と主な内容	36
(6) 介護事故件数	36
(7) 地域における公益的な取組	36

老健手稲

1. 重点推進課題の実施報告	
(1) 老人保健施設 手稲あんじゅ	39
(2) 手稲あんじゅ（介護予防）通所リハビリテーション事業所	43

(3) 手稲あんじゅ（介護予防）訪問リハビリテーション事業所	45
--------------------------------------	----

2. 事業運営

(1) 施設の開設	47
(2) 施設職員の配置状況	47
(3) 行事实施状況	48
(4) 利用者の状況	49
(5) 苦情受付件数と主な内容	52
(6) 介護事故件数	52
(7) 慰問・ボランティア状況	53
(8) 実習生受入れ状況	53
(9) 地域における公益的な取組	53

在宅手稲

(介護予防) 認知症対応型共同生活介護 手稲ゆうゆう

1. 重点推進課題の実施報告	56
2. 事業運営	
(1) 施設の開設	58
(2) 施設職員の配置状況	58
(3) 行事实施状況	59
(4) 利用者の状況	60
(5) 苦情受付件数と主な内容	62
(6) 介護事故件数	62
(7) 慰問・ボランティア状況	62
(8) 地域における公益的な取組	62

手稲ゆうゆう 通所介護事業所

1. 重点推進課題の実施報告	64
2. 事業運営	
(1) 施設の開設	66
(2) 施設職員の配置状況	66
(3) 行事实施状況	67
(4) 利用者の状況	68
(5) 苦情受付件数と主な内容	68
(6) 介護事故件数	69
(7) 慰問・ボランティア状況	69
(8) 実習生受入れ状況	69
(9) 地域における公益的な取組	69

手稲ゆうゆう 指定居宅介護支援事業所

1. 重点推進課題の実施報告	71
2. 事業運営	
(1) 事業所の開設	73
(2) 施設職員の配置状況	73
(3) 居宅介護支援事業所 相談実件数及び相談内容	74
(4) 介護度別 居宅介護サービス計画作成状況	74
(5) 苦情受付件数と主な内容	74

(6) 介護事故件数	74
(7) 地域における公益的な取組	74
手稲ゆうゆう 訪問介護事業所・札幌市指定相当訪問型サービス事業所・ 小樽市指定相当型サービス事業所・指定居宅介護事業所	
1. 重点推進課題の実施報告	76
2. 事業運営	
(1) 事業所の開設	78
(2) 施設職員の配置状況	78
(3) 訪問介護事業 訪問時間数	79
(4) 苦情受付件数と主な内容	80
(5) 介護事故件数	80
手稲ゆうゆう 札幌市手稲区介護予防センター稲穂・金山・星置	
1. 重点推進課題の実施報告	82
2. 事業運営	
(1) センターの開設	84
(2) 施設職員の配置状況	84
(3) 介護予防センター相談実施数及び相談内容	85
(4) 介護予防事業実施回数及び参加人数	85
(5) 苦情受付件数と主な内容	85
(6) 介護事故件数	85
(7) 地域における公益的な取組	85

特養音更

1. 重点推進課題の実施報告	
(1) 介護老人福祉施設 ロータス音更	88
(2) ロータス音更（介護予防）通所介護事業所 認知症対応型通所介護事業所	90
2. 事業運営	
(1) 施設の開設	92
(2) 施設職員の配置状況	92
(3) 行事実施状況	93
(4) 利用者の状況	95
(5) 苦情受付件数と主な内容	98
(6) 介護事故件数	98
(7) 慰問・ボランティア状況	99
(8) 実習生受入れ状況	99
(9) 地域における公益的な取組	99
音更町地域包括支援センター ロータス音更	
1. 重点推進課題の実施報告	101
2. 事業運営	
(1) 施設の開設	103
(2) 施設職員の配置状況	103
(3) 利用者状況（介護給付実績 ケアマネジメントA）	104
(4) 利用者状況（音更町通所型介護予防事業 ケアマネジメントB）	104
(5) 相談件数・内訳	105

(6) 訪問件数・内訳	107
(7) 認定調査件数	107
(8) 地域活動	107

あんじゅ音更 指定居宅介護支援事業所

1. 重点推進課題の実施報告	110
2. 事業運営	
(1) 事業所の開設	112
(2) 施設職員の配置状況	112
(3) 居宅介護支援事業所 相談日件数及び相談内容	113
(4) 介護度別 居宅介護サービス計画作成状況	113
(5) 苦情受付件数と主な内容	113
(6) 介護事故件数	113
(7) 地域における公益的な取組	113

老健音更

1. 重点推進課題の実施報告	
(1) 老人保健施設 あんじゅ音更	116
(2) あんじゅ音更（介護予防）通所リハビリテーション事業所	118
(3) あんじゅ音更（介護予防）訪問リハビリテーション事業所	120
2. 事業運営	
(1) 施設の開設	122
(2) 施設職員の配置状況	122
(3) 行事实施状況	123
(4) 利用者の状況	124
(5) 苦情受付件数と主な内容	127
(6) 介護事故件数	127
(7) 慰問・ボランティア状況	127
(8) 実習生受入れ状況	128
(9) 地域における公益的な取組	128

社会福祉法人 手稲ロータス会

社会福祉法人「手稲ロータス会」の理念

「手稲ロータス会」は4つの笑顔を大切にします

利用者様の笑顔、ご家族の笑顔、地域の皆様の笑顔、そして私たち職員の笑顔です

清浄な花を咲かせる「ロータス(蓮)」の名にふさわしい、明るい笑顔とこまやかな
思いやりに満ちた介護事業を目指します

基本方針

(1) 利用者様の笑顔のために

- ・ 一人ひとりの尊厳を大切にし、地域の中で自立した生活を目指します
- ・ 安全で安心できる良好な生活・療養環境の実現を目指します

(2) ご家族の笑顔のために

- ・ ご家族と利用者様のコミュニケーションが保たれ、交流が深まるように努めます
- ・ ご家族の介護負担の軽減が図られるように支援します

(3) 地域の皆様の笑顔のために

- ・ 介護予防の知識や介護への意識の普及啓発に努めます
- ・ 地域の皆様との交流、ボランティアの受入、施設開放等に努め地域と共に歩みます
- ・ 地域の関係機関、事業所と連携協働し、地域と一体となったケアを担います
- ・ 環境にやさしい施設運営を目指します

(4) 職員の笑顔のために

- ・ 意欲を持って、安心して働ける職場環境を目指します
- ・ 職員それぞれの職務の専門性向上のために支援します

3 経営方針

手稲ロータス会は、国連が採択した「持続可能な開発目標 SDGs」に賛同し、「だれ一人取り残さない持続可能な地域社会の実現」を目指し、法人の理念である「4 つの笑顔」を基に、社会福祉法人としての役割を果たします。

利用者様へのサービス向上を基本に、環境変化に対応し、長期的な視点からの確な目標を定めて事業運営を行い、安定した運営を目指します。また、関係者や職員の意見を尊重し、透明性の高いコンプライアンスを意識した運営を確立し、法人の存在価値を高め、社会に貢献します。

すべての役職員は謙虚な心と協調性を持ち、エンパワーメントを意識した業務を行い、法人にかかわるすべての人を「笑顔」にすることを目指して自己研鑽に努めます。

4 職員行動指針

就業規程(サービスの基本原則・サービスの心得)及び業務管理体制整備規程(職員の行動範囲)の他、以下の指針を定めます。

- (1) 私たちは、利用者様とご家族の思いやニーズをくみとる感性を大切にし、明るい笑顔とこまやかな思いやりに満ちた最高のサービスを提供します。
- (2) 私たちは、介護のプロとして、個人の尊厳と自己決定・自立を基本としたサービスの向上と個別ケアに取り組み、創意工夫を重ねます。
- (3) 私たちは、それぞれの地域の特性・実情に応じた各種事業・サービスを提供し、連携・交流など地域と共に歩んで、皆様から信頼される取り組みを進めます。
- (4) 私たちは、職種や役職を問わず職場の仲間として常にお互いに尊重し、コミュニケーションの充実とチームワークを高めるよう努めます。
- (5) 私たちは、それぞれの職種と役職に応じた能力を身に付け高めるために必要な研修に参加し、能力開発や資格取得に努めます。
- (6) 私たちは、自分たちの働きがどのように収支に反映するかを知って、効果的な予算の編成や執行に努めます。
- (7) 私たちは、地域の一員として、手稲ロータス会の各種情報をあらゆる機会を捉えてタイムリーにわかりやすく伝えます。

*各事業所の事業計画には、対応する中期経営計画の取組内容の番号を記載しています。



中期経営(後期)計画(2025～2027年度)の取組内容

中期経営計画の後期においては、次に掲げる 7 つの柱を基本的な取組内容として、具体的に進めてまいります。※()内は後期計画の重点項目



(1) 利用者様の笑顔をつくる環境づくり

- ・ 利用者様が「安全・安心」に生活できるよう環境を整えます。
(老朽化に伴う施設の修繕、備品の整備等)
- ・ 利用者様が持っている能力を十分に発揮して頂くとともに、持ち続けられるよう専門職が共同で支援します。
(職員のスキル向上を目的とした勉強会、チームワークの強化等)
- ・ 利用者様の自己の選択や決定を尊重し、個人の尊厳を守れる支援を行います。
(接遇研修を充実し、職員ひとり一人の意識に働きかける教育の実践)
- ・ 利用者様の自立を維持できるよう支援を行います。
(個人に合わせた支援、尊厳を守れる支援の実施)



(2) ご家族に安心・満足していただける環境づくり

- ・ 利用者様の日常生活の様子(通所利用時の様子)や体調等の情報をお伝えし、共有することでより良いサービスにつなげ、また、ご家族に安心していただけます。
(全事業所でのSNSを活用)
- ・ 利用者様とご家族の生活時間を有意義なものとなるよう支援します。
(面会や外出行事の拡充)
- ・ ご家族のご意向(ニーズ)を把握し、ケアプラン等に反映、ケアマネジメントのプロセス(PDCA サイクル)を意識した支援を行います。
(ご家族の想いに寄り添うケアの提案と共有)



(3) 地域の皆様から信頼される環境づくり

- ・ 施設の地域交流スペースや会議室等を地域活動等に利用していただき施設を開放し、地域の皆様との交流機会を積極的に行います。
(地域の皆様への施設開放の実施と、町内会等との交流を活性化)
- ・ 地域の皆様を対象に、専門的知識を持つ専門職による介護予防、健康づくり等の知識や意識の普及啓発を行うなど、公益的な取組みを進めます。
(介護予防を促進する活動の実施、体験学生の受入、公開講話の実施)
- ・ 地域ボランティアの受入れを促進します。
(感染予防対策の範囲を見極めながら積極的な受入)



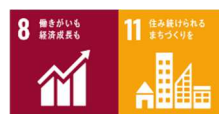
(4) 職員が働き続けられる職場づくり(職員確保と育成)

- ・ 職員のスキルアップ(専門性向上)やキャリアパスの検討など職員研修の充実を図ります。
(外部研修への積極的な参加、法人合同研修の実施など、新たな研修計画の策定)
- ・ ICT化やロボットの導入等を進めることで、業務の効率化を図ります。また、職員の健康管理(腰痛防止やストレス抑制)を促進します。
(職員の健康管理のための福利厚生、介護ロボットの導入による環境整備、労務管理のデジタル化による業務の効率化)
- ・ 仲間や上司から必要とされていると感じられ働き甲斐がある職場づくりを目指し、職員相互のコミュニケーションづくり(良好な人間関係を構築し、チーム力を向上)を促進します。
(職員間のコミュニケーションアップに向けた取組み)
- ・ 職員の意見や発想を大切に、有意義なものは具現化していきます。
(職員提案制度の改正、充実に向けた取組み)
- ・ 職員の適正な人事評価と定年制度の延長及び役職の定年制導入の検討を行います。
(人事評価制度の再調整、定年延長に関する検討)
- ・ 待遇・マナーの向上とハラスメント防止を徹底します。
(全職員が同等の研修を受講できるための研修計画の作成)
- ・ 幹部職員及び幹部候補職員の計画的な教育・育成に努めます。
- ・ 外国人労働者を受け入れ、育成指導する体制を維持します。
(2024年12月より採用の特定技能外国人の介護福祉士取得を目指した育成)



(5) 法人の財政基盤の健全化に向けて

- ・ 主体性のある事業運営を推進するため、現状把握に努め自施設の強みと弱みを知り、これから来る未来について情報を収集(常に勉強)し、課題を分析して具体的な対策を講じます。その結果、目標稼働率を達成させ、収入の増加を目指します。
(継続的な実施)
- ・ 経費については、収益を生むための経費と収益を生まないランニングコストとしての経費に分けて考えます。収益を生むための経費については積極的に使いながら、収益を生まない経費であるランニングコストは抑制に努めます。
(消耗品等の一括購入による経費削減、LED化、施設設備の定期点検による修繕費の削減と環境負荷の軽減)



(6) 組織体制・運営の在り方検討に向けて

- ・ 組織体制について、本部事務局と事業所の業務分担の見直しも含めた検討を行います。
(本部事務局の業務整理と明確化への取組み)
- ・ 各施設の運営に関して、権限と責任の明確化や責任ある事業運営に当たれる体制づくりの

ほか、年功序列を意識せず能力に応じた適材適所の異動・登用を進めます。

(基準の明確化と統一した登用の実施)

・ 法人・事業所の基本情報を発信するホームページの積極的な運用、及び日常の情報発信するための SNS 等各種ソーシャルメディアの活用方法について取り組みを進めます。

(全事業所が同等の実施を行えるための取組の推進)

・ 策定した感染症・自然災害 BCP(業務継続計画)を職員へ周知徹底するとともに、地域との連携・協働を進めます。

(定期的な BCP 内容の見直しと地域との連携に関する今後の取組み)



(7) 新規事業

・ 札幌旧特養施設建物取り壊し

(2027 年度までの資金収支見通し等に基づく実施時期の判断)

・ 音更在宅部門施設建設

地域包括支援センターの移転を含めた事業部門体制などの検討を進め、2027 年度までの資金収支の見通し及び地域ニーズ等事業環境に基づき建設時期を判断します。

(法人の収支状況の改善の不可欠性と検討の継続)

・ ICT の活用

新規システムの導入や既存システムの更新・改修の際には、既存の各事業所の多様なシステムとの統合、連動・整合性の確保を第一に企画実施することとし、事業所ごとではなく法人全体で方向性を定めて取り組みを進めます。(つながる家族導入によるペーパーレス化)

・ 施設の老朽化に対応した建築保全計画の策定

老朽化が進む各施設について、将来に向けた長寿命化や保全のあり方を検討しながら計画的に施設環境を整備していきます。

SDGsとは

SDGs(エスディーゼーズ)は

「Sustainable Development

Goals」の略称で、日本語に直訳する

と「持続可能な開発目標」という意味

を表します。SDGsには2030年ま

で達成すべき17の目標が掲げら

れており、これらは2015年に開催さ

れた国連サミットにおいて採択されま

した。



1. 法人の運営

(1) 法人の開設

多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、昭和 63 年 6 月 23 日に社会福祉法人を設立した。

概要は、次のとおり

法人名称	社会福祉法人 手稲ロータス会
法人所在地	札幌市手稲区稲穂 5 条 2 丁目 6 番 5 号
事業内容	社会福祉事業 第一種社会福祉事業 特別養護老人ホーム 第二種社会福祉事業 老人デイサービス事業・老人短期入所事業・生活困難者に対して、無料又は低額な費用で介護保険法に規定する介護老人保健施設を利用させる事業・老人居宅介護等事業・障害福祉サービス事業・認知症対応型共同生活介護事業・移動支援事業 公益を目的とする事業 居宅介護支援事業・札幌市手稲区介護予防センター稲穂・金山・星置の事業
職員数	419 名（正職員:273 名、契約職員:18 名、パート職員:128 名）2026.3.31 現在

(2) 寄付金品の状況

寄付金件数	7 件	寄付金総額	2 6 3, 5 3 4 円
-------	-----	-------	----------------

物品名	数量
車椅子	2 台
オーバーテーブル	1 台
タオル	多数
ヨーグルト	多数
野菜	多数
紙おむつ	多数
衣類	多数
書籍（小説・雑誌）	多数

(3) 理事会 2025年度 理事会開催状況

開催年月日		出席理事数 (定数9人)	出席監事数 (定数2人)	議 題
第1回	2025. 6. 13	8人	2人	報告事項 1 理事長及び常務理事の業務執行報告 2 2024年度 事業報告 3 監事監査報告 4 独立監査人の予備調査報告 5 理事長の専決事項
				決議事項 1 2024年度 決算案の承認 2 定時評議員会への理事・監事候補者の推薦 3 定時評議員会の招集 4 評議員選任解任委員の選任 5 苦情処理解決第三者委員の選任 6 給食業務委託契約の締結
第2回	2025. 6. 27	8人	2人	報告事項 1 理事長の専決事項
				決議事項 1 理事長及び常務理事の選定 2 就業規程の改正
第3回	2025. 9. 26	8人	2人	報告事項 1 理事長の業務執行報告 2 常務理事の業務執行報告 3 2025年度 第一四半期収支状況 4 監事監査報告 5 理事長の専決事項 6 ハラスメント案件に関する報告
				決議事項 1 諸規程の改正 2 臨時評議員会の招集
第4回	2025. 11. 28	7人	2人	報告事項 1 理事長の業務執行報告 2 常務理事の業務執行報告 3 2025年度 上半期事業報告 4 2025年度 上半期収支報告 5 監事監査報告
				決議事項 1 諸規程の改正 2 老健音更における特殊浴槽の更新(購入)契約 3 法人業務用パソコン本体及び関連機器の更新
第5回	2026. 3. 27	8人	2人	報告事項 1 理事長の業務執行報告 2 常務理事の業務執行報告 3 監事監査報告 4 理事長の専決事項
				決議事項 1 2025年度 補正予算(案) 2 2025年度 事業計画(案)

				3 2026年度 事業予算(案)
				4 施設長職の退任及び選任等について
				5 役員賠償責任保険の契約
				6 諸規程の改正

(4) 評議員会 2025年度 評議員会開催状況

開催年月日		出席評議員数 (定数10人)	出席監事数 (定数2人)	議 題
定 時	2025.6.27	10人	2人	報告事項
				1 2024年度 事業報告
				2 監事監査報告
				3 独立監査人の予備調査報告
				4 運営規程の改正
				5 中期経営計画(後期)策定及びSDGs宣言
決議事項	1 2024年度 計算書類及び財産目録の承認			
	2 理事・監事の選任			
臨 時	2025.11.28	8人	2人	報告事項
				1 2025年度 上半期事業報告
				2 2025年度 上半期収支報告
				3 監事監査報告
4 諸規程の改正				

(5) 監査及び外部評価

ア 法人監事による監査

監査年月日	実施監査員	監査項目	指摘事項
2025.5.28	加賀 三千博 原子 茂樹	1 事業報告等の監査	指摘事項なし
		2 計算関係書類及び財産目録の監査	指摘事項なし
		その他の意見	2024年度事業報告に関して、法人本部事務局の重点推進課題「職員育成のための研修体系の見直し」について、2025年度は研修体系を見直し、具現化して頂きたい。
2025.9.12	加賀 三千博 原子 茂樹	1 2025年度 第一四半期までの収支状況	指摘事項なし
		2 2025年度 第一四半期分 監査・実地指導及び事故・苦情の報告	指摘事項なし

		その他の意見	かねてから懸案だった給与の締め日に関わる会計処理が正職員とパートで異なっていた件の是正に着手し、一時的な会計上の人件費増がみられているが、統一することにより事務の煩雑さを無くして運用開始したことは大きな成果である。 事故防止は現場で状況を共有し、迅速・適切な対応を、苦情については日ごろから利用者目線に徹し抑止に繋げて頂きたい。
2025. 11. 14	加賀 三千博 原子 茂樹	1 2025 年度 上半期収支状況	指摘事項なし
		2 2025 年度 第二四半期分 監査・実地指導及び事故・苦情の報告	指摘事項なし
		その他の意見	上期中の行政への事故報告件数は前年比 8 件増加している。(今年度 73 件、前年度 65 件) 誤薬 39.7%、転倒・転落 30.1%が依然と高い状況にある。誤薬はヒューマンエラーと見られるものが多く、もう少し注意・確認することにより未然に防ぐことができると思われる。かねてから意見として述べているが、改めて各事業所の現状を踏まえ削減への取組を行って頂きたい。 また、給与規程第 3 条第 3 項において「年俸職員の給与は理事長が別に定めるところにより支給する」と規定されているので、具体的な内容を検討し、なるべく早く対応して頂きたい。
2026. 3. 13	加賀 三千博 原子 茂樹	1 2025 年度 第三四半期までの収支状況	経理規程第 27 条第 3 項により、小口現金の限度額は、サービス区分ごとに 10 万円と定められている。老健音更は、10 万円を超えていることが確認されたため、今後は適切な事務所処理を行って頂きたい。
		2 2025 年度 第三四半期分 監査・実地指導及び事故・苦情の報告	指摘事項なし
		3 2026 年度 事業計画 (案)	指摘事項なし
		その他の意見	2026 年度の事業計画 (案) において各事業所とも研修への積極的参加が認められる。内外部で予定される研修に積極的に参加し個人のスキルアップと学んだことを事業所内で共有し、職場環境の向上とサービスの質の向上に努めて頂きたい。

イ 社会福祉法人に関する監査

監査年月日	実施機関名	監査対象・監査項目	指摘事項・結果
2025. 7. 9	札幌市保健福祉局監査指導室監査指導課	監査対象 社会福祉法人 手稲ロータス会 監査項目 指導監査統括、法人運営・経理	指摘事項なし

ウ 社会福祉施設等に関する監査

監査年月日	実施機関名	監査対象・監査項目	指摘事項・結果
2025. 7. 3	札幌市保健福祉局監査指導室監査指導課	監査対象 介護老人福祉施設手稲ロータス 監査項目 運営指導	【文書指導事項】 指摘事項なし 【口頭指導事項】 1 感染症対策のための指針について、「平常時の対策」の項目を盛り込むこと。 2 処遇改善加算に係る賃金改善の方法については、計画書本書を用いて職員に周知すること。 3 時間外・休日労働に関する協定(36協定)について、協定機関開始前に所轄の労働基準監督署に届け出ること。また、届出前に時間外勤務命令を行わないこと。

エ 介護保険施設等に関する実地指導

監査年月日	実施機関名	監査対象・監査項目	指摘事項・結果
2025. 7. 9	札幌市保健福祉局監査指導室監査指導課	監査対象 介護老人保健施設手稲あんじゅ 監査項目 運営指導	【文書指導事項】 事故報告について、本市への報告対象となる事故について改めて確認し、報告漏れとなっている事故は直ちに報告すること。 【口頭指導事項】 1 処遇改善加算に係る賃金改善の方法については、計画書本書を用いて職員に周知すること。 2 契約金額が100万円を超える時は、契約書を作成すること。
2025. 12. 19	十勝総合振興局保健環境部	監査対象 介護老人保健施設あんじゅ音更入所・短期入所 通所リハビリテーション 訪問リハビリテーション 監査項目 実地指導	指摘事項なし

オ 事業所に関する実地指導……………実施なし

(6) 研修実施状況

ア 施設内研修(手稲ロータス)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月7日	プライバシー保護に関する研修(Web研修)	手稲ロータス全専門職員	Webにて実施	60名
5月12日	感染症の予防及びまん延防止に関する研修①(食中毒も含む)	手稲ロータス全職員	手洗いチェッカーにて(セルフチェック)	66名
7月8日	高齢者虐待防止及び身体的拘束廃止に関する研修①(Web研修)	手稲ロータス全専門職員	Webにて実施	60名
7月29日	排せつケアに関する研修	手稲ロータス介護看護職員	ユニ・チャーム株式会社 堤 理佳氏	20名
8月15日	看取り介護に関する研修(Web研修)	手稲ロータス全専門職員	Webにて実施	60名
9月23日	事故発生又は再発防止に関する研修②(Web研修)	手稲ロータス全専門職員	Webにて実施	59名
10月10日	感染症の予防及びまん延防止に関する研修①(Web研修)	手稲ロータス全専門職員	Webにて実施	59名
11月7日	BCP(自然災害・感染症)に関する研修	手稲ロータス全専門職員	Webにて実施	58名
12月12日	認知症に関する研修	手稲ロータス全専門職員	Webにて実施	59名
1月23日	褥瘡予防に関する研修	手稲ロータス全専門職員	JA北海道厚生連 札幌厚生病院 宮田 照美氏	17名
2月5日	カスタマーハラスメント対策と適切な指導の境界線	手稲ロータス全専門職員	有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木厚史氏	50名
3月11日	高齢者虐待防止及び身体的拘束廃止に関する研修②	手稲ロータス全専門職員	株式会社シムス 専務取締役 山崎加代子氏	11名
3月23日	緊急時の対応に関する研修(Web研修)	手稲ロータス全専門職員	Webにて実施	50名
合 計				629名

イ 施設内研修(手稲ロータス居宅)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月7日	プライバシー保護について	介護支援専門員	Webにて実施	4名
5月12日	感染症予防及び蔓延防止に関する研修①	介護支援専門員	特養研修広報委員	4名
7月8日	高齢者虐待防止及び身体拘束廃止について	介護支援専門員	Webにて実施	4名
7月18日	自衛消防訓練	介護支援専門員	特養研修広報委員	2名
8月15日	ハラスメント対策について	介護支援専門員	Webにて実施	4名
9月23日	事故防止について	介護支援専門員	Webにて実施	4名
10月10日	感染症対策について	介護支援専門員	Webにて実施	4名
11月7日	BCP(自然災害・感染症)について	介護支援専門員	Webにて実施	4名
12月12日	障がい者、生活困窮者、家族介護等について	介護支援専門員	Webにて実施	4名
1月13日	災害・危機に備えて	介護支援専門員	手稲ゆうゆう	4名
2月13日	事故発生又は再発防止に関する研修②	介護支援専門員	Webにて実施	4名
2月5日	カスタマーハラスメント対策と適切な指導の境界線	介護支援専門員	有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木厚史氏	4名
3月11日	虐待・身体拘束廃止について	介護支援専門員	特養研修広報委員	2名
3月26日	接遇・マナーに関する研修	介護支援専門員	手稲あんじゅ	1名
合 計				49名

ウ 施設内研修(手稲あんじゅ)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月7日	感染症の予防及び蔓延防止に関する研修①		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	65名
4月7日	業務継続計画(BCP)に関する研修～感染症～		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	58名
5月7日	事故発生又は再発防止に関する研修①		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	58名
6月1日	緊急時の対応に関する研修		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	53名
7月7日	身体的拘束廃止及び高齢者虐待防止に関する研修①		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	56名
7月16日	安全運転講習会	デイケア職員	有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木厚史氏	9名
7月29日	排せつケアに関する研修		ユニ・チャーム株式会社 ライフケアコーディネーター 堤理佳氏	19名
8月4日	介護予防及び必要介護度進行予防に関する研修	デイケア職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	12名
8月4日	倫理及び法令遵守に関する研修		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	56名
9月1日	口腔衛生管理に関する研修		札幌ファースト歯科クリニック 歯科衛生士 岩澤・龍原氏	6名
9月3日	感染症の予防及びまん延防止に関する研修②		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	53名
9月12日	腰痛予防に関する研修		全国訪問ボランティアナースの会 CANNUS キャンサス札幌代表 真鍋 智美氏	8名
9月22日	緊急時の対応に関する研修(AED使用の演習)		札幌市消防局手稲消防署防課 有馬氏	24名
9月30日	個人防護具(PPE)の着脱訓練(演習)		医療法人北光会 朝里中央病院 医療連携室 看護師 橋本昌江氏	23名
10月6日	プライバシー保護に関する研修		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	44名
10月14日	アンダーマネジメントに関する研修		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	11名
11月4日	事故発生又は再発防止に関する研修②		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	42名
11月6日	特定技能職員に対する研修		当施設職員	2名
11月19日	褥瘡予防に関する研修		JA北海道厚生連 札幌厚生病院「皮膚・排泄ケア認定看護師」宮田照美氏	25名
12月15日	業務継続計画(BCP)に関する研修～自然災害～		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	43名
1月12日	身体的拘束廃止及び高齢者虐待防止に関する研修②		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	48名
2月3日	認知症及び認知症ケアに関する研修		ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	44名
2月3日	接遇に関する研修	デイケア職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	41名
2月5日	カスタマーハラスメント対策と適切な指導の境界線		有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木厚史氏	24名
2月10日	防災の対応に関する研修(自衛消防訓練)		Web研修	11名
2月25日	防火の対応に関する研修(自衛消防訓練)		Web研修	39名
3月9日	口腔衛生管理に関する研修		札幌ファースト歯科クリニック 歯科衛生士 中井氏	9名
3月20日	防火の対応に関する研修(自衛消防訓練:夜間想定)		Web研修	36名
3月26日	接遇に関する研修		公益財団法人 介護労働安定センター北海道支部 介護能力開発アドバイザー 石井玲央氏	30名
随時	新採用職員研修	新採用職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	5名
合 計				954名

エ 施設内研修(手稲ゆうゆうGH)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月23日	2024年度事故報告・ヒヤリハット報告の分析と対策	全職員	事故防止検討委員	6名
5月19日	法令遵守について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
5月28日	ドラッグロックについて	全職員	いちご薬局佐藤薬剤師	17名
6月4日	夏の食中毒予防	全職員	管理者	17名
6月16日	認知症について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
7月14日	虐待防止と身体拘束について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
8月18日	感染症について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
9月29日	非常災害時の業務継続計画について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
11月6日	身体拘束・虐待防止について(高齢者虐待防止セルフチェックリスト)	全職員	身体拘束廃止・虐待防止対策委員会	16名
11月27日	ノロウイルス対策についてと嘔吐物の処理手順	全職員	研修委員会	5名
12月19日	緊急時の対応(救命入門講習)	全職員	手稲消防署	5名
1月13日	災害危機に備えて	全職員	研修委員会	5名
1月19日	アンガーマネジメントについて	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	16名
2月5日	カスタマーハラスメント対策と適切な指導の境界線	全職員	有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木厚史氏	16名
2月14日	身体拘束・虐待防止について(介護における傾聴)	全職員	身体拘束廃止・虐待防止対策委員会	16名
2月15日	プライバシー保護について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	16名
3月16日	事故防止について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	16名
合 計				236名

オ 施設内研修(手稲ゆうゆう通所)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月28日	接遇に関する研修	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	9名
5月19日	法令遵守について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	10名
6月16日	認知症について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	10名
7月14日	虐待防止と身体拘束について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	9名
8月18日	感染症について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	10名
10月29日	事故防止について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	10名
11月27日	ノロウイルス対策についてと嘔吐物の処理手順	全職員	研修委員会	5名
12月19日	緊急時の対応(救命入門講習)	全職員	手稲消防署	5名
2月5日	カスタマーハラスメント対策と適切な指導の境界線	全職員	有限会社オフィスブレイン	16名
2月15日	プライバシー保護について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	11名
2月18日	入浴について	全職員	管理者	8名
3月23日	BCPについて(土砂災害避難訓練)	全職員	管理者	6名
合 計				109名

カ 施設内研修(手稲ゆうゆう居宅)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月30日	BCP研修・自然災害のBCP	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
5月19日	法令遵守について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
6月16日	認知症及び認知症ケアについて	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
7月14日	虐待防止と身体拘束について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
8月18日	感染症について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
9月10日	メンタルヘルスについて	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
10月13日	接遇について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
11月27日	ノロウイルス対策についてと嘔吐物の処理手順	全職員	研修委員会	3名
12月11日	ヤングケアラーについて	全職員	介護支援専門員	3名
1月13日	災害・危機に備えて	全職員	研修委員会	2名
2月15日	プライバシー保護について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
3月16日	ターミナルケアについて	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	3名
合 計				35名

キ 施設内研修(手稲ゆうゆう訪問)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月15日	接遇について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
5月19日	法令順守	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	18名
6月16日	認知症について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	18名
7月15日	身体拘束・虐待防止について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	18名
8月18日	感染症について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	18名
9月15日	BCPについて	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
10月15日	事故防止について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
11月19日	感染症(実技)嘔吐物の処理について	全職員	研修委員	17名
12月15日	緊急時の対応について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	17名
1月15日	ハラスメント防止について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	16名
2月5日	地震土砂災害避難訓練	全職員	管理者	16名
3月15日	事故対応と再発防止について	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)	15名
合 計				204名

ク 施設内研修(音更)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月30日	感染症予防及びまん延防止のための研修	全職員	感染症予防対策委員会	46名
5月27日	ユニットケアに関する研修(事例検討会)	特養・通所職員	各担当職員	31名
6月1日	レクリエーション・リハビリテーション研修	特養・通所職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	10名
6月1日	事故防止対策研修	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	46名
6月1日	職業倫理・ハラスメント研修	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	39名
6月1日	入浴介助研修(動画視聴研修)	通所職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	16名
6月1日	認知症ケア研修	全職員	沼田部門長	24名
6月1日	身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	62名
6月15日	接遇に関する研修	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	54名
6月24日	高齢者の人権・虐待防止に関する研修	全職員	沼田部門長	30名
7月1日	認知症基礎 認知症ケア研修	特養・通所職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	28名
7月1日	業務継続計画(BCP)に関する研修～感染症～	全職員	施設向上・研修委員会	47名
7月3日	事故防止対策(医療事故・介護事故)研修	全職員	WEB研修	38名
8月1日	メンタルヘルス・アンガーマネジメント研修	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	26名
8月1日	認知症の基礎知識研修	通所職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	11名
8月15日	看取りケア研修	特養職員	WEB研修	39名
9月1日	コミュニケーション研修	特養・通所職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	29名
9月30日	認知症ケア研修	特養・通所職員	江本通所生活相談員	27名
10月1日	プライバシー保護研修	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	32名
10月30日	日中想定避難訓練/BCP研修/AED研修	全職員	防災設備業者	41名
11月17日	感染症研修	全職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	54名
12月1日	身体拘束の排除・高齢者虐待防止に関する研修	通所職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	12名
12月5日	バイタルサインについて	特養・通所職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	38名
12月6日	移乗介護の実践研修	特養・通所職員	ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修)	26名
12月23日	事故防止対策(事例検討会)研修	特養・通所職員	各担当職員	36名
1月27日	感染症予防研修(手指洗浄方法・確認とPPE着脱)	特養・通所職員	感染委員会	37名
2月5日	カスタマーハラスメント対策と適切な指導の境界線	全職員	有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木厚史氏	67名
2月26日	緊急時対応・AED実技研修	全職員	施設向上委員会、音更消防署	46名
合 計				992名

ク 施設内研修(音更町地域包括支援センターロータス音更・あんじゅ音更居宅)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
6月10日	精神疾患(Web)	介護支援専門員	長寿者機開発センター	7名
8月1～31日	認知症の基礎知識	介護支援専門員等	ジョブメドレーアカデミー	11名
9月24日	法令・倫理について	介護支援専門員	管理者	7名
12月1～31日	高齢者虐待防止について	介護支援専門員等	ジョブメドレーアカデミー	11名
1月27日	手洗い・チェッカー・PPE着脱	介護支援専門員等	感染予防対策委員会	11名
2月5日	カスタマーハラスメント対策と適切な指導の境界線	介護支援専門員等	有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木厚史氏	5名
2月26日	AED	介護支援専門員等	施設向上委員会	11名
3月25日	BCP訓練(非常災害発生時の初動について)	介護支援専門員等	管理者	11名
合 計				74名

コ 施設内研修(あんじゅ音更)

実施日	内 容	対 象 者	講 師 等	参加人数
4月15日	「虐待防止について」【動画研修】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(4月15日～4月30日の期間)	67名
5月1日	「ハラスメント研修」【動画研修】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(5月1日～5月15日の期間)	70名
6月1日	「業務継続計画(BCP)に関する研修～自然災害～」【動画研修】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(6月1日～6月15日の期間)	67名
7月1日	「感染症・食中毒の予防及び蔓延防止の研修」【動画研修】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(7月1日～7月15日の期間)	66名
7月1日	「感染症・食中毒の予防及び蔓延防止の研修」【実技訓練】	あんじゅ音更全職員	感染予防委員会(7月1日～8月30日の期間)	77名
8月1日	「事故発生又は再発防止研修」【動画視聴】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(8月1日～8月15日の期間)	65名
9月4日	「ブレデンスケールでのアセスメントを褥瘡予防に繋げる」【講義研修】	あんじゅ音更全職員	褥瘡予防委員会(9月4日)	59名
9月1日	「口腔の二大疾患について・健康寿命と口の機能について」	あんじゅ音更全職員	口腔ケア委員会(9月22日、24日、26日)	60名
9月22日	「BCP実技訓練(発電機の始動)」【実技訓練】	あんじゅ音更全職員	防災委員会(9月17日～9月30日の期間)	60名
10月1日	「褥瘡予防研修」【動画研修】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(10月1日～10月15日の期間)	67名
11月1日	「感染症・食中毒の予防・蔓延防止研修(吐物処理)」【実技訓練】	あんじゅ音更全職員	感染予防委員会(11月1日～2月28日)	71名
11月1日	「業務継続計画(BCP)に関する研修～感染症～」【動画研修】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(11月1日～11月15日の期間)	55名
12月22日	「腰痛予防研修」【実技】	あんじゅ音更全職員	リハビリ職員	5名
12月1日	「倫理及び法令遵守について」【動画研修】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(12月1日～12月15日の期間)	68名
1月1日	「身体拘束の排除・高齢者虐待防止について」【動画研修】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(1月1日～1月15日の期間)	58名
2月5日	カスタマーハラスメント対策と適切な指導の境界線	あんじゅ音更全職員	有限会社オフィスブレイン 代表取締役 佐々木厚史氏	100名
2月22日	「ストレスコーピングの基礎と実践」	あんじゅ音更全職員	虐待防止委員会	35名
2月1日	「事故発生又は再発防止について」【動画視聴】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(2月1日～2月15日の期間)	55名
3月1日	「口腔機能5つの役割について」【動画視聴】	あんじゅ音更全職員	ジョブメドレーアカデミー(3月1日～3月15日の期間)	53名
合 計				1,158名

サ 施設外研修(手稲ロータス)

実施日	内 容	受 講 者	主 催 者 等	参加事業所名	参加人数
7月16日～7月16日	ノーリフティングケアの基本知識を学ぼう	介護職員	公益財団法人テクノエイド協会	手稲ロータス	1名
9月4日～9月4日	全国老協北海道ブロック研究大会	介護職員	北海道老人福祉施設協議会	手稲ロータス	1名
10月9日～10月9日	高齢者虐待と身体拘束	介護職員	(公財)介護労働安定センター	手稲ロータス	1名
合 計					3名

シ 施設外研修(手稲ロータス居宅)

実施日	内 容	受 講 者	主 催 者 等	参加事業所名	参加人数
5月15日	パーキンソン病の知識と病気への向き合い方について	介護支援専門員	株)サンウェルズ	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
6月13日	認知症サポーター養成講座	介護支援専門員	札幌市介護支援専門員連絡協議会手稲区支部	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
7月16日	ケアプランデータ連携システムとは～導入された背景	介護支援専門員	札幌市介護支援専門員連絡協議会手稲区支部	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	4名
9月18日	ケアラー支援関係機関職員等研修	介護支援専門員	札幌市介護支援専門員連絡協議会	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
9月29日	介護支援専門員資質向上研修～利用者や家族の声をきちんと聴くために	介護支援専門員	札幌市介護支援専門員連絡協議会	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
9月8日	令和7年度北海道高齢者虐待防止推進研修会(管理者編)	介護支援専門員	北海道社会福祉協議会	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
10月15日	適切なケアマネジメント手法の活用方法	介護支援専門員	北海道介護支援専門員連絡協議会	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
10月22日	擁護者支援に焦点を置いた事例発表とグループワーク	介護支援専門員	手稲区第1・2地域包括支援センター	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	2名
11月6日	私の避難準備シート(個別避難計画) 欄瀬にかかる説明会	介護支援専門員	札幌市	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
11月27日	ACPの取り組みについて	介護支援専門員	札幌市介護支援専門員連絡協議会手稲区支部・手稲区第1・2地域包括支援センター	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	3名
12月6日	令和7年度北海道高齢者虐待防止推進研修会(現任者編)	介護支援専門員	北海道社会福祉協議会	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
2月12日	主任介護支援専門員資質向上研修会	介護支援専門員	札幌市	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	2名
3月3日	8050世帯支援を考える	介護支援専門員	手稲区第1・2地域包括支援センター・障がい相談あかり	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	2名
3月10日	ケアマネの知っておきたい終活・死後の手続き	介護支援専門員	手稲区第1・2地域包括支援センター	手稲ロータス指定居宅介護支援事業所	1名
合 計					22名

ス 施設外研修(手稲あんじゅ)

実施日	内 容	受 講 者	主 催 者 等	参加事業所名	参加人数
5月26日	安全対策担当者養成研修	副主任相談員	公益社団法人全国老人福祉施設協議会	手稲あんじゅ	2名
7月26日	安全対策担当者養成研修	リハビリ副主任	公益社団法人全国老人福祉施設協議会	手稲あんじゅ	1名
11月21日～11月22日	防火管理講習(甲種防火管理新規講習)	部門長	札幌市防災協会	手稲あんじゅ	1名
2月3日	特定給食施設等研修会	副主任管理栄養士	札幌市保健福祉局ウェルネス推進課	手稲あんじゅ	1名
2月26日～2月27日	防火管理講習(甲種防火管理新規講習)	副主任相談員	札幌市防災協会	手稲あんじゅ	1名
3月1日～3月31日	認知症介護基礎研修	特定技能職員	認知症介護研究・研修仙台センター	手稲あんじゅ	3名
3月25日	認知症ケアに関する研修(BPSDってなんだろう?)	手稲あんじゅ全職員の希望者	介護老人福祉施設 手稲ロータス	手稲あんじゅ	4名
合 計					13名

セ 施設外研修(手稲ゆうゆう居宅)

実施日	内 容	受 講 者	主 催 者 等	参加事業所名	参加人数
6月13日	認知症サポーター養成講座	全職員	札幌市ケアマネ連協手稲区支部	手稲ゆうゆう居宅	3名
9月17日	事例検討会	矢本・紅露	手稲区第2包括支援センター	手稲ゆうゆう居宅	2名
10月22日	高齢者虐待対応研修	矢本・紅露	手稲区第1・2包括支援センター	手稲ゆうゆう居宅	2名
2月12日	手稲区特有の社会資源	川合	札幌市ケアマネ連協手稲区支部	手稲ゆうゆう居宅	1名
3月3日	8050世帯支援を考える	全職員	手稲区第1・2包括支援・障害センターあかり	手稲ゆうゆう居宅	3名
合 計					11名

ソ 施設外研修(手稲ゆうゆう訪問)

実施日	内 容	受 講 者	主 催 者 等	参加事業所名	参加人数
9月29日	災害に備えた地域での支えあい研修2025年	佐藤	さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール	手稲ゆうゆうHH	1名
11月17日	市内介護事業者向け「危ない!」を知って利用者の安全を守る	佐藤	札幌市消防局予防部予防課	手稲ゆうゆうHH	1名
12月10日	「その支援大丈夫?」障がい者虐待と法的責任	佐藤	社会福祉法人札幌市社会福祉協議会	手稲ゆうゆうHH	1名
12月19日	緊急時の対応～救命入門コース	全職員	手稲消防署稲穂出張所	手稲ゆうゆうHH	11名
1月13日	災害・危機に備えて	全職員	札幌市危機管理局	手稲ゆうゆうHH	3名
2月5日	誰もが働きやすい職場を目指して	全職員	有限会社 オフィスブレイン	手稲ゆうゆうHH	10名
2月27日	『突然その日、その時』に動けるチームへ(障害)	佐藤	札幌市自立支援協議会	手稲ゆうゆうHH	1名
3月26日	調理実習(冷蔵庫にある食材で出来る調理レパートリー)	全職員	札幌市自立支援協議会	手稲ゆうゆうHH	13名
合 計					41名

タ 施設外研修(ロータス音更)

実施日	内 容	受 講 者	主 催 者 等	参加事業所名	参加人数
5月19日～月 日	2027年度介護保険制度改正の審議の動向	部門長	パナソニック介護経営セミナー	ロータス音更	1名
5月21日～月 日	『メディカルフードフェア2026	管理栄養士	トータルフーズ	ロータス音更	1名
5月22日～月 日	音更町医療・介護連携推進会議	特養・通所相談員	音更町保健福祉部高齢者福祉課	ロータス音更入所・通所	2名
6月14日～月 日	2025年度 春期全道栄養士研修大会並びに定期総会	管理栄養士	公益社団法人 北海道栄養士会	ロータス音更	1名
6月20日～月 日	あすなろクラブ連絡会	部門長・相談員	音更町保健福祉部高齢者福祉課	ロータス音更通所	2名
6月30日～7月 7日	生産性向上ビギナーセミナー	施設長・部門長・相談員	厚生労働省	ロータス音更	4名
7月25日～月 日	相談員部会研修会	相談員	十勝老人福祉施設連絡協議会	ロータス音更	1名
8月13日～9月12日	認定調査員(現任)研修会	相談員	北海道介護支援専門員協会	ロータス音更	1名
9月1日～10月30日	デイサービス部会 第1回研修会	介護職員	十勝老人福祉施設連絡協議会	ロータス音更通所	1名
9月3日～月 日	介護部会研修会	介護職員	十勝老人福祉施設連絡協議会	ロータス音更	2名
9月5日～月 日	とわ(十輪)の会 研修会	相談員	ユニ・チャーム メンリック株式会社	ロータス音更	1名
9月22日～月 日	道東三地区老協研修会	施設長・部門長・相談員	十勝老人福祉施設連絡協議会	ロータス音更	1名
9月26日～月 日	歯と口腔の健康・オーラルフレイル予防啓発事業	介護職員	十勝総合振興局保健環境部保健行政室	ロータス音更	1名
10月21日～月 日	介護保険施設及び有料老人ホームに係る集団指導	関連職種	十勝総合振興局保健環境部社会福祉課	ロータス音更入所・通所	1名
10月24日～月 日	看護部会研修会	看護職員	十勝老人福祉施設協議会	ロータス音更	1名
10月25日～月 日	医療・介護多職種連携セミナー	相談員	十勝医師会	ロータス音更通所	2名
11月25日～月 日	帯広市認定調査員研修会	相談員	帯広市	ロータス音更	1名
11月29日～月 日	音更町医療・介護連携推進会議	相談員	音更町保健福祉部高齢者福祉課	ロータス音更	1名
12月2日～月 日	科学的会議情報システム(LIFE)説明会	関連職種	厚生労働省老健局老人保健課	ロータス音更	4名
12月5日～月 日	事務部会研修会	部門長	十勝老人福祉施設連絡協議会	ロータス音更	1名

12月 9日～ 月 日	音更町 認知症地域・ケア向上事業 認知症研修	施設長	音更町保健福祉部高齢者福祉課	ロータス音更	1名
12月 18日～ 月 日	介護部会研修会	介護職員	十勝老人福祉施設協議会	ロータス音更	2名
1月 16日～ 月 日	介護実習報告・実習担当者会議	介護職員	帯広大谷短期大学	ロータス音更	2名
1月 20日～ 月 日	介護現場における生産性向上について	部門長	介護事業所生産性向上推進事業	ロータス音更	1名
1月 29日～ 月 日	多職種連携研修会	部門長・相談員	音更町医療介護連携推進会議	ロータス音更入所・通所	4名
2月 4日～ 月 日	介護実習指導研修	介護職員	帯広大谷短期大学	ロータス音更	2名
2月 5日～ 月 日	感染症対策研修	感染委員及び関係職員	北海道医師会・札幌医科大学	ロータス音更入所・通所	6名
2月 9日～ 3月 13日	介護福祉士実習指導者講習	介護職員	有限会社ホットラインワールド	ロータス音更	1名
2月 16日～ 月 日	栄養管理担当者研修会	管理栄養士	北海道帯広保健所	ロータス音更	1名
3月 2日～ 月 日	介護現場における生産性向上推進フォーラム	部門長	厚生労働省	ロータス音更	1名
合 計					51名

チ施設外研修(音更町地域包括支援センターロータス音更・あんじゅ音更居宅)

実施日	内 容	受 講 者	主 催 者 等	参加事業所名	参加人数
4月 22日～ 月 日	介護保険外サービス・高齢者虐待・SOSネットワーク	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	10名
5月 15日～ 月 日	パーキンソン病の知識と病気への向き合い方について(Web)	看護師	株式会社サンウェルズ	包括支援センター	1名
6月 10日～ 7月 11日	精神疾患(Web)	介護支援専門員	長寿社会開発センター	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	7名
6月 18日～ 月 日	事例検討会	介護支援専門員	帯広市介護支援専門員連絡協議会	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	1名
8月 18日～ 月 日	認知症の人の意思決定を支える支援について	介護支援専門員	幕別町	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	1名
9月 10日～ 月 日	災害支援ケアマネサロン(Web)	介護支援専門員	北海道介護支援専門員協会	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	2名
9月 4日～ 月 日	Alzheimer's Disease Network Conference in 道東(Web)	看護師等	エーザイ株式会社	包括支援センター	2名
9月 20日～ 月 日	音更町認知症講演会	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	8名
9月 26日～ 月 日	軽度認知障害と認知症について	管理者・看護師	医療法人社団博仁会	包括支援センター	2名
10月 17日～ 月 日	身寄りなし問題	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	10名
10月 21日～ 月 日	十勝管内地域包括支援センター等意見交換会・高齢者虐待研修	管理者	北海道	包括支援センター	1名
10月 28日～ 月 日	ケアプラン点検に係る研修会	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	8名
11月 14日～ 月 日	高齢者の運転について	介護支援専門員	幕別町	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	2名
11月 14日～ 月 日	帯広市給付適正化ケアプラン点検	介護支援専門員	帯広市	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	2名
11月 20日～ 月 日	介護予防ケアマネジメント従事者研修	介護支援専門員等	北海道	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	1名
11月 26日～ 月 日	音更町医療介護講演会	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	7名
12月 1日～ 12月 31日	認定調査員(現任)研修(Web)	介護支援専門員等	北海道	包括・居宅	11名
12月 15日～ 月 日	高齢者の権利擁護と虐待防止(Web)	社会福祉士	北海道	包括支援センター	1名
12月 16日～ 月 日	交流会	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	11名
12月 27日～ 2月 27日	音更町認知症地域支援・ケア向上事業研修(Web配信)	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	13名
1月 14日～ 月 日	医療系サービスとの連携	介護支援専門員	帯広市介護支援専門員連絡協議会	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	1名
1月 21日～ 月 日	地域包括支援センター職員研修【現任研修】	看護師	北海道	包括支援センター	1名
1月 29日～ 月 日	多職種連携研修会	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	11名
2月 24日～ 月 日	事例検討会	介護支援専門員等	音更町	包括・居宅	11名
3月 11日～ 月 日	適切なケアマネジメント手法	介護支援専門員	幕別町	あんじゅ音更居宅介護支援事業所	3名
合 計					128名

ツ 施設外研修(あんじゅ音更)

実施日	内 容	受 講 者	主 催 者 等	参加事業所名	参加人数
5月 19日・ 5月 24日	介護・保育施設の感染症対策研修【オンライン】	介護職員・リハビリ職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	3名
5月 21日	食と医療の展示会 講演会	管理栄養士	公益社団法人北海道栄養士会	あんじゅ音更	1名
6月 14日・ 6月 19日	高齢者・障がい者虐待防止セミナー【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	2名
6月 23日・ 6月 30日	認知症ケア特別研修B 食事ケア【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	2名
6月 30日	接遇・マナー基礎研修【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
6月 30日	生産性向上レクチャーセミナー【オンライン】	統括主任・リハビリ主任	厚生労働省	あんじゅ音更	2名
7月 2日・ 8月 9日	新任介護職員研修⑥帯広【集合・オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
7月 3日・ 7月 14日	介護職員専門研修Ⅱ【集合・オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
7月 3日・ 8月 2日	介護職員専門研修Ⅱ【集合・オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
7月 30日～ 7月 31日	福祉専門職のためのキャリアアップ研修(初任者)【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
8月 15日	介護職員等のための医療基礎知識講座【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
8月 16日	摂食嚥下ケア研修【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
8月 22日・ 9月 10日	介護職員専門研修Ⅰ【集合・オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
8月 22日・ 9月 13日	介護職員専門研修Ⅱ【集合・オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
9月 3日～ 9月 4日	福祉専門職のためのキャリアアップ研修(チームリーダー)【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
9月 20日・ 9月 27日	認知症ケア特別研修A 自立支援【オンライン】	介護副主任・介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	4名
9月 30日～ 10月 1日	福祉専門職のためのキャリアアップ研修(中堅職員)【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
11月 14日	ファシリテーション技術向上研修【オンライン】	介護主任	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
12月 19日	介護施設のためのACP研修【オンライン】	介護主任	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
1月 5日	職場のハラスメント対策・防止研修【オンライン】	主任相談員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
1月 16日	エルダー・メンター制度導入支援研修【オンライン】	介護職員	北海道社会福祉協議会	あんじゅ音更	1名
合 計					29名

手 稲 口 一 夕 会 法 人 本 部 事 務 局

1 重点推進課題の実施報告

法人本部事務局

法人経営を安定なものにするため、拠点間の連携及び協力体制の強化に努める。

《重点推進課題》

1. 雇用の安定化と人材育成のための職員研修の基本計画作成

《中期経営計画(4)》

介護従事者の雇用状況が厳しさを増す中、新卒者や外国人労働者の受入体制を強化安定した法人施設の運営を目指す。

また、現在、事業所ごとに計画・実施している職員研修を(1)階層別研修(2)法定研修(3)専門職研修(4)その他の研修(5)自己啓発研修に分け、より効果的な研修が受講・習得できる体制をつくることで、サービスの質の向上を目指す。

【指標・評価方法】

昨年度制定した奨学金制度の広報に力を入れる他、新卒の就職希望者向けにPRを行う。また、外国人労働者の安定した雇用継続及び新規外国人雇用に伴う環境を整備し、更なる外国人労働者の増員を検討する。

研修企画会議を定期的に行い、研修項目、内容の調整、評価・意見等を考慮し適宜研修計画の見直しを行う。

【結果】

介護系の学科を持つ高等学校や専門学校への訪問を行い、新卒採用者へ施設見学会案内を計画したが参加希望者はいなかった。しかし、音更事業所の研修等の繋がりから、今年度は帯広大谷の学生2名が新卒採用試験を受験し、老健音更において採用した。

特定技能外国人採用においては、老健手稲において、新たに2名のインドネシア人を採用した。研修計画の策定が遅れたことから研修企画会議にまでは至らなかった。来年度は計画をまとめ、効果的な計画の推進にむけて企画会議を立ち上げたい。

2. 組織体制の在り方と建築保全計画の策定着手 《中期経営計画（5）（6）（7）》

中期経営計画（後期）のスタートに際し、本部事務局の業務のあり方と共に責任ある事業所運営に当たれる体制作りのための人材の適切な運用と雇用の安定化を進める。

また、老朽化する施設の長期的な維持を目指して建築保全計画の策定に着手、財政基盤の安定化を目指す。

【指標・評価方法】

本部事務局の業務整理と業務内容の明確化を進める。

人事評価制度を活用し、人材の運用基準を明確化する。

将来に向けた施設の長寿命化や保全の在り方の計画に着手し、検討を進める。

【結果】

法人本部事務局次長が交代したことにより、改めて業務内容の課題整理を始めている。2026年度には共通事務の役割分担等を進めていきたい。

人事評価要領及び上位管理職の人事評価要領を改正し運用を実施した。新たな人事評価制度を有効に活用して、安定した事業所の体制づくりに努めてまいりたい。

2025年度に施設の耐力度調査費用の見積もりを実施した。また、老朽化している施設の現状を確認し、今後予測される大規模修繕に向けた検討を開始したが、介護サービスの維持に欠かせない当面の設備・備品の更新等が優先されることから、計画の具体化にまでは至っていない。

特 養 手 稻

介護老人福祉施設 手稲口一タス

1. 重点推進課題の実施報告

介護老人福祉施設 手稲ロータス

入居者の皆様が安心して笑顔で過ごせるよう、快適で安全な生活環境づくりを大切にしていけます。

そのために、職員が笑顔で働ける環境を整え、入居者の皆様や家族の皆様へ笑顔の還元ができる体制づくりを目指します。

また、ご家族に安心と信頼を持っていただけるよう、情報共有の強化やケアプランの充実を進めます。特に、何か不都合な点があっても職員間で解決できる職員のスキル向上とチームワークの強化に努め、入居者皆様の尊厳を守りながら個別のニーズに応じた支援を行います。

《重点推進課題》

1. 職員の働きやすい環境を整備し、入居者皆様の笑顔を生み出す

《中期経営計画（1）（2）（4）》

とかく入居者皆様への処遇向上を目指す観点から、対象者ばかりに視点にあてがちな部分をあえて、職員（特に直接処遇職員である介護職員）に視点をあて、とりまく労働環境の整備を行うことで、入居者の皆様に還元されることは大きいのではないかと考える。

現状で整っていることも多くあるが、更に働きやすい環境を整備することで、ストレスの軽減やアンガーマネジメント、介護事故の低減、更には決して起こしてはいけない虐待の防止といった効果が発揮され、入居者の皆様にとって、優しい介護や余暇活動への取り組みが大きく飛躍するのではないかと考える。また、事業の効率化を目指すことで、労働者と経営者にとって双方に利点を生み出すことも考えられることから、職員にとって働きやすく、求職者にとって魅力的で、応募が絶えない職場作りを目指す。

【指標・評価方法】

- ① 常勤介護職員の自己都合による離職率 10%以下を目指す。
- ② 定時出退勤を目指し、超過勤務の低減を図る。
- ③ 一人当たりの有給休暇取得率 50%以上を目指す。
- ④ 適正な職員配置と安定確保を行う。
- ⑤ 夜勤時の安定した休憩時間の確保を行う。

【結果】

- ① 離職率は目標値には達しなかったが、退職理由の多くは家族都合や疾病、高齢化など、やむを得ない事情がほとんどだった。一方、年間常勤5名の新規採用につながり、職員体制の維持・強化を図ることができた。今後も働きやすい環境整備と定着支援に努め、安定した職員確保につなげていく。
- ② 超過勤務については、昨年同期と比較し大幅に低減しており、労働環境の改善が進んでいると考える。一方で、人員増加による人件費の上昇は課題として挙げられる。また、退職による一時的な欠員発生時には、時間外勤務が増加する傾向が見られたことから、継続的な採用活動と早期定着に取り組み、安定した勤務体制の構築を目

指す。

- ③ 年間付与日数からの算出については、72.4%。付与累計日数からの算出については、多くなっている職員もいるため、44.1%となった。有給休暇の取得促進には、安定した人員配置が大きく影響することから、計画的な採用と職員定着に重点を置きながら、休暇を取得しやすい環境整備を進める。
- ④ 職員配置については、必要な人員確保を進めながら、業務負担の軽減に努めた。欠員時には既存職員への負担が増加する場面もあったが、各フロア間で協力しながら対応を行った。今後も安定した人員確保と、働きやすい職場環境づくりを継続する。
- ⑤ 昨年 7 月から、夜勤体制を4名体制から 6 名体制へ増員し、夜勤職員の負担軽減を図った。その後、日勤帯に新たな課題が生じたため、5 名体制へ調整を行い、アンケート結果も踏まえながら、2 月より本格運用を開始。感染症対応等による急な欠勤もあり、毎回安定した休憩確保には至っていないが、夜勤職員からは「休息が取れる」「緊急時も安心できる」との声が多く聞かれた。今後は安定した運用と定着を目指していく。

2. ご家族の信頼を得るための情報共有の強化 《中期経営計画（1）（2）》

ご家族の安心と満足度を高めるため、入居者皆様の生活の様子を適切に共有し、意見を反映したケアを行う。SNS の活用や面会・行事の充実を図り、入居者皆様とご家族がより良い時間を過ごせるよう支援する。

【指標・評価方法】

- ① SNS を活用し、入居者皆様の日常の様子を月に 2 回以上発信する。
- ② ご家族参加の行事を定期的に企画・実施する。
- ③ ご家族からの意見・要望を収集し、ケアプランの見直しに活用する。
- ④ ご家族向けアンケートを実施し、信頼度や満足度の向上を図る。

【結果】

- ① Instagram、Facebook、ホームページを活用し、行事や日常生活の様子を随時発信した。発信業務を主に 1 名で対応していることから、一部更新が遅れる場面も見られたが、概ね計画通り実施できている。Instagram のフォロワー数は昨年 4 月比で 126 件増の 659 件となり、施設活動への関心向上につながった。一方、Facebook は 3 件増の 40 件に留まっており、発信方法の工夫が課題である。
- ② 夏まつりや敬老祝賀会を実施し、多くのご家族に参加いただくことができた。また、個別外出にも取り組み、入居者様とご家族と一緒に過ごせる機会の確保に努めた。行事を通じて、ご家族との交流や安心感の向上につながった。
- ③ ケアプランの長期目標満了前に、ご家族から意見や要望を伺い、サービス担当者会議にて多職種で協議を行いながら内容の見直しを実施した。情報共有については、書面や SNS（フォーム）、面会時等を活用しながら対応した。日常的なやり取りや行事後の振り返りを通じて、ご家族の声をケアへ反映する体制づくりに努めた。
- ④ 昨年 11 月にご家族向けアンケートを実施し、回答率は 61.7%（55 名）であった。ご

家族から寄せられた意見や要望は、施設運営やケアの質向上に向けた貴重な意見として受け止めている。すべてを一度に改善することは難しいものの、できることから一つずつ取り組みを進め、入居様が安心して生活できる環境づくりと、ご家族から信頼される施設運営に努めた。

2 介護老人福祉施設・(介護予防)短期入所生活介護の運営

(1) 施設の開設

第一種社会福祉事業としての特別養護老人ホームの設置については、老人福祉法第15条第3項に基づき、平成元年5月15日付で札幌市長に対し設置許可申請を行い、平成元年5月26日付（札老第188号指令）で許可を受け、平成元年6月1日付で、「老人ホーム事業開始届」を札幌市に提出し受理された。

平成12年4月1日の介護保険法施行に伴い、介護老人福祉施設を開設した。

平成18年4月1日より介護保険制度の改正に伴い、居宅系サービスについては予防事業を開設した。

令和元年5月1日からの新築移転に伴い、ユニット型介護老人福祉施設に転換するとともに、前日である平成31年4月30日をもって、通所介護事業を切り離した。

概要は、次のとおり

施設 の 名 称	介護老人福祉施設 手稲ロータス
施設 の 所 在 地	札幌市手稲区稲穂3条6丁目7番5号
施設 の 種 類	介護老人福祉施設 (介護予防)短期入所生活介護
入 所 定 員	80名(うちショートステイ定員10名・併設型・空床型)

(2) 施設職員の配置状況

2026.3.31現在

		施 設 長	医 師	事 務 員	生 活 相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	管 理 栄 養 士	介 護 支 援 専 門 員	機 能 訓 練 指 導 員	用 務 員	介 助 員	夜 間 警 備 員	調 理 員	計
入 所	基準数 (人)	1	1 ①		1	25	3	1	1	1					34 ①
	現員 (人)	1	1 ①	2	2	45 ⑧	6 ③	1	4 (3)	1	2 ②	3 ③	3 ③	委 託	71 ⑳

* ()は兼務。○は非常勤の内数。

(3) 行事实施状況表

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	誕生日毎	誕生日会	施設内	4名
5月	誕生日毎	誕生日会	施設内	2名
	28(水)	買い物外出(4階)	山ロイオン	2名
	29(木)	個別外出(5階)	小樽、山ロイオン等	1名
6月	誕生日毎	誕生日会	施設内	2名
	6(金)	開設記念行事(全フロア)	施設内	80名
	13(金)	みんなで笑顔に！居酒屋レクリエーション(全フロア)	施設内	79名
7月	誕生日毎	誕生日会	施設内	8名
8月	誕生日毎	誕生日会	施設内	6名
	8(金)	夏まつり(全フロア)	施設内	79名
9月	誕生日毎	誕生日会	施設内	8名
	2(火)	個別外出(2階)	入居者自宅	1名
	5(金)	じゃがいも収穫祭	施設内	1名
	12(金)	手稲ロータス敬老祝賀会(全フロア)	施設内	78名
	16(火)	個別外出(4階)	小樽市	2名
	26(金)	個別外出(3階)	西洋美術館(小樽市)	1名
10月	誕生日毎	誕生日会	施設内	9名
	8(水)	個別外出(4階)	吉山商店	1名
	9(木)	個別外出(2階)	花まる(回転ずし)	1名
	23(木)	個別外出(4階)	手稲ハイランド	1名
11月	誕生日毎	誕生日会	施設内	4名
	20(木)	外出行事(5階)	入居者自宅	1名
12月	誕生日毎	誕生日会	施設内	6名
	25(木)	クリスマス・忘年会(全フロア)	施設内	78名
	26(金)	餅つき会(全フロア)	施設内	78名
1月	誕生日毎	誕生日会	施設内	14名
2月	誕生日毎	誕生日会	施設内	2名
	2(火)	節分(全フロア)	施設内	74名
3月	誕生日毎	誕生日会	施設内	6名
合計				629名

(4)利用者の状況

ア. 年齢別構成状況(人)

	未満	65	70	75	80	85	90	95	合計	最低年齢	最高年齢	平均年齢	前年平均
	5	5	5	5	5	5	5	以上					
男	0	1	1	2	3	1	4	1	13	66	99	82.8	82.5
女	0	2	2	4	9	11	16	11	55	69	100	88.0	88.6
計	0	3	3	6	12	12	20	12	68			83.1	85.0

イ. 要介護度別利用者状況(延べ人数)

性別	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計	平均	前年平均
男	0	0	2,002	2,015	1,681	5,698	3.94	4.15
女	49	0	4,235	7,243	7,110	18,637	4.14	4.13
計	49	0	6,237	9,258	8,791	24,335	4.09	4.14

ウ. 介護保険者別構成状況(人)

	札幌市					小樽市	旭川市	その他	合計
	手稲区	西区	白石区	北区	中央区				
男	12	1	0	0	0	0	0	0	13
女	38	6	1	1	1	6	1	1	55
計	50	7	1	1	1	6	1	1	68

エ. 入所者所得段階

	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	合計
男	0	0	4	9	13
女	1	9	26	19	55
計	1	9	30	28	68

オ. 健康保険加入状況(人)

	後期高齢者医療制度	国民健康保険	社会保険	組合健康保険	生活保護	合計
男	10	3	0	0	0	13
女	51	3	0	0	1	55
計	61	6	0	0	1	68

カ. 在所者利用期間別構成状況(人)

	1年未満	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	10年以上	合計
男	3	2	1	1	1	1	2	1	0	0	1	13
女	19	7	7	3	1	7	5	2	2	0	2	55
計	22	9	8	4	2	8	7	3	2	0	3	68

キ. 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	合計
男	0	0	0	2	3	4	2	0	2	13
女	0	0	0	6	9	7	27	2	4	55
計	0	0	0	8	12	11	29	2	6	68

ク. 認知症高齢者の日常生活自立度

	自立	I	II a	II b	III a	III b	IV	M	合計
男	0	1	1	4	5	0	1	1	13
女	1	2	3	10	20	5	14	0	55
計	1	3	4	14	25	5	15	1	68

ケ. 通院状況(延人数)

	内科	精神科	循環器科	呼吸器科	外科	整形外科	形成外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻科	肛門科	合計
男	8	2	1	0	0	1	0	8	4	19		0	0	0	43
女	13	2	9	0	1	14	0	15	11	3	0	4	1	0	73
計	21	4	10	0	1	15	0	23	15	22	0	4	1	0	116

(重複掲載)

コ. 往診状況(延人数)

	内科	歯科	眼科	皮膚科	精神科	合計
男	252	51	0	0	24	327
女	588	184	0	0	396	1,168
計	840	235	0	0	420	1,495

(重複掲載)

サ. 機能訓練実施状況(延人数)

内 容	可 動 域 訓 練	筋 力 強 化	平 行 棒 内 歩 行 訓 練	平 行 棒 内 立 位 訓 練	杖 歩 行 訓 練	歩 行 器 歩 行 訓 練	立 ち 上 が り 訓 練	立 位 保 持 訓 練	ホ ッ ト パ ッ ク	体 操	立 位 バ ラ ン ス	介 助 歩 行 訓 練	独 歩	合 計
男	411	271	0	11	0	78	284	241	0	0	0	0	48	1,344
女	453	318	32	26	47	92	671	492	0	0	25	67	53	2,276
計	864	589	32	37	47	170	955	733	0	0	25	67	101	3,620

シ. 入所・短期利用状況

利用 状 況		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
		目数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	
入所利用延人数		2,015	2,111	2,040	2,148	2,140	2,004	1,990	1,919	2,003	1,998	1,873	2,094	24,335	24,834
短期利用延人数		271	296	266	221	243	284	343	344	292	304	246	284	3,394	3,374
1日平均人数		76.20	77.65	76.87	76.42	76.87	76.27	75.26	75.43	74.03	74.26	75.68	76.71	75.97	77.28
入所率(%)		95.25	97.06	96.08	95.52	96.09	95.33	94.07	94.29	92.54	92.82	94.60	95.89	94.96	96.60

ス. 入退所状況(人)

入 所		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
		家庭	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	
病院	2	2	0	1	0	0	1	1	1	2	3	2	15	4	
他施設	0	1	1	1	0	2	1	0	1	0	0	0	7	2	
合計		2	4	1	2	0	2	2	2	3	2	3	26	10	
退 所	家庭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病院	3	0	0	1	1	2	3	3	0	1	1	2	17	5
	他施設	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	死亡	2	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	9	5
	合計	5	1	0	1	1	3	4	4	4	1	2	2	27	10

セ. 入所待機者状況(人)

	要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男	0	0	0	0	5	3	1	9
女	0	0	0	0	2	4	3	9
計	0	0	0	0	7	7	4	18

ソ. 入所者・利用者減免状況

	入所減免額			(予防)短期減免額			合計 (円)
	通常減免		1件当平均 (円)	通常減免		1件当平均 (円)	
	件数	金額(円)		件数	金額(円)		
4月	8	182,875	22,859	1	27,340	27,340	210,215
5月	9	183,518	20,391	1	28,354	28,354	211,872
6月	9	181,911	20,212	1	11,588	11,588	193,499
7月	9	187,963	20,885	1	7,030	7,030	194,993
8月	9	193,812	21,535	1	10,285	10,285	204,097
9月	8	157,497	19,687	1	15,426	15,426	172,923
10月	7	154,715	22,102	1	15,319	15,319	170,034
11月	7	145,827	20,832	1	10,231	10,231	156,058
12月	7	136,409	19,487	1	13,659	13,659	150,068
1月	7	146,029	20,861	1	13,659	13,659	159,688
2月	7	126,900	18,129	1	10,285	10,285	137,185
3月	6	120,085	20,014	1	14,489	14,489	134,574
合計	93	1,917,541	20,619	12	177,665	14,805	2,095,206

(5) 苦情受付件数と主な内容

3 件				
部門	苦情申出者	内 容	第3者委員等の報告	結果
入所	外部者	早朝、夜間警備員が外部者からの折返し電話を受け、介護主任が対応。施設からの誤発信により留守電へ折返し依頼を残していたことが判明、不快感を示されたため謝罪。 対応策 ⇒ 看護職員による医師連絡時の番号誤入力。当該事案について関係職員へ周知・指導を実施。再発防止策として医務室固定電話に医師の短縮番号を登録し、今後は短縮発信の徹底により誤発信防止を図ることとした。	無	解決
入所	入居者ご家族 (長女)	面会時、顔の変色について、虐待の可能性を指摘され不信感を示された。事前説明がなく、強い不安を招いたため、謝罪のうえ事実確認を行い、後日説明する旨を伝えた。 対応策 ⇒ 関係職員への聞き取り等により介助時の影響による可能性が高いと判断。ご家族へ経過説明と謝罪を行い理解を得た。今後は異変発見時の速やかな情報共有と事前説明の徹底を図ることとした。	無	解決
短期入所	利用者ご家族 (次女および次女の未婚のパートナー)	家族来所時、受診時の防寒配慮不足、送迎時の介助対応、服薬準備、洗濯・衣類管理、居室環境整備の不備等について強い不満の申し出があった。謝罪のうえ事実確認後、改めて説明する旨を伝えた。 対応策 ⇒ 関係職員間で情報共有を行い、各対応の事実確認および判断経緯を整理。ご家族へ謝罪と説明を実施し理解を得たため、今後の接遇・ケア体制の改善を図ることで対応完了とした。	無	解決

(6) 介護事故件数

重大事故 (行政報告)		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	1	13	8	4	3	2	1	0	0	2	0	3	37
	短期	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	合計	4	15	9	4	3	2	1	0	0	2	0	3	43

事故 (施設内処理)		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	0	1	27	4	4	9	0	0	0	1	0	5	51
	短期	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	合計	1	1	28	4	5	9	0	0	0	1	0	5	54

ヒヤリ ハット		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	13	7	79	25	142	28	6	0	0	3	1	6	310
	短期	1	5	26	4	17	1	1	0	0	0	0	4	59
	合計	14	12	105	29	159	29	7	0	0	3	1	10	369

(7) 慰問・ボランティア状況

	名 前	内 容	来 所 日	延べ人数
理美容	ヘアースタジオ310	理美容	毎月第1・3火曜日	371 名
その他				
合 計			延べ人数(団体)	0 名
			〃 (個人)	371 名
			〃 合計	371 名

(8) 実習生受入れ状況

受入期間	人 数	受入日数	延べ人数	学 校 名	学 部 ・ 学 科	実 習 内 容
2025 . 4 . 9 ~ 2025 . 4 . 9	3	1	3	北海道公立大学法人札幌医科大学	保健医療学部	施設内実習
合 計	3	1	3			

(9) 地域における公益的な取組(事例について自由記述)

町内会資源回収へ協力 町内会定期総会を地域交流スペースにて開催 町内会役員会に参加 施設の広報誌を回覧板に掲載 自動販売機売り上げに関する一部寄付(日本財団チャリティー)

手稲口一タス 指定居宅介護支援事業所

1. 重点推進課題の実施報告

手稲ロータス指定居宅介護支援事業所

利用者の皆様とケアラーであるご家族の背景は多様であるため、それぞれに適したケアマネジメントが提供されるように、専門性の向上を目指します。また、事業所の運営をさらに安定させ、継続的なサービスの提供を実現します。

《重点推進課題》

1. 人材育成と職場環境の整備

《中期経営計画（1）（4）》

3名の主任介護支援専門員が様々な景観を生かし、多様な視点で支援を行う。多様な角度からアプローチすることで、互いにスキルを高める他、更に介護支援専門員の育成に力を注いでいく。また働きやすい環境を整え、質の高いケアマネジメントを提供する体制を構築する。

【指標・評価方法】

- ① 介護支援専門員の採用。
- ② 介護支援専門員の育成。
- ③ 介護支援専門員実習の受入れ。
- ④ 依頼担当ケースの積極的な受入れ。

【結果】

- ① 介護支援専門員1名の採用ができた。
- ② 採用した1名の介護支援専門員に主任介護支援専門員3名、それぞれの幅広い観点から指導・助言を行った。
- ③ 介護支援専門員実習生を1名受け入れることができた。
- ④ 病院や地域包括支援センター、地域住民からの依頼や問い合わせに対し、新規利用につながる相談を積極的に受け入れてきた。

2. 適切なケアマネジメントの実施

《中期経営計画（1）（2）》

適切なケアマネジメントを実施するため、専門職としてのスキルアップを図るとともに、サービス事業者や地域包括支援センター、医療機関など関係機関との連携を強化する。

【指標・評価方法】

- ① 年間計画に基づき、研修参加するとともに、地域包括支援センターや介護支援専門員連絡協議会、関係機関が主催する研修を積極的に受講する。
- ② 利用者の皆様を通じた医療・介護事業者とのカンファレンスや研修、会議へ積極的に参加し、関係機関との連携を強化する。
- ③ 利用者の皆様や地域に不足しているサービスを把握し、社会資源の発掘・開発に取り組む。具体的には、認知症カフェの開催などの企画を検討する。

【結果】

- ① 年間計画に基づき、実施される研修の他、地域包括支援センター等の関係機関が主催する研修にも積極的に参加し、居宅会議の場において伝達研修を行った。
- ② 病院で開かれる退院時カンファレンスや退院前の家屋調査への同席のほか、カンファレンスの参加依頼など、積極的に行った。また、地域包括支援センター主催の事例検討会に参加し、顔の見える関係作りに努めた。
- ③ 社会福祉協議会で行っている社会資源の情報収集、社会資源をテーマにした研修会への参加、認知症カフェの見学を通し社会資源について学んだが、地域に不足しているサービスの把握や社会資源の発掘・開発までつなげることはできなかった。今後も引き続き社会資源の視点を持ちながら支援していきたい。

3. 安定した運営の持続

《中期経営計画 (1)(2)(3)》

安定した運営を継続できるよう、業務改善によって生まれた時間を活用し、先を見据えた行動を行い、継続的な相談対応を実現する。

【指標・評価方法】

- ① 業務の効率化や業務量の見直しを行い、半年に1回の評価を実施する。
- ② 業務改善の提案を随時協議し、効果が期待できる取り組みは積極的に導入し、評価を行いながら次の改善策へつなげる。
- ③ 地域住民の皆様には居宅介護支援事業所の存在を認知してもらうため、介護相談会などの企画を検討し、新規相談の受け入れを増やし、担当件数の拡充につなげる。

【結果】

- ① 半年に1回の定期的な評価はできなかったが、都度、良いアイデアを出し合い、業務の効率化について話し合いを行った。
- ② 他法人との勉強会に参加し、AIを業務に活かす方法を学び、その方法をチラシ作りに活用し、これまで作成に費やしてきた時間を短縮できた。
- ③ 手稲ふれあいフェスティバルや「認知症語ろう会」への参加を通して地域との接点を持ち、事業所を知っていただく機会をもってきたが、そのことが直接新規相談に繋がることはなかった。今後も、地域との接点を持てるように少しずつ取り組んでいきたい。

2 居宅介護支援の運営

(1) 事業所の開設

居宅介護支援事業所の設置については、令和2年7月22日付で札幌市長に対し指定許可申請を行い、令和2年9月1日付けで、介護老人福祉施設手稲ロータスの併設事業として開設した。

概要は、次のとおり

施設 の 名 称 手稲ロータス指定居宅介護支援事業所
施設 の 所 在 地 札幌市手稲区稲穂3条6丁目7番5号
施設 の 種 類 居宅介護支援事業所

(2) 施設職員の配置状況 2026.03.31現在

		管 理 者	主任 介護 支援 専門 員	介 護 支 援 専 門 員	計
居 宅	現 員 (人)	1 (1)	2 (0)	1 (0)	4 (1)

※1 ()は兼務。○は非常勤の内数。

※2 基準配置については標記困難な為、現員についてのみ掲載。

(3) 居宅介護支援事業所 相談実件数及び相談内容

電話	来所	訪問	合計
1,920 件	24 件	1,680 件	3,624 件

介護保険関係						合計
制度全般	認定申請	在宅サービス	施設サービス	保険・利用料等	相談・苦情	
96 件	48 件	960 件	98 件	8 件	144 件	1,354 件

地域・福祉・医療関係						合計
高齢者福祉	障害制度	通院・入退院	介護予防	地域支援	その他	
0 件	8 件	94 件	12 件	0 件	70 件	184 件

(重複掲載)

(4) 介護度別 居宅介護サービス計画作成状況

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	前年合計
4月	0.0 件	2.6 件	5.3 件	63 件	31 件	13 件	7 件	3 件	124.9 件	109.0 件
5月	0.0 件	2.6 件	5.3 件	63 件	31 件	15 件	8 件	2 件	126.9 件	112.7 件
6月	0.0 件	2.0 件	6.6 件	61 件	29 件	17 件	7 件	2 件	124.6 件	113.7 件
7月	0.0 件	2.3 件	6.3 件	59 件	30 件	14 件	6 件	3 件	120.6 件	122.0 件
8月	0.0 件	2.3 件	6.3 件	58 件	31 件	12 件	6 件	2 件	117.6 件	122.3 件
9月	0.0 件	2.6 件	6.3 件	59 件	34 件	14 件	7 件	2 件	124.9 件	124.7 件
10月	0.0 件	2.6 件	6.3 件	58 件	38 件	15 件	8 件	4 件	131.9 件	121.3 件
11月	0.0 件	2.6 件	5.3 件	63 件	39 件	13 件	7 件	3 件	132.9 件	120.3 件
12月	0.0 件	3.0 件	5.6 件	66 件	38 件	11 件	7 件	3 件	133.6 件	121.3 件
1月	0.0 件	3.3 件	6.3 件	68 件	41 件	15 件	5 件	4 件	142.6 件	115.7 件
2月	0.0 件	3.3 件	6.0 件	67 件	42 件	16 件	5 件	4 件	143.3 件	114.4 件
3月	0.0 件	3.6 件	6.3 件	68 件	41 件	14 件	8 件	4 件	144.9 件	116.7 件
合計	0 件	33 件	72 件	753 件	425 件	169 件	81 件	36 件	1,569 件	1,414 件

(5) 苦情受付件数と主な内容

0 件					
部門	苦情申出者	内 容		第3者委員等の報告	結果
居宅		対応策 ⇒ ()			

(6) 介護事故件数

	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
居 宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※事故に至っていない「ヒヤリ・ハット」を含む件数を計上しております。

(重複掲載)

(7) 地域における公益的な取組

手稲ふれあいフェスティバル参加 「認知症語ろう会」参加	
--------------------------------	--

老 健 手 稻

介護老人保健施設 手稲あんじゅ
手稲あんじゅ(介護予防)通所リハビリテーション事業所
手稲あんじゅ(介護予防)訪問リハビリテーション事業所

1 重点推進課題の実施報告

介護老人保健施設 手稲あんじゅ

入所(利用)者様の尊厳を守り、人とのつながりを大切にしながら安心して過ごせる環境を提供することで、生活に彩りが創出できるよう、交流機会の拡充、多職種連携の強化、業務効率化を進める。また、職員の育成を計画的に推進し、研修制度の充実やリーダーシップの育成により、質の高いケアの実現を目指す。さらに、ご家族との情報共有を強化し、充実した在宅復帰支援を推進するために、オンラインツールの活用や相談体制の強化を図り、安心できる環境を提供する。

《重点推進課題》

1 尊厳を守り、つながりを育む、安心と彩りのある環境を提供する

《中期経営計画(1)》

入所(利用)者様一人ひとりの尊厳を常に尊重し、意思表示が難しくなった場合でも、これまで大切にしてきた生活や希望を実現できるとともに、入所(利用)者様が人とのつながりから、安心して自分らしく過ごせる環境で彩り豊かな日々を送れるよう支援する。さらに、生産性向上を図る取組みを進め、ケアサービスの質の向上と介護量の効率化を実現し、より安全で快適な生活環境を提供する。

【指標・評価方法】

安心して自分らしく過ごせる環境を整えるために、日々のアセスメントを通じて生活の希望や課題を把握し、カンファレンスを活用して多職種によるチームアプローチを推進し、具体的な支援方法を検討・実践する。また、入所前の個別ヒアリングを徹底し、生活歴や価値観を個別支援計画に反映することで、個別性の高い支援を実現し、スムーズな生活適応を支援する。さらに、季節ごとの行事の提供に加え、日常的なレクリエーションの実施や入所(利用)者様とご家族との直接の面会方法の見直しを進め、入所(利用)者様同士やご家族との交流機会を増やすことで、入所(利用)者様が『つながり』を実感し、生活に喜びと安心感をもたらす。

加えて、業務の効率化を図りながら、職員が入所(利用)者様と向き合う時間を確保するため、業務分担を再構築するとともに職種間の申し送りの簡略化を進める。

さらには、生活環境の安全性を確保するために、ヒヤリ・ハット事例を集積・分析し、迅速な環境整備や改善に努めるとともに、褥瘡予防マットレスや自動除圧式クッションの活用を促進し、快適な生活環境作りを推進する。

【結果】

移動用具の適正な選定と活用を進めることで、入所(利用)者様の安全・安楽の確保と職員の介護負担軽減を実現した。具体的には、トランスボードやスライディングボード等の福祉用具を活用し、個々の状態に応じた用具の選定を行うとともに、車いすや歩行器等の移動用具についても見直しを行った。さらに、各専門職種での協議を重ね、実技研修を通じて技術の習得を推進した結果、生活環境の質の向上につなげた。

また、各専門職によるモニタリング結果を踏まえたカンファレンスの充実により、重症化予防や自立支援の達成に向けた個別性の高いケアプランの作成が可能となった。あわせて、専門職の視点を生かした事故防止及び褥瘡予防に資する環境調整を推進し、快適な生活環境の整備を進めた。

さらに、各部署からの応援体制を活用することで行事内容の充実を図るとともに、入所(利用)者様とご家族の面会頻度等の拡大を図り、交流機会の増加に努めた。これにより、入所(利用)者様が生活に喜びや安心感を持って過ごせる環境の提供につなげた。

一方で、体操やレクリエーション等の活動については、継続的に実施できる体制の構築には至らなかったため、来年度に向けた継続課題とする。

生産性向上に向けた取組としては、専門職以外でも対応可能な業務の整理を進め、ケアに充てる時間の確保に努めた。加えて、議事録や記録作成、介護職員の勤務表作成に関するアプリケーションの導入など、AIを活用した業務効率化にも積極的に取り組んだ。

2 安心のケアを支える職員の成長

《中期経営計画(4)》

入所(利用)者様が安心して過ごせる安定したサービスを提供するため、人材の計画的育成を推進する。職員一人ひとりが自己研鑽に励み、個性と専門性を発揮しながら、冷静かつ建設的な提案ができる環境を整える。

特に、当施設は法人内で唯一、特定技能職員を採用している施設であることから、特定技能職員の着実な成長を支援するとともに、周囲の介護職員も基礎を振り返りながら共に成長できる仕組みを構築する。

【指標・評価方法】

施設内研修を月1回オンラインで実施し、職員のニーズに応じたテーマを設定することで、業務知識や技術の向上を図る。また、四半期ごとに外部専門家による講習会を開催し、専門性を高める機会を提供する。さらに、新規採用職員に対する研修プログラムを再構築し、入職後1か月間で基礎知識の統一化を図るため、OJT担当者を指定し、個別指導を実施するほか、進捗管理を行い、必要に応じたフォローアップ研修を追加する。

加えて、職員のリーダーシップ育成のため、各委員会において一般職の職員が副委員

長を務めるローテーション制度を導入し、研修や会議のファシリテーションを担当することで、積極的に意見を出せる機会を増やす。

さらには、業務の標準化と質の向上を図るため、各種マニュアルを始めとした業務手順書を見直し、最新のケア技術や制度に沿った内容で、職員の意見を反映させた実践的なものに改訂する。加えて、改訂後のマニュアルを全職員に周知し、研修等を通じて定着を図るとともに、ロールプレイング研修を実施し、実践的なスキル向上を目指すことで、職員が迷うことなく統一されたサービスを提供できる体制を強化する。

【結果】

福祉用具や認知症ケアに関する勉強会の実施により、職種を超えた情報共有と学習機会が拡充し、ケアアプローチの幅が広がった。これにより、専門性や経験に基づく視点の共有が進み、対応力及びケアの質の向上につながった。今後は、より個別性の高いケアの実現に向け、リハビリ職員による専門的指導の導入を加速させる。

また、外部専門家の助言を取り入れながらケアの改善を重ね、質の高いケアの提供に向けた取組を推進した。老健音更と連携した入職時研修については、効果測定と見直しを継続するとともに、特定技能職員への継続的な技術指導により、安全で安心できるケアの提供につなげた。さらに、研修カリキュラムの整備・共有を進め、全職員が指導に関わる体制を構築した。

加えて、ファシリテーション能力の向上と次世代リーダーの育成に取り組み、継続的な支援体制を整備した。あわせて、協力医療機関との連携により、感染症予防及び発生時の対応力向上に努めた。

業務手順の見直しにより、多職種連携の強化を図った一方で、専門的講習への参加率が低いという課題が残ったため、来年度は参加促進に向けた取組を検討する。

3 在宅復帰を支える情報共有の充実

《中期経営計画(2)》

ご家族が入所(利用)者様の在宅復帰に際して抱く不安を軽減することで、入所(利用)者様及びご家族が安心して、自宅での時間をともに過ごすことができるよう、施設とご家族との情報共有を強化する。

【指標・評価方法】

施設とご家族を結ぶ『LINE(ライン)』や『メール』などのコミュニケーションツールに加え、『つながるご家族アプリケーション』を有効に活用し、ご家族が在宅介護で抱く不安を確認し、専門職が協働して不安の解消に努める。また、入所(利用)者様の日常生活やそのご様子に関する動画の個別配信により、ご家族との情報共有を促進する。

さらに、新規入所を希望される方に対して、直接の対面での面談のほか、オンライン環境を場面に応じて併用し、ご家族が抱く在宅生活への不安を迅速に受け止め、解決策について専門職間で協議し、得られた結果を支援相談員がご家族に伝達する。この一連のフローにより、関係機関との情報共有を強化し、入所(利用)者様及びご家族が安心して居宅で過ごせる環境を強く推進する。

加えて、『お便り(あんじゅ通信)』及び『広報誌(すまいる)』を通じて、日常生活や行事などのご様子や、ご家族が希望する情報を発信する機会を継続する。

【結果】

ご家族の満足度を評価し、その結果を踏まえた改善に努めるとともに、コミュニケーションアプリを活用したりハビリの個別動画配信を継続し、取組の定着を図った。さらに、ご家族の希望に応じたりハビリ見学の機会を提供し、リハビリ職員との継続的なコミュニケーションの場を創出することで、入所(利用)者様の生活状況の共有と信頼関係の強化につながった。

また、在宅復帰後の生活課題については、多職種で分析・共有し、健康状態や生活動作、服薬状況等の情報共有を徹底するとともに、定期及び随時のカンファレンスを通じて支援方針を協議した結果、定期的な在宅復帰の実現につながった。加えて、オンラインツールを活用した相談体制の整備や、福祉用具の貸与、在宅生活に関する助言・情報提供を行い、安全な在宅生活の継続を支援した。

広報面では、広報誌の発行やホームページ・SNSの更新を通じて入所(利用)者様の生活や行事の様子を発信した結果、認知度の向上と入所につながったケースがあった。

手稲あんじゅ(介護予防)通所リハビリテーション事業所

利用者様が自分らしい生活を継続できるよう、『なりたい姿』の実現を支援するため、専門職が連携し個別性を重視した効果的なケアサービスの提供を目指す。さらに、職員の継続的な学びとスキルアップを促進し、多職種によるチームアプローチを強化することで、利用者様やご家族の多様な生活課題に対応し、質の高い支援を提供する。

《重点推進課題》

1 利用者様が『なりたい姿』を実現できるための専門職によるアプローチ

《中期経営計画(1)》

利用者様がご自身の心身機能を取り戻し、前向きに思い描く『なりたい姿』を実現するため、「生活状況確認シート」を用いて利用者様の生活状況の変化や生活課題及び今後の具体的な目標を把握する。その情報から、各専門職が密に連携し、利用者様の個別性を尊重したリハビリテーションや介護などを組み合わせた包括的なケアサービスを提供する。

【指標・評価方法】

「生活状況確認シート」を活用して移動、食事、趣味活動の頻度などの生活状況の変化を6か月ごとに記録し、具体的な目標に対する達成度を5段階で測定するとともに、バランステスト、筋力測定、認知機能評価などを実施し、標準的な評価スケール(TUG、BI、MMSE など)を用いて心身機能の変化を数値化した結果をフィードバックする。また、定期的にアンケートやヒアリングを行い、利用者様が『なりたい姿』に近づいているかを確認する。さらに、専門職が連携し、カンファレンスを通じて、画一的なリハビリやケアではなく、個別性のある効果的なアプローチが展開されているかを定期的に見直し、利用者様の「なりたい姿」の実現を目指す。

加えて、利用者様が普段の運動(活動)量を確保できるよう、リハビリ職員が中心となり、利用者様が自主的かつ主体的にできる「自主トレーニング」を個別に提案するとともに、担当者会議を通じて、居宅での実行状況を把握する。

さらには、利用者様の生活歴や趣味嗜好に着眼し、利用者様にとって達成感と自信につながる余暇活動を提供する。

【結果】

利用者様の「なりたい姿」に、どの程度近づいているかを把握するため、カンファレンス前のヒアリング方法を見直し、抽象的ではなく具体的な質問(入浴動作で困っていることや、できるようになりたいこと、取り組みたい趣味活動など)を行うことで、通所リハビリテーション計画書へ適切に反映した。

また、「自主トレーニング」の実施方法を見直し、職員の付き添いが必要な利用者様の優先度を整理することで、個々に必要な運動量の確保と、利用者様自身で可能な動作の再確認につなげた。

余暇活動については、ボランティアの協力によりデイケアでの活動にメリハリが生まれ、趣味活動前に自主トレーニングを行うなど、目的意識を持った行動の促進につながった。

さらに、利用者様同士の交流が活発化し、他の利用者様に誘われて趣味活動に参加する様子をご家族へ共有することで、満足度の向上にも寄与した。あわせて、SNSを活用した積極的な情報発信により、当事業所における余暇活動等を幅広く周知した。

一方で、生活状況の変化や利用者様へのフィードバックについては、サービス担当者会議において口頭説明にとどまり、具体的なフィードバックの提供には至らなかったことから、今後の継続課題とする。

2 様々なニーズに対応できる専門職としてのさらなるスキルアップ

《中期経営計画(1)》

利用者様やご家族が抱く様々な生活課題に対し、有効なチームアプローチを提供するために、職員一人ひとりの学びの姿を啓発するとともに、継続的かつ計画的に学びの機会を持つことで、専門職としてのスキルアップを図る。

【指標・評価方法】

職員一人ひとりの学びの姿勢を啓発し、継続的かつ計画的にスキルアップを図るため、年間研修計画に加え、オンライン研修の活用や多職種連携研修または事例検討などの方法を用いて、3か月ごとに職員ニーズに反映した研修を実施する。さらに、研修後の効果測定を基にPDCAサイクルを実践することで、チームアプローチの強化と支援の質の向上を図り、利用者様やご家族の多様な生活課題に対して、より効果的な支援を提供する体制を強化する。

【結果】

年間研修計画に加え、職員のニーズを反映した研修を3回実施した。研修後は学びを職員間で共有し、速やかに業務へ反映したことで、施設内研修の充実が図られた。今後は外部研修等も活用し、利用者様のなりたい姿の実現に向けたチーム力の強化を図るとともに、新たな知識の習得に努める。

手稲あんじゅ(介護予防)訪問リハビリテーション事業所

利用者様が住み慣れた居宅や地域での生活場面において、活動や参加の機会を実現することで、より自分らしい生活を実現できるよう、各専門職が連携し、専門性に基づく効果的なリハビリテーションを提供する。

《重点推進課題》

1 利用者様の生活目標における『活動』と『参加』の実現に向けた、個別性の高いサービスの提供 《中期経営計画(1)》

利用者様の日常生活において役割の創出や社会参加を促進し、居宅での豊かな生活が実現できるよう、利用者様及びご家族の要望を踏まえ、生活目標を共に考え、各専門職によるアセスメントと課題分析により、専門性を発揮したチームアプローチを展開する。

【指標・評価方法】

1人の利用者様に対し、複数の専門職が担当するとともに、部署内会議等の機会を通じて利用者様の現状と課題及び生活目標を共有し、各専門職による多角的な視点から『活動』と『参加』の可能性や目標達成に向けた個別性のある具体的なプロセスを協議し、利用者様及び家族に提案する。

また、言語聴覚士による摂食嚥下機能やコミュニケーション機能に関するリハビリテーションの提案や、認知症を患っている利用者様が地域で自分らしく生活できるための『参加』に向けて、作業療法士が中心となり、支援内容などの検討をするほか、様々な社会資源の活用に努める。

【結果】

今年度は利用者様2名が、訪問リハビリ開始時に設定した活動及び参加の目標を達成し、他サービスへ移行することができた。また、独居生活の継続が困難と判断されたケースについては、ご本人様及びケアマネジャーと検討を重ね、サービス付き高齢者向け住宅への住み替えを支援した。

さらに、ご本人様やご家族の要望を踏まえ、専門的視点からのアプローチとケアマネジャーとの情報共有により、生活状況に応じた目標設定やリハビリプログラムの見直しを行い、柔軟な対応を図った。

また、やりたいことの実現に向けた支援の一例として、身体の痛みの軽減と精神的安定を図ることで、孫のために食事を作る意欲の向上につなげた。コミュニケーション面では、発語の基盤となる音声やあいさつ語の表出を促した結果、訓練場面にとどまらず、ご家族や多職種が関わる場面においても発語がみられるようになった。

今後は、身体機能の維持・改善にとどまらず、ご本人様やご家族の視点を踏まえたAD

L・IADLの向上を通じて、より豊かな生活の実現を目指すとともに、生活場面への定着を図るための支援方法の確立を課題とする。

2.介護老人保健施設の運営

(1)施設の開設

第二種社会福祉事業としての老人施設の設置については、介護保険法第94条の第1項の規定にもとづき、平成9年4月28日付けで北海道知事に対し設置許可申請を行い、平成9年5月23日付けで許可を受けた。

平成9年6月1日付けで「老人保健施設事業開始届」を北海道知事に提出し受理された。平成10年4月1日から直接処遇職員の配置を3.6：1から3：1とした。併せて、デイケア利用定員を20名から32名とした。また、平成15年4月15日付けで訪問リハビリテーション事業所を開設した。

平成18年4月1日より介護保険制度の改正に伴い居宅系サービスについては予防事業を開設した。

平成27年10月1日よりデイケア利用定員を32名から37名とした。

平成28年5月1日より従来のサービス提供時間に加え3時間以上4時間未満の短時間デイケアを開始した。

平成28年8月1日より介護老人保健施設における「在宅復帰・在宅療養支援加算」を算定した。

令和3年4月1日より短時間デイケアを廃止し、短時間の利用者様は、通常のサービス提供時間内での対応とした。

概要は、次のとおり

施設の名 称	介護老人保健施設 手稲あんじゅ
施設の所在地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番1号
施設の種 類	介護老人保健施設 (介護予防)短期入所療養介護 (介護予防)通所リハビリテーション (介護予防)訪問リハビリテーション
入 所 定 員	90名(うち、(介護予防)短期入所療養介護は空床利用での運営)
通 所 定 員	37名(1日当たり)

(2)施設職員の配置状況

2026.3.31現在

		施	医	事	事	支	介	看	管	リ	介	薬	介	運	夜	調	計
		設	師	務	務	援	護	護	理	ハ	護	劑	護	転	間	理	
	長	師	長	員	員	員	員	員	士	ビ	支	師	アシ	手・	警	員	
入 所	基準数 (人)	1	1			1	21	9	1	1	1	1					37
	現 員 (人)	1	(1)	1	1	4	39 ⑧	10	1	7 (7)		委 託	3 ③	2 ②	5 ⑤	委 託	74 ⑱
通 所	基準数 (人)		1				5			1	1						8
	現 員 (人)		1 (1)			1	9 ②	3 ②		7 (7)			1 ①	1		委 託	23 ⑤
訪 問 リ ハ	基準数 (人)		1							1							2
	現 員 (人)		1 (1)							7 (7)							8 (8)

* ()は兼務。○は非常勤の内数。

(3)行事実施状況表

(入所・短期)

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	14日～16日	変わり湯の日(桜湯)	浴室	87名
5月	1日、9日	お花見ドライブ(3階)	施設近郊(手稲区内)	41名
	2日、7日	お花見ドライブ(2階)	施設近郊(手稲区内)	39名
	14日	お茶会(2階)	2階食堂	44名
	19日～21日	変わり湯の日(葉湯)	浴室	87名
6月	1日	開設記念祝賀会	2階食堂、3階談話室	86名
	16日～18日	変わり湯の日(ジャスミン湯)	浴室	84名
	18日	テラスde日光浴(2階)	2階テラス	38名
	27日	テラスで日光浴(3階)	3階テラス	43名
7月	16日	テラスでカフェ(2階)	2階テラス	40名
	18日	テラスでおやつ(3階)	3階テラス	44名
	21日～23日	変わり湯の日(桃の湯)	浴室	83名
8月	18日～20日	変わり湯の日(スカイミントの湯)	浴室	87名
	20日	夏祭り(2・3階)	2階食堂、3階談話室	85名
9月	15日	敬老祝賀会	2階食堂、3階談話室	86名
	15日～17日	変わり湯の日(ラベンダーの湯)	浴室	87名
10月	20日～22日	変わり湯の日(りんごの湯)	浴室	85名
	23日、24日	秋のドライブ(3階)	小樽 朝里ダム	33名
11月	12日	おやつレク(2階)	2階食堂、談話室	44名
	17日～19日	変わり湯の日(みかんの湯)	浴室	87名
12月	15日～17日	変わり湯の日(ゆずの湯)	浴室	84名
	26日	忘年会	2階食堂、3階談話室	86名
1月	9日	新年会	2階食堂、3階談話室	88名
	19日～21日	変わり湯の日(しょうがの湯)	浴室	85名
2月	16日～18日	変わり湯の日(レモンの湯)	浴室	87名
3月	16日～18日	変わり湯の日(森の香りの湯)	浴室	81名
	24日	おやつレク(3階)	3階談話室	42名

(通所)

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	21日～23日	変わり湯の日(桜湯)	浴室	61名
	24日～30日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	7名
5月	19日～21日	変わり湯の日(葉湯)	浴室	60名
	26日～31日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	4名
	30日	開設記念の日	デイケアルーム	24名
6月	16日～18日	変わり湯の日(ジャスミン湯)	浴室	55名
	24日～29日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	5名
7月	22日～24日	変わり湯の日(桃の湯)	浴室	61名
	25日～31日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	7名
8月	26日～28日	変わり湯の日(スカイミントの湯)	浴室	59名
	26日～31日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	5名
9月	16日	敬老のお祝い(賀寿対象者)	デイケアルーム	8名
	26日～28日	変わり湯の日(ラベンダーの湯)	浴室	62名
	24日～30日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	4名
10月	25日～31日	変わり湯の日(りんご湯)	デイケアルーム	58名
	21日～23日	誕生日祝い週間	浴室	11名
11月	26日～28日	変わり湯の日(みかん湯)	浴室	58名
	25日～30日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	6名
12月	23日～28日	クリスマス週間	デイケアルーム	143名
	17日、19日	変わり湯の日(ゆず湯)	浴室	59名
	24日～30日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	5名
1月	16日～18日	変わり湯の日(しょうが湯)	浴室	38名
	25日～31日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	7名
2月	17日～19日	音楽会	食堂	43名
	17日～19日	変わり湯の日(レモン湯)	浴室	61名
	22日～28日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	9名
3月	17日～19日	変わり湯の日(森の香りの湯)	デイケアルーム	65名
	25日～31日	誕生日祝い週間	デイケアルーム	8名

(4) 利用者の状況

ア. 年齢別構成状況(人)

	未満 5	65 5	70 5	75 5	80 5	85 5	90 5	95 以上	合 計	最 低 年 齢	最 高 年 齢	平 均 年 齢	前 年 平 均
	64	69	74	79	84	89	94						
男	0	0	1	4	1	3	3	1	13	70	95	84.2	84.3
女	0	0	0	2	11	16	19	18	66	78	104	90.3	89.3
計	0	0	1	6	12	19	22	19	79			87.2	86.8

イ. 要介護度別利用者状況(延人数)

性別	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合 計	平 均	前年平均
男	444	1,471	624	1,412	736	4,687	3.11	3.28
女	3,291	4,567	4,043	7,469	5,408	24,778	3.28	3.23
計	3,735	6,038	4,667	8,881	6,144	29,465	3.26	3.24

ウ. 介護保険者別構成状況(人)

	札幌市										石狩市	小樽市	余市町	江別市	新得町	小清水町	後志広域	当別町	合 計	
	北	豊平	白石	西	東	中央	南	清田区	手稲											
男	0	0	0	4	1	0	1	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
女	1	1	1	4	0	2	0	1	51	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	66
計	1	1	1	8	1	2	1	1	58	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	79

エ. 入所者所得段階(人)

	第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	合 計
男	1	0	1	11	13
女	4	4	25	33	66
計	5	4	26	44	79

オ. 健康保険加入状況(人)

	後期高齢者医療制度	国民健康保険	社会保険	組合健康保険	生活保護	合 計
男	12	0	0	0	1	13
女	63	1	0	0	2	66
計	75	1	0	0	3	79

カ. 在所者利用期間別構成状況(人)

	1年未満	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	10年以上	合 計
男	9	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	13
女	36	12	8	5	1	0	0	2	2	0	0	66
計	45	15	9	5	1	0	0	2	2	0	0	79

キ. 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	合計
男	0	0	2	2	3	0	6	0	0	13
女	0	1	4	6	13	14	23	4	1	66
計	0	1	6	8	16	14	29	4	1	79

ク. 認知症高齢者の日常生活自立度

	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	合計
男	0	1	1	5	5	0	1	0	13
女	1	1	4	17	23	8	11	1	66
計	1	2	5	22	28	8	12	1	79

ケ. 通院状況(延人数)

	内科	精神科	循環器科	呼吸器科	外科	整形外科	形成外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻科	肛門科	合計
男	4	2	2	3	0	0	5	1	5	11		0	0	0	33
女	22	5	12	1	10	21	0	11	8	2	0	8	1	0	101
計	26	7	14	4	10	21	5	12	13	13	0	8	1	0	134

(重複掲載)

コ. 往診状況(延人数)

	内科	歯科	眼科	皮膚科	合計
男	0	32	0	0	32
女	0	105	0	0	105
計	0	137	0	0	137

(重複掲載)

サ. リハビリ実施状況(延人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期集中リハビリ	244	283	215	262	323	330	226	147	130	159	295	165	2,779
認知症短期集中リハビリ	110	119	113	136	131	131	97	84	79	83	130	69	1,282
合計	354	402	328	398	454	461	323	231	209	242	425	234	4,061

シ. 入所・短期利用状況

利用状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
	日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	
入所利用延人数	2,450	2,514	2,372	2,440	2,575	2,518	2,487	2,401	2,471	2,506	2,321	2,410	29,465	29,249
短期利用延人数	158	183	122	133	154	122	148	193	129	85	92	134	1,653	1,504
1日平均人数	81.67	81.10	79.07	78.71	83.06	83.93	80.23	80.03	79.71	80.84	82.89	77.74	85.25	84.25
入所率(%)	96.59	96.67	92.37	92.22	97.81	97.78	94.44	96.07	93.19	92.87	95.75	91.18	94.73	93.62

ス. 入退所状況(人)

入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計	
	家庭	5	7	6	7	8	6	5	8	6	5	3	4		70
病院	3	3	2	7	4	1	1	2	7	4	5	5	44	52	
他施設	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	1	0	4	1	
合計	8	10	8	15	12	7	6	11	14	9	9	9	118	126	
退所	家庭	7	4	6	4	5	6	5	8	4	2	5	8	64	58
	病院	5	2	8	3	5	1	3	5	7	6	2	10	57	63
	他施設	1	1	2	0	0	1	1	0	1	0	0	3	10	6
	死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	13	7	16	7	10	8	9	13	12	8	7	21	131	127

セ. 入所待機者状況(人)

	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男	0	0	0	0	0	0
女	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0

ソ. 入所者・利用者減免状況

	入所減免額			(介護予防)短期入所減免額			合計 (円)
	通常減免		1件当たり平均 (円)	特別減免		1件当たり平均 (円)	
	件数	金額(円)		件数	金額(円)		
4月	4	159,420	39,855	0	0	0	159,420
5月	4	164,770	41,193	0	0	0	164,770
6月	4	155,040	38,760	0	0	0	155,040
7月	4	150,780	37,695	0	0	0	150,780
8月	4	165,460	41,365	0	0	0	165,460
9月	4	160,660	40,165	0	0	0	160,660
10月	3	140,350	46,783	0	0	0	140,350
11月	3	123,200	41,067	0	0	0	123,200
12月	3	127,060	42,353	0	0	0	127,060
1月	5	209,480	41,896	0	0	0	209,480
2月	5	190,070	38,014	0	0	0	190,070
3月	5	210,330	42,066	0	0	0	210,330
合計	48	1,956,620	40,763	0	0	0	1,956,620

タ. (介護予防)通所実施状況

	登録人数	開放日数	利用人員	一日平均人数	利用率(%)	介護度別延べ人数(人)							サービス状況(回)					
						要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	入浴介助加算I	中重度者ケア体制	食事	リハマネ加算	短期集中個別リハ	送迎減算
4月	88	26	613	23.58	81.74	9	118	222	136	77	51	0	404	486	613	0	0	0
5月	86	27	626	23.19	83.47	4	114	219	149	88	52	0	428	508	626	0	0	1
6月	90	25	526	21.04	70.14	1	95	204	96	73	57	0	372	430	526	0	0	0
7月	85	27	620	22.97	82.67	5	124	236	100	89	66	0	423	491	620	0	0	1
8月	85	26	586	22.54	78.14	0	110	229	92	85	70	0	414	458	586	0	0	5
9月	85	26	578	22.24	77.07	0	103	220	113	74	68	0	407	399	578	0	0	3
10月	85	27	611	22.63	81.47	5	96	250	127	77	56	0	446	403	611	0	0	2
11月	86	25	569	22.76	75.87	4	79	232	120	86	48	0	426	406	569	0	0	3
12月	84	26	595	22.89	79.34	4	87	237	129	86	52	0	411	426	595	0	0	2
1月	85	24	500	20.84	66.67	2	81	208	108	61	40	0	357	318	500	0	0	1
2月	86	23	500	21.74	66.67	0	88	206	112	53	41	0	343	327	500	0	0	0
3月	85	26	564	21.70	75.20	2	107	224	122	67	42	0	389	436	455	0	0	1
合計	308	6,888	22,377	22.37	76.54	36	1,202	2,687	1,404	916	643	0	4,820	5,088	6,779	0	0	19
前年合計	310	6,914	22,317	22.31	76.83	108	1,135	2,157	1,596	1,182	676	60	4,830	5,550	6,905	0	51	27

※1.利用率は通常規模の上限(750名/月)を基に計上しています。

※2. 8月21日、22日、23日、24日、26日及び10月10日は算定要件を満たしていないため、中重度者ケア体制加算を算定していません。

チ. (介護予防)訪問リハビリテーション実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数 ()内は予防	6 (2)	7 (1)	6 (1)	5 (1)	5 (1)	5 (1)	6 (1)	7 (1)	7 (1)	6 (1)	5 (1)	5 (0)	70 (12)
延べ人数	60	60	48	54	46	48	52	52	54	52	41	41	608
前年延べ人数	62	57	58	64	69	62	68	65	36	41	48	56	686

(5) 苦情受付件数と主な内容

0 件					
部門	苦情申出者	内 容		第3者委員等の報告	結果
		対応策 →			

(6) 介護事故件数

重大事故 (行政報告)		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	10	5	11	3	1	7	0	0	1	0	0	1	39
	短期	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	通所リハ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	訪問リハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	10	7	13	3	1	7	0	0	1	0	0	1	43	

事故 (施設内処理)		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	0	0	63	0	3	0	0	0	0	0	0	7	73
	短期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通所リハ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	訪問リハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	64	0	3	0	0	0	0	0	0	7	74	

ヒヤリハット		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	30	5	63	7	61	18	0	0	0	0	0	45	229
	短期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	通所リハ	1	0	7	3	2	2	10	0	0	2	4	14	45
	訪問リハ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	31	5	70	10	63	20	10	0	0	2	4	59	274	

(7) 慰問・ボランティア状況

	名 前	内 容	来 所 日	延べ人数
団体	Trio611	楽器による音楽演奏	2026年2月17日(火) 2月21日(土)	3 名
個人	北海道札幌稲雲高等学校生徒の皆さん 上坂様、松山様他	フラワーアレンジメント講師、囲碁や将棋の相手、 お話相手、レクリエーション補助など	通年	128 名
慰問関係				0 名
合 計	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市手稲区社会福祉協会を通じてボランティアを募集(広報誌に掲載)した。 近隣の高校へ訪問し、ボランティア募集を行った。 		延べ人数(団体)	3 名
			〃 (個人)	128 名
			〃 (慰問)	0 名
			〃 合計	131 名

(8) 実習生受入れ状況

受 入 期 間	人 数	受入日数	延べ人数	学 校 名	学 部 ・ 学 科	実 習 内 容
2025 . 6 . 17 ~ 2025 . 6 . 20	1	4	4	専門学校北海道福祉・保育大学校	社会福祉学科1年	介護福祉基礎実習
2025 . 7 . 1 ~ 2025 . 7 . 4	2	4	8	札幌医学技術福祉歯科専門学校	理学療法士科	1年次見学実習
2025 . 8 . 4 ~ 2025 . 9 . 12	9	25	45	北翔大学		介護等体験
	12	33	57			

(9) 地域における公益的な取組

<p><地域支援活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 手稲ふれあいフェスティバルにおける施設見学会の受け入れを行った。 札幌市立稲穂中学校の職業体験の受け入れを再開した。 積雪により、施設周辺の歩道が歩行できなくなることから、地域の通学(勤)者が安全に歩行ができるよう、歩道の除雪作業を実施した。 路面凍結による車両事故を予防するために、当施設近隣の車道にすべり止めの砂まきを実施した。

在 宅 手 稻

(介護予防)認知症対応型共同生活介護 手稲ゆうゆう

1. 重点推進課題の実施報告

(介護予防)認知症対応型共同生活介護事業所 手稲ゆうゆう

入居者様が手稲ゆうゆうで継続的に暮らしていくために、日常で楽しみにしている食事と日々の生活を通して、健康で充実した生活が送れるように支援する。

《重点推進課題》

1. 健康保持及び尊厳を守れる支援

《中期経営計画 (1)(2)》

入居者様が健康に暮らせるよう、運動及び食事摂取、睡眠状況等の観察を継続し、健康保持を図る。また、入居者様の自己選択を尊重し、個人の尊厳を守れる支援を行う。

【指標・評価方法】

- ① ご家族・協力医療機関の訪問診療医と情報を共有し、連携体制を構築する。
- ② 管理栄養士が作成した献立により、栄養バランスの摂れた食事を提供する。
- ③ 策定した感染症・自然災害 BCP(業務継続計画)の見直しを図る。
- ④ 日々の体操や入居者様一人ひとりに合わせた運動を行って、体力を維持する。
- ⑤ 入居者様とご家族の生活時間が有意義なものとなるよう、面会や外出行事の拡充を図る。

【結果】

- ① 月2回の定期訪問診療の結果に基づき、入居者様ごとの健康状態を「定期便り」として毎月ご家族に報告する体制を継続した。急な体調変化の際にも、訪問診療医や訪問看護事業所と迅速に連携し、同時にご家族へも随時相談、報告を行うことで、三者間での密な情報共有と信頼関係の構築に努めた。引き続き、協力医療機関との緊密な連携体制を維持し、医療ニーズの高い入居者様にも迅速に対応できる体制を強化するとともに、ご家族が離れていても安心できるよう、正確かつ迅速な情報提供を徹底する。
- ② 日本栄養食品株式会社の管理栄養士が作成した献立に基づき、栄養バランスに優れた食事を提供した。食材費高騰という課題に対しても、管理栄養士と密に連携し、コスト管理と栄養面の両立を図ったほか、検食を通じて得られた職員の声を献立に反映させることで、満足度の高い食事提供を目指した。今後も、季節感や彩り、味のバリエーションにさらにこだわり、入居者様にとって毎日の食事が楽しみとなるような提供体制を継続する。
- ③ 感染対策委員会等の場を活用し、策定済みの「感染症および自然災害BCP(業務継続計画)」の再点検と見直しを実施した。引き続き、見直したBCPに基づき、定期的な訓練や備蓄品の確認を行い、マニュアルが実効性を持つよう職員への浸透を図る。
- ④ 日々の集団体操に加え、入居者様お一人おひとりの身体状況等に基づいた個別的な運動を毎日実施した。継続的なアプローチにより、入居者様の筋力や体力の維持に寄与できた。今後も、「運動の機会」を日常的に確保し、入居者様が無理なく、かつ楽しみながら継続できる運動プログラムの充実に努める。

- ⑤ ご家族のご要望を反映し、2026年7月から面会制限の緩和(回数の倍増、人数の拡大)を実施した結果、面会の機会が増加した。また、春には桜の花見ドライブや、秋の手稲山ドライブといった外出行事を実施し、入居者様に季節の移ろいを感じていただける有意義な時間を創出することができた。引き続き、入居者様とご家族の絆を深める時間を大切に、面会や外出の機会の拡充を検討する。

2. 職員のスキルアップ及び業務改善

《中期経営計画(1)》

入居者様の生活をより良いものにするためには、職員の認知症介護に対する意識向上など、スキルアップが必要となる。また、業務内容を見直し、職員が働きやすい環境を整えることで、更なる入居者様へのサービスの質の向上を図る。

【指標・評価方法】

- ① 認知症介護に関する研修を実施する。
- ② アンガーマネジメントなどの研修を通じ、質の良いサービス提供に対する職員の意識向上を図る。
- ③ 入居者様の生活を中心とした業務内容となるように、現在の内容を再度評価し、改善に向けた検討を行う。

【結果】

- ① オンライン環境を積極的に活用し、認知症に対する職員の理解を深める取り組みを実施した。また、安易な薬物療法に頼らないケアを推進するため、薬剤師を講師に招き「ドラッグロック(不適切な服薬管理や過度な鎮静の防止)」に関する専門的な研修会を開催した。これにより、専門知識に基づいた適切なケアへの意識を高めることができた。引き続き、最新の認知症ケア技法に関する研修を定例化するとともに、多職種とも連携しながら、入居者様お一人おひとりの行動の背景にある思いを理解し、尊厳を守るケアを組織全体で実践する。
- ② アンガーマネジメント研修を実施し、感情コントロールを通じた質の高い対人援助のあり方を学んだ。さらに、職員会議やユニット会議を「不適切なケアの防止」や「入居者様への適切な声掛け」について具体的に議論する場として活用し、倫理観とサービス意識の向上に努めた。今後も、自己研鑽の継続に加え、職員間での対話を重視し、不適切なケアを未然に防ぐ職場環境を維持し、感情のセルフケアと専門的な接遇を両立させることで、入居者様に安心感を与えられるサービスの提供を目指す。
- ③ 毎月のユニット会議において、現在の業務ルーティンが「入居者様の生活リズム」に沿ったものであるかを再評価し、見直しと改善を行った。今後も、現在の業務内容をさらに深掘りし、入居者様がより主体的に、自分らしく過ごせる時間を創出できるよう取り組みを推進する。

2 (介護予防)認知症対応型共同生活介護の運営

(1)施設の開設

第二種社会福祉事業としての認知症対応型共同生活介護については、介護保険法（平成9年法律123号）第70条の規定及び同法第41条第1項の規定にもとづき、平成14年3月13日付で北海道知事に対し居宅サービス事業者指定申請を行い、平成14年4月1日付（石社福9001-10号）で指定を受けた。

認知症対応型通所介護については、介護保険法第78条の2第一項及び法第115条の11第1項の規定及び法第42条の2第1項及び法第54条の2第1項の規定にもとづき、平成18年5月31日付で札幌市長に地域密着型サービス事業者指定申請を行い、平成18年7月1日付（札介保(指)第762号）で指定を受けた。平成28年6月30日付（札介保(指)第11557号）で利用者の減少により通所事業を廃止した。

令和3年4月1日に組織の再編成により、総称を「在宅地域支援施設手稲ゆうゆう」とした。

概要は、次のとおり

施設の名 称	グループホーム手稲ゆうゆう
施設の所在地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号
施設の種類	(介護予防)認知症対応型共同生活介護
入 所 定 員	9名×2ユニット 計18名

(2)施設職員の配置状況

2026.3.31 現在

		施 設 長	管 理 者	計 画 作 成 担 当 者	介 護 職 員	計
入 居	現 員 (人)	(1)	(1)	(2)	16 (3) ②	16 (7) ②

※1 ()は兼務。○は非常勤の内数。

※2 基準配置については表記困難な為、現員についてのみ掲載。

(3) 行事实施状況表

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	18日	お好み献立	各ユニット	18名
	28日	かえでユニット花見外出	札幌市手稲区前田(軽川周辺)	8名
5月	2日	もみじユニット花見外出	札幌市手稲区前田(軽川周辺)	8名
	8日	手作りおやつ	各ユニット	18名
	11日	母の日	各ユニット	18名
6月	15日	父の日	各ユニット	18名
	26日	お好み献立	各ユニット	18名
8月	3日	夏祭り	各ユニット	18名
9月	3日	手作りおやつ	各ユニット	18名
	12日	敬老祝賀会	各ユニット	18名
10月	6日	もみじユニット外出レク	札幌市手稲区手稲本町(手稲山周辺)	7名
	23日	かえでユニット外出レク	札幌市手稲区手稲本町(手稲山周辺)	5名
	25日	お好み献立	各ユニット	18名
11月	27日	手作りおやつ	各ユニット	18名
12月	25日	クリスマス・忘年会	各ユニット	18名
1月	2日	新年会	各ユニット	18名
2月	3日	節分	各ユニット	18名
	28日	お好み献立	各ユニット	18名
3月	3日	ひな祭り	各ユニット	18名
	24日	手作りおやつ	各ユニット	18名
<通年>	誕生会……………各入居者の誕生月に実施		各ユニット	18名

(4)利用者の状況

ア. 年齢別構成状況(人)

	未満 5 64	65 5 69	70 5 74	75 5 79	80 5 84	85 5 89	90 5 94	95 以上	合計	最低 年齢	最高 年齢	平均 年齢	前年 平均
男	0	0	0	0	0	1	0	0	1	85	85	85.0	85.5
女	1	0	0	0	5	2	4	5	17	64	101	88.6	90.0
計	1	0	0	0	5	3	4	5	18			88.4	89.5

イ. 要介護度別利用者状況(延人数)

性別	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計	平均	前年平均
男	365	153	0	68	0	586	1.60	1.25
女	1,156	2,201	1,834	365	245	5,801	2.36	2.55
計	1,521	2,354	1,834	433	245	6,387	2.29	2.45

ウ. 介護保険者別構成状況(人)

	札幌市										合計
	中央	北	東	白石	厚別	豊平	清田	南	西	手稲	
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
女	1	0	0	0	0	0	0	1	2	13	17
計	1	0	0	0	0	0	0	1	2	14	18

エ. 健康保険加入状況(人)

	後期高齢者医療制度	国民健康保険	社会保険	組合健康保険	生活保護	合計
男	1	0	0	0	0	1
女	14	0	0	0	3	17
計	15	0	0	0	3	18

オ. 在所者利用期間別構成状況(人)

	1年未満	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	10年以上	合計
男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女	5	1	2	3	0	0	2	1	1	0	2	17
計	5	1	3	3	0	0	2	1	1	0	2	18

カ. 認知症の原因(人)

	脳血管障害	アルツハイマー	老年性	その他	合計
男	0	0	0	1	1
女	0	11	2	4	17
計	0	11	2	5	18

キ. 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	合計
男	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
女	0	0	3	3	7	3	0	1	0	17
計	0	0	4	3	7	3	0	1	0	18

ク. 認知症高齢者の日常生活自立度

	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
男	0	0	0	1	0	0	0	0	1
女	0	1	3	1	5	1	5	1	17
計	0	1	3	2	5	1	5	1	18

ケ. 入居利用状況

利用状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
	日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
入所利用延人数	540	534	507	539	536	514	539	532	547	557	504	538	6,387	6,400
1日平均人数	18.00	17.23	16.90	17.39	17.29	17.13	17.39	17.73	17.65	17.97	18.00	17.35	17.50	17.54
入所率(%)	100.00	95.70	93.89	96.59	96.06	95.19	96.59	98.52	98.03	99.82	100.00	96.42	97.21	97.41

コ. 入退居状況(人)

入居	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
	家庭	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
病院	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
他施設	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	0	0	4	2
退居	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
	家庭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病院	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	5	2
他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	6	2

サ. 入居待機者状況

	要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男	0	0	1	0	0	0	0	1
女	0	0	2	0	0	0	0	2
計	0	0	3	0	0	0	0	3

シ. 利用者減免状況

	入居減免額			合計
	通常減免		1件当平均	
	件数	金額		
4月	3	22,500	7,500	22,500
5月	3	21,050	7,017	21,050
6月	2	15,000	7,500	15,000
7月	2	17,900	8,950	17,900
8月	2	17,900	8,950	17,900
9月	2	15,000	7,500	15,000
10月	2	17,900	8,950	17,900
11月	3	22,500	7,500	22,500
12月	3	26,850	8,950	26,850
1月	3	26,850	8,950	26,850
2月	3	13,800	4,600	13,800
3月	3	26,850	8,950	26,850
合計	31	244,100	95,317	244,100

(5) 苦情受付件数と主な内容

1 件		内 容	第3者委員等の報告	結果
部門	苦情申出者			
グループホーム	ご家族	<p>内服薬の量が多くてびっくりした。認知症を患っている方が暮らす施設なのに、訪問診療医が認知症の専門医ではないというのはどうなのか。今後検討してはどうかと話があり。</p> <p>対応策 ⇒ 訪問診療医に相談した内容をご家族に細目に伝え、情報共有を推進する。</p>	なし	対応終了

(6) 介護事故件数

重大事故報告 (行政報告)	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬誤配	転倒	転落	打撲捻挫脱臼変色	火傷裂傷皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車による事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	件数	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

事故 (施設内処理)	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬誤配	転倒	転落	打撲捻挫脱臼変色	火傷裂傷皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車による事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	件数	0	0	12	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1

ヒヤリハット	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬誤配	転倒	転落	打撲捻挫脱臼変色	火傷裂傷皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車による事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	件数	2	2	2	0	2	0	1	0	0	0	0	0	2

(7) 慰問・ボランティア状況

名 前	内 容	来 訪 日	延べ人数
○ 新型コロナウイルス感染症等からの感染症予防対策のため、ボランティアの受け入れを中止した。			
合計延べ人数			0名

(8) 地域における公益的な取組

<地域支援活動>
○ 手稲ふれあいフェスティバル(施設見学会)の受け入れを実施した(2025年10月24日)。

手 稲 ゆ う ゆ う 通 所 介 護 事 業 所

1. 重点推進課題の実施報告

手稲ゆうゆう通所介護事業所

手稲ゆうゆう札幌市指定相当通所型サービス事業所

手稲ゆうゆう小樽市指定相当通所型サービス事業所

通所介護は、自宅での生活の継続支援、生活機能の維持や向上を図ることを目的にしています。利用者様の「笑顔」を実現できるよう、私たちは今一度利用者様・ご家族に対しての支援を行います。また、時代背景に沿った安心できる職場環境の見直しを積極的に進めていきます。

《重点推進課題》

1. 利用者様が笑顔で主体性のある活動ができる環境づくり

《中期経営計画（1）（2）》

利用者様の持てる力を再認識し、機能維持・環境整備を観点に新たな強みを発見できるように取り組む。

【指標・評価方法】

- ① 利用者様の想いに耳を傾け、支援中や乗車時等にも意見・要望の把握を意識した会話を行う。
- ② 日々の利用者様の情報と月 1 回のデイサービス会議にて、利用者様についてアセスメントやモニタリングの内容を効率的に共有する。更に、利用者様が来所時に1つでも笑顔でいられるような場面を引き出す工夫をする。
- ③ ご家族の意向を把握できるよう、送迎時や電話対応時に日々の利用状況を含めた内容が日々伝えられることで関係性づくりに繋げていく。

【結果】

- ① 創作活動や余暇時間、さらには送迎時の車中といった日常のあらゆる場面を、利用者様の「声」を汲み取る貴重な機会として活用した。外出行事(映画鑑賞等)の内容やダイニングでの座席配置、入浴サービスへの要望など、具体的な意見や要望を収集し、ミーティングで共有することで、サービスの改善に繋げることができた。引き続き、何気ない会話のなかから利用者様の本音や潜在的なニーズを汲み取る姿勢を徹底し、専門職として単に要望を聞くだけでなく、支援内容やプログラムへの反映を迅速に行い、利用者様の満足度向上に努める。
- ② 夕方の送迎業務後にミーティングを実施し、利用者様の最新情報を即時共有する体制を整えた。全体協議が必要な重要事項のみをデイサービス会議に集約することで、会議時間の短縮と迅速な情報共有を両立したほか、介助方法の統一が迅速に行われ、全職員が同じ質のケアを提供できる環境を構築した。今後も、効率的な業務管理を維持するとともに、「利用時にひとつでも多くの笑顔を引き出す」ための工夫ができるよう、アセスメントに基づいた個別の声掛けや、楽しみを持てるレクリエーションを企画し、利用者様にとつ

て心地よく活気ある時間を提供する。

- ③ 送迎時や電話連絡の際に、日々の活動報告に加えて利用者様の「何気ないエピソード」を積極的に報告した。当初は短時間で切り上げられるご家族もいらっしやだったが、継続的な情報発信により対話の時間が増加し、感謝の言葉をいただける良好な関係性を構築することができた。今後も、ご家族との「日々の共有」を関係構築の柱とし、居宅での様子やご意向をより深く把握できるよう努める。

2. 職員が活躍を実感できる体制と安心して働き続けられる職場の見える化

《中期経営計画 ((4)(5)(6)》

職員がコミュニケーションをとる上で関係性づくり向上と充実した研修や改善に向けた話し合いのできる場の設定を目指す。また、利用者様のニーズに応えられるよう、稼働率を高水準で維持できる体制を整える。

【指標・評価方法】

- ① 良好な人間関係を構築するために、自由な発言・発案ができる場を設ける。
- ② 年間に決められている研修と別に外部研修や事業所見学を通し、現状の事業所運営に対して振り返る時間を持つようにする。また、それについて情報交換を行う。
- ③ 利用者様が通うことで体調を整えられ、病気やケガの予防に繋がることを目標の 1 つとしていただく。また、利用率の向上を図るため、レクや外出行事等の企画、実施する。

【結果】

- ① 夕方の送迎業務後のミーティングを定例化し、各職員が事実や自身の気づきを率直に発信できる場を確保した。これにより、個々の捉え方の違いを相互に認識できる時間となった。また、業務に責任感を持つ「担当制」を導入したことで、会議においても問題提起に留まらず、結論や代替案までを自ら提示する主体的・建設的な発言が増加した。引き続き、自由な発言・発案ができる環境を維持し、職員間の強固な連携を促進するとともに、アイデアを積極的に運営に反映させることで、チーム全体の士気向上とサービスの質の改善につなげる。
- ② 管理者によるアンガーマネジメント研修を実施し、日々の業務を客観的に振り返る機会を設けた。さらに、他事業所の見学を実施したことで、自事業所の運営を相対的に評価することができ、感染症対策や外出レクの実施方法など、他事業所の取組みを参考にし、導入を検討した。今後も、外部の情報を取り入れることで運営の形骸化を防ぎ、得られた知見を職員間で活発に情報交換し、常に進化し続ける事業所運営を目指す。
- ③ 欠席率の改善に向け、定期的な通所が「生活リズムの安定」や「歩行数の確保」、「身体の強張りの改善」に直結することを、利用者様やケアマネジャーへ丁寧に説明した。その結果、魅力あるレクリエーションや行事の企画が相まって、利用日数の増加に繋がるケースが増え、年間を通じて稼働率の向上につながった。今後も、健康維持に向けた役割を強化するとともに、利用者様が心待ちにできるような季節行事などを企画・実施することで、利用継続意欲を高め、さらなる稼働率の向上を目指す。

2 通所介護・第1号通所(介護予防)事業の運営

(1) 施設の開設

第二種社会福祉事業としての老人デイサービス事業の設置については、札幌市長に対し設置許可申請を行い、平成元年7月1日付で受理され、老人デイサービスB型事業を開始。

平成18年4月1日より介護保険制度の改正に伴い、介護予防事業を開設した。

平成29年4月1日より介護予防・日常生活支援総合事業の開始に伴い、介護予防事業については第1号通所事業へ移行となった。

令和元年5月1日に、併設していた特別養護老人ホームが移転したため、その後、一部改築し令和元年10月28日より通所事業を移転する。

令和3年4月1日に組織の再編成により、総称を「在宅地域支援施設手稲ゆうゆう」とするとともに、事業所名を「手稲ゆうゆう通所介護事業所」に変更した。

概要は、次のとおり

施設名称	手稲ゆうゆう通所介護事業所
施設の所在地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号
施設の種類	通所介護・第1号通所(介護予防)事業
通所定員	40名(1日当たり)

(2) 施設職員の配置状況

2026.3.31 現在

		施設 長	管 理 者	生 活 相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	機 能 訓 練 指 導 員	介 護 支 援 専 門 員	介 護 ア シ ス タ ン ト	運 転 手	介 助 員	事 務 員	管 理 栄 養 士	栄 養 士	調 理 員	計
通 所	基準数 (人)		1	1	6	1	1									10
	現員 (人)	1 (1)	1 (1)	4 (4)	8 (4)①	4 (4)③	5 (4)④			3 ②	1 ①				委 託	27 ⑩

※ ()は兼務。○は非常勤の内数。

(3) 行事实施状況表

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	21日～26日	変わり湯	浴室	110名
5月	26日～31日	変わり湯	浴室	123名
	7日～10日、12日～13日	お花見ドライブ	戸田記念墓地公園(石狩市厚田)	71名
6月	25日	はっぴー☆コンサート(音楽演奏会)	ダイルーム	30名
7月	8日間	持ち帰り作品	ダイルーム	16名
	14日～19日	食レク(かき氷作り)	ダイルーム	145名
8月	4日～9日	食レク(かき氷作り)	ダイルーム	125名
9月	22日～27日	変わり湯	浴室	106名
	15日～17日	敬老祝賀会	ダイルーム	85名
10月	20日～25日	変わり湯	浴室	112名
	9日～11日	食レク(焼き芋作り)	ダイルーム・屋外駐車場	80名
11月	10日～13日	食レク(かぼちゃ団子作り)	ダイルーム	90名
	24日～29日	変わり湯	浴室	106名
12月	22日～27日	変わり湯	浴室	116名
	12日	映画上映会	ダイルーム	27名
	26日	手稲ゆうゆう 餅つき・食レク(お汁粉作り)	ダイルーム	31名
1月	26日～31日	変わり湯	浴室	87名
	22日～24日	新年会	ダイルーム	81名
2月	23日～28日	変わり湯	浴室	119名
	14日	食レク(蒸しパン作り)	居室ひざし	28名
	17日、18日	映画上映会	ダイルーム	58名
3月	23日～28日	変わり湯	浴室	135名
	5日	食レク(甘酒作り)	居室ひざし	25名
<通年>	誕生会	… 各利用者の誕生日に近い利用日に実施	ダイルーム	102名
			参加延べ人数	2,008名

(4) 利用者の状況

ア. 利用者減免状況

	通所介護・第1号通所事業減免額					合計 (円)
	通常減免		特別減免		1件当平均 (円)	
	件数	金額(円)	件数	金額		
4月	2	5,449			2,725	5,449
5月	2	6,294			3,147	6,294
6月	2	6,364			3,182	6,364
7月	2	6,759			3,380	6,759
8月	2	5,209			2,605	5,209
9月	2	6,364			3,182	6,364
10月	2	6,731			3,366	6,731
11月	2	5,603			2,802	5,603
12月	2	5,593			2,797	5,593
1月	2	4,137			2,069	4,137
2月	2	5,209			2,605	5,209
3月	2	5,968			2,984	5,968
合計	24	69,680			34,840	69,680

イ. 通所介護・第1号通所事業実施状況

	登録人数	開放日数	利用人員	一日平均人数	利用率(%)	介護度別延べ人数(人)							サービス状況(回)		
						要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	入浴	食事	個別機能訓練
4月	99	26	631	24.27	63.10	41	104	321	105	36	24	0	388	631	204
5月	99	27	686	25.41	68.60	45	115	360	108	39	19	0	427	686	220
6月	99	25	637	25.48	63.70	39	110	329	111	32	16	0	395	637	219
7月	102	27	681	25.23	68.10	35	125	353	120	32	16	0	425	681	226
8月	100	26	673	25.89	67.30	31	114	359	109	42	18	0	434	673	223
9月	104	26	719	27.66	71.90	22	133	386	115	42	21	0	447	719	240
10月	104	27	743	27.52	74.30	19	163	376	126	41	18	0	443	743	242
11月	107	25	697	27.88	69.70	15	152	370	122	24	14	0	409	697	222
12月	107	26	718	27.62	71.80	15	159	369	148	22	7	0	424	718	199
1月	107	24	638	26.59	63.80	16	120	347	132	19	4	0	399	638	207
2月	107	23	622	27.05	62.20	15	124	335	116	30	2	0	382	622	209
3月	105	26	723	27.81	72.30	18	132	394	144	32	3	0	447	723	242
合計	308	8,168	26.52	68.07	311	1,551	4,299	1,456	391	162	0	5,020	8,168	2,653	
前年合計	310	7,334	23.66	61.11	357	1,028	3,266	1,923	446	158	31	4,638	7,334	1,606	

※1 利用率は通常規模の上限(1,000名(750÷3/4)/月)を基に計上しています。

※2 1月26日(月)及び2月19日(木)は大雪による雪害のため、営業を休止しています。

(5) 苦情受付件数と主な内容

2 件		部門	苦情申出者	内 容	第3者委員等の報告	結果
通所	利用者様			「入浴後に着替えをせかされるような声掛けがあり、ショックを受けた」と話があり。 対応策 ⇒ 声掛け及び利用者様への配慮を職員間で周知した。	なし	解決
通所	利用者様			他利用者様と楽しく入浴したかったが、1人きりで入浴することになったことに加え、入浴中に職員が後片付けを始めたことから「『大きな風呂にゆっくりつかれる』とパンフレットに記載してあるが、嘘ではないか。少しでも他利用者様と会話を楽しみながら、ゆっくりと入浴したい。」と訴えがあった。 対応策 ⇒ 可能な範囲で、早い時間に入浴にお誘いする。	なし	解決

(6) 介護事故件数

(重大事故 行政報告)	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	件数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(施設内 事故)	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	件数	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0

ヒヤリ ハット	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	件数	4	0	26	4	0	5	0	2	0	0	1	4	46

(7) 慰問・ボランティア状況

	名前	内容	来訪日	延べ人数
個人	個人ボランティア 様	利用者様が書いた書道の添削	2か月に1回 自宅玄関で受け渡し	1名 6回
個人	Torios Ensemble 様	はっぴー☆コンサート(音楽演奏会)	2025年6月25日	5名 1回
			合計延べ人数	6名

(8) 実習生受入れ状況

受入期間	人数	受入日数	延べ人数	学 校 名	学 部 ・ 学 科	実 習 内 容
2025 . 6 . 17 ~ 2025 . 6 . 20	2	4	8	専門北海道福祉・保育大学校	介護福祉学科	施設内実習
2025 . 7 . 22 ~ 2025 . 7 . 25	2	4	8	専門北海道福祉・保育大学校	介護福祉学科	施設内実習
合 計	4	8	16			

(9) 地域における公益的な取組(事例について自由記述)

○ 手稲ふれあいフェスティバル(施設見学会)の受け入れを実施した(2025年10月24日)。

手稲ゆうゆう 指定居宅介護支援事業所

1. 重点推進課題の実施報告

手稲ゆうゆう指定居宅介護支援事業所

札幌市の高齢者人口は年々増え、今まで以上に介護を必要とする方々も増えていく事が予想されています。地域で介護を必要としている高齢者の方々、またそれを支えるご家族の方々の不安や悩みを受け止め、利用者様が住み慣れた地域での生活を安心して継続できる様、一緒に解決策を考え支援していきます。

《重点推進課題》

1. 地域の方々や関係機関から安心して相談をいただける事業所作りを目指し、担当利用者数の安定を図る。

《中期経営計画 (1)(2)(3)(5)》

利用者様が望まれる生活を可能な限り継続する事ができる様に、利用者様またはご家族の想いをしっかり受け止め、「この事業所の方にお願いできて良かった」と思っていたいただき、安心を提供できる様に事業所が一丸となって努めていく。

また、地域の方々への支援にて安心を提供し、信頼を積み重ねていく事により、当事業所の存在をより多くの方に知っていただく事を目指す。その結果、新たな新規相談を数多くいただける様にも努めていく。

【指標・評価方法】

- ① 専門職として、利用者様やご家族の想いを的確に把握し、知識や技術等をコミュニケーションを通じて提供していきながら、親身に寄り添った支援を行っていく。
- ② 利用者様の支援はもちろんの事、それを支えるご家族にもしっかり目を向け、定期訪問・電話連絡以外にも必要であれば、ご家族のみで面談の機会を持つ等、抱えている不安や悩みの早期発見と受容に努める。
- ③ 利用者様により良い支援を提供していくには、個々の専門職としてのスキルアップは必須である。その為にも専門的知識や技術を学ぶ為の研修への参加、関連機関との様々な情報の共有等、日々自己研鑽に努めていく。
- ④ 事業所の担当利用者総数の安定を図る為にも、新規相談については今まで紹介をいただけている地域(札幌市手稲区・小樽市)を軸としていく。また、各事業所へ顔の見える関係作りを築いていく為にも、営業を兼ねての挨拶回り等を随時行っていく。併せて電話やFAX等による情報発信についても、随時行っていく。

事業所の利用者総数としては、月によって変動が出てくるところではあるが、要介護認定利用者数については、115件以上をキープできる様に努めていく。

【結果】

- ① 専門職として、利用者様及びご家族の真のニーズを把握するため、日々の関わりにおける丁寧な対応と傾聴を徹底した。適切な情報提供とコミュニケーションを通じ、個々の想いに寄り添った支援を概ね実施することができた一方、複雑な課題を抱えるケース等、個別

対応において、さらなる工夫の余地を再認識した。引き続き、「親身に寄り添う姿勢」を軸とし、高いコミュニケーション技術をもって利用者様の想いを的確に汲み取るとともに、多様化するニーズに対し、専門的知識に基づいた柔軟な提案ができるよう、対応力のさらなる向上に努める。

- ② 定期訪問や電話連絡の際、利用者様ご本人のみならず、介護を担うご家族の状況把握にも注力した。必要に応じて個別の面談機会を設けることで、ご家族が抱える不安や悩みを早期に受け止める体制を構築し、一定の成果を得ることができた。今後も、「家族支援」を重要課題として継続し、変化にいち早く気づけるよう、より密な関わりを意識し、面談や電話連絡、居宅への訪問を組み合わせ、ご家族が孤立せず、安心して介護を続けられるよう、心理的な支えとなる支援を実践する。
- ③ 研修への積極的な参加や日々の業務実践を通じ、専門的知識及び支援技術の習得に励んだ。また、関連機関との密な情報共有を行い、多職種連携の中での専門性の発揮を意識した。今後も、より質の高い支援を提供するため、自己研鑽を怠らず、最新の介護保険制度やケアマネジメント手法のアップデートを図る。さらに、関係機関とのネットワークを広げ、地域全体で利用者様を支えるための中心的な役割を担えるよう、専門職としてのスキルアップを追求する。
- ④ 札幌市手稲区及び小樽市を重点地域として、電話や訪問による情報発信と新規相談の受付に努めた。営業活動を通じて一定の相談件数を確保できたものの、月ごとの変動やサービス終了に伴う減少により、目標とする「要介護利用者数 115 件」の維持には至らない状況であった。次年度は、目標数値である「115 件以上」の安定維持を目指し、これまでの信頼関係を軸とした既存の連携先への連絡、訪問や情報発信を随時強化する。加えて、各事業所との「顔の見える関係」をさらに深めるとともに、新規相談に対して迅速かつ柔軟な受け入れ体制を整えることで、地域から選ばれる事業所作りを推進する。

2 居宅介護支援の運営

(1) 事業所の開設

在宅介護支援センターの設置については、老人福祉法(昭和57年法律80号)第6条の2の規定にもとづき、平成10年10月16日付けで、札幌市長と委託契約を締結した。

平成12年4月1日、介護保険法施行により、居宅介護支援事業所を開設した。

平成15年4月1日、支援費制度施行により、居宅介護事業所を開設した。

令和3年4月1日に組織の再編成により、総称を「在宅地域支援施設手稲ゆうゆう」とするとともに、事業所名を「手稲ゆうゆう指定居宅介護支援事業所」に変更した。

概要は、次のとおり

施設 の 名 称 手稲ゆうゆう指定居宅介護支援事業所
 施設 の 所 在 地 札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号
 施設 の 種 類 居宅介護支援事業所

(2) 施設職員の配置状況 2026.3.31 現在

		管 理 者	主任 介護 支援 専門 員	介 護 支 援 専 門 員	計
居 宅	現 員 (人)	1 (1)	2 (1)		3 (2)

※1 ()は兼務。○は非常勤の内数。

※2 基準配置については表記困難な為、現員についてのみ掲載。

(3) 居宅介護支援事業所 相談実件数及び相談内容

電話	来所	訪問	合計
34 件	0 件	372 件	406 件

介護保険関係						合計
制度全般	認定申請	在宅サービス	施設サービス	保険・利用料等	相談・苦情	
82 件	0 件	191 件	10 件	0 件	1 件	284 件

地域・福祉・医療関係						合計
高齢者福祉	障害制度	通院・入退院	介護予防	地域支援	その他	
1 件	0 件	10 件	0 件	0 件	243 件	254 件

(重複掲載)

(4) 介護度別 居宅介護サービス計画作成状況

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	前年合計
4月	0.4 件	1.4 件	5.4 件	49 件	42 件	10 件	7 件	3 件	118.2 件	108.4 件
5月	0.0 件	1.4 件	5.7 件	49 件	41 件	13 件	4 件	1 件	115.1 件	106.8 件
6月	0.0 件	1.7 件	5.7 件	50 件	38 件	12 件	6 件	1 件	114.4 件	108.4 件
7月	0.4 件	1.7 件	5.7 件	50 件	40 件	13 件	5 件	2 件	117.8 件	116.2 件
8月	0.4 件	1.7 件	5.7 件	54 件	37 件	11 件	5 件	1 件	115.8 件	111.7 件
9月	0.4 件	1.7 件	5.0 件	54 件	36 件	11 件	5 件	1 件	114.1 件	108.1 件
10月	0.4 件	1.7 件	6.4 件	52 件	37 件	11 件	5 件	1 件	114.5 件	110.3 件
11月	0.4 件	1.7 件	6.4 件	52 件	36 件	10 件	6 件	1 件	113.5 件	115.4 件
12月	0.4 件	1.7 件	6.0 件	51 件	38 件	10 件	6 件	1 件	114.1 件	114.2 件
1月	0.4 件	1.7 件	5.7 件	52 件	39 件	10 件	6 件	0 件	114.8 件	107.8 件
2月	0.4 件	1.7 件	5.4 件	49 件	42 件	11 件	6 件	0 件	115.5 件	112.8 件
3月	0.4 件	1.7 件	5.4 件	50 件	39 件	12 件	5 件	0 件	113.5 件	111.8 件
合計	4 件	20 件	69 件	612 件	465 件	134 件	66 件	12 件	1,381 件	1,332 件

(5) 苦情受付件数と主な内容

1 件					
部門	苦情申出者	内 容		第3者委員等の報告	結果
居宅介護支援	利用者様	介護支援専門員が男性のため、病気等のことを相談しづらい。また、相談した際に上からものを言われたように感じ、不快であった。 対応策 ⇒ (事業所内での担当者変更)		無	解決

(6) 介護事故件数

	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬誤配	転倒	転落	打撲捻挫脱臼変色	火傷裂傷皮膚剥離	無断外出行方不明	送迎車による事故	自傷行為暴力	職員言動処遇	溺水	その他	合計
居 宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※事故に至っていない「ヒヤリ・ハット」を含む件数を計上しております。

(重複掲載)

(7) 地域における公益的な取組

○ 特になし。

手 稲 ゆ う ゆ う 訪 問 介 護 事 業 所
手 稲 ゆ う ゆ う 居 宅 介 護 事 業 所

1. 重点推進課題の実施報告

手稲ゆうゆう訪問介護事業所

手稲ゆうゆう札幌市指定相当訪問型サービス事業所

手稲ゆうゆう小樽市指定相当訪問型サービス事業所

手稲ゆうゆう指定居宅介護事業所

訪問介護の将来性は、日本の高齢化社会に伴い、需要が増加していくことが予想されます。

現在、訪問介護は介護職員の人手不足や高齢化などの課題があり、手稲ゆうゆう訪問介護事業所でもヘルパーの高齢化に直面し、需要に対しての担い手不足が懸念されます。

稼働時間に自由性のある非常勤職員の確保などで、利用者様が在宅で「安心・安全」に生活できるよう、安定したサービス提供を目指します。

《重点推進課題》

1. 安定したサービスの提供

《中期経営計画 (1)(2)(4)》

積極的に新規受け入れを行い、質の良い安定したサービス提供を続けます。

【指標・評価方法】

- ① 人材確保:必要時の賃金や労働条件の改善をし、長期就労できるよう働きやすい職場作りを目指す。
- ② 研修や教育の充実:訪問介護員に定期的な研修やスキルアップの機会を提供し、サービスの質向上を目指す。研修や会議を通じて、チームワーク力を向上し、職員同士の連携をスムーズに保つことで、利用者様へのサービス提供が円滑に行われ、利用者様やご家族からの信頼を得る。
- ③ 運営体制の改善:スマートフォンを活用した業務管理システムの導入により、訪問介護員のスケジュール管理や情報共有を円滑し、業務の効率化を図る。

【結果】

- ① 2025年12月に常勤職員1名、2026年3月に非常勤職員1名の退職が重なったことによる人員不足に伴い、新規利用者の受け入れ停止に加え、既存の利用者様については他事業所へのサービス調整を余儀なくされ、稼働時間数が大幅に減少するなど、安定的なサービス提供体制の維持が困難な時期となった。2026年3月下旬に新たに1名を採用したことから、次年度はこの体制を基盤とし、不足している人員の早期確保に努めることに加え、個々の労働条件の再検討や職場環境の改善を実施し、職員が長期にわたって意欲的に就労できる「定着率の高い職場作り」を推進する。
- ② 月に1回の定例会議及び研修を継続した。2026年3月には、職員の要望に応え『調理実習研修』を実施し、実践的なスキルアップとチーム力を深めることができた。また、会議の場では、書面のみでは伝わりにくい利用者様の細かな変化や情報の共有が活発に行われ、良質なサービス提供の土台となっている。引き続き、定期的な会議と研修機会を通

して、職員間のチームワークをさらに強固にするとともに、個々の介護技術の向上を図り、利用者様やご家族から一層の信頼をいただける、質の高い訪問介護サービスの提供を目指す。

- ③ 『ケアパレット』及び『LINEWORKS(ラインワークス)』を活用したデジタル業務管理を運用した。緊急時以外の連絡を LINEWORKS(ラインワークス)に集約することで、移動中や現場での負担を軽減し、迅速かつ円滑な申し送り・情報共有ができ、業務の効率化において一定の成果を上げている。次年度はスマートフォンの活用をさらに徹底することで、デジタルツールの利便性を最大限に活かし、介護業務に専念できる環境を推進する。

2 (介護予防)訪問介護の運営

(1) 事業所の開設

ホームヘルプサービス事業については、平成11年10月1日付けで、札幌市長と委託契約を締結した。

平成12年4月1日、介護保険法施行により、訪問介護事業所を開設した。

平成15年4月1日、支援費制度施行により、居宅介護事業所を開設した。

令和 3年4月1日に組織の再編成により、総称を「在宅地域支援施設手稲ゆうゆう」とするとともに、事業所名を「手稲ゆうゆう訪問介護事業所」に変更した。

概要は、次のとおり

施設 の 名 称	手稲ゆうゆう(介護予防)訪問介護事業所 手稲ゆうゆう指定居宅介護事業所
施設 の 所 在 地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号
施設 の 種 類	訪問介護事業所

(2) 施設職員の配置状況 2026.3.31 現在

		管 理 者	サ ー ビ ス 提 供 責 任 者	訪 問 介 護 員	計
訪 問	現 員 (人)	1 (1)	3 (1)	12 ⑫	15 (1) ⑫

※1 ()は兼務。○は非常勤の内数。

※2 基準配置については表記困難な為、現員についてのみ掲載。

(3)訪問介護事業 訪問時間数

ア. 介護保険サービス

月	利用実人数	身 体	身体・生活	生 活	合 計	前年合計
4月	65名	116.9時間	298.9時間	32.3時間	448.1時間	421.3時間
5月	63名	126.3時間	290.3時間	39.0時間	455.6時間	436.4時間
6月	66名	117.3時間	270.0時間	50.5時間	437.8時間	417.1時間
7月	63名	118.1時間	291.0時間	41.5時間	450.6時間	425.9時間
8月	59名	99.8時間	246.3時間	39.0時間	385.1時間	403.4時間
9月	61名	91.8時間	270.5時間	41.3時間	403.6時間	409.3時間
10月	59名	59.8時間	264.8時間	52.0時間	376.6時間	407.7時間
11月	56名	64.4時間	223.0時間	43.3時間	330.7時間	406.7時間
12月	56名	80.4時間	247.8時間	45.5時間	373.7時間	386.5時間
1月	58名	72.6時間	218.4時間	43.8時間	334.8時間	419.4時間
2月	54名	72.3時間	196.0時間	39.8時間	308.1時間	398.9時間
3月	54名	75.8時間	226.1時間	41.5時間	343.4時間	426.9時間
合計	714名	1,095.5時間	3,043.1時間	509.5時間	4,648.1時間	4,959.5時間

イ. 介護保険サービス (総合)

月	利用実人数	合計	前年合計
4月	55名	218.8時間	198.9時間
5月	56名	220.3時間	201.1時間
6月	56名	211.8時間	171.3時間
7月	54名	232.9時間	187.3時間
8月	57名	205.3時間	174.0時間
9月	56名	218.0時間	173.3時間
10月	56名	210.5時間	222.9時間
11月	49名	173.3時間	199.0時間
12月	49名	197.6時間	188.5時間
1月	50名	184.0時間	185.5時間
2月	45名	167.9時間	188.9時間
3月	45名	174.9時間	209.4時間
合計	628名	2,415.3時間	2,300.1時間

ウ. 障害福祉サービス

月	利用実人数	身 体	精 神	知 的	重 度	合 計	前年合計
4月	8名	101.0時間	33.0時間	0.0時間	61.5時間	195.5時間	247.5時間
5月	9名	109.5時間	31.0時間	0.0時間	67.5時間	208.0時間	241.5時間
6月	8名	88.0時間	27.0時間	0.0時間	60.5時間	175.5時間	194.5時間
7月	7名	80.8時間	33.0時間	0.0時間	64.0時間	177.8時間	228.3時間
8月	7名	75.5時間	32.0時間	0.0時間	64.5時間	172.0時間	209.5時間
9月	7名	77.0時間	30.0時間	0.0時間	62.0時間	169.0時間	181.0時間
10月	8名	87.8時間	33.0時間	0.0時間	70.5時間	191.3時間	207.0時間
11月	8名	90.5時間	29.8時間	0.0時間	46.0時間	166.3時間	200.5時間
12月	6名	94.5時間	18.5時間	0.0時間	50.0時間	163.0時間	199.1時間
1月	6名	95.5時間	14.0時間	0.0時間	47.0時間	156.5時間	192.8時間
2月	6名	92.0時間	16.0時間	0.0時間	46.0時間	154.0時間	182.5時間
3月	6名	97.0時間	18.0時間	0.0時間	48.0時間	163.0時間	200.3時間
合計	86名	1,089.1時間	315.3時間	0.0時間	687.5時間	2,091.9時間	2,484.5時間

(4) 苦情受付件数と主な内容

3 件				
部門	苦情申出者	内 容	第3者委員等の報告	結果
訪介	利用者様	利用料金を現金で支払った際に、のちほどお釣りを届けると説明を受けたが、その後に連絡がない。 対応策 ⇒ 利用料金の支払いについて、口座振替への変更を依頼する。	なし	解決
訪介	利用者様	重要事項説明書の変更に伴う説明及び署名、押印をお願いされたが、そのようなことは、事前に書類を送り、電話連絡をするものではないのか。 対応策 ⇒ 事前の電話連絡など、相手方に配慮する。	なし	解決
訪介	ご家族	以前の訪問時に臨時で使用したキーボックスが施錠されていなかった。この件について、担当ケアマネジャーを通じて謝罪を受けたが、事業所からの直接の謝罪がない。防犯上、大事な事故報告である。 対応策 ⇒ 緊急時における貴重品の取り扱いについて職員に周知する。また、事業所内の情報共有の徹底と、謝罪する際は相手の心情を想像する。	なし	解決

(5) 介護事故件数

(行政報告)	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	訪問	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

(施設内処理)	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	訪問	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

ヒヤリハット	種別	誤嚥 (誤飲・誤食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	訪問	0	0	5	1	0	1	0	0	0	0	0	9	16
	障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	合計	0	0	5	1	0	1	0	0	0	0	0	10	17

札幌市手稲区介護予防センター 稲穂・金山・星置

1. 重点推進課題の実施報告

札幌市手稲区介護予防センター稲穂・金山・星置

稲穂金山星置地区は、10年後に手稲区内でも高齢化率の高い地域となることから、後期高齢者が増加する2025問題を見据え活動を展開する。高齢者の地域活動が活発化しており、介護予防活動が地域住民にとって身近なものとなるような取組みを進める。

《重点推進課題》

1. 介護予防教室の普及啓発と工夫

《中期経営計画（1）（3）》

予防センターが地域の皆様にとって、より身近な相談機関として認識頂ける様、関係構築を継続して行く。すこやか倶楽部や運動教室に新規で参加して頂けるような工夫を行う。

【指標・評価方法】

- ① 身体を動かすことをベースとし、「ここに来れば楽しく運動できる」「誰かと話が出来る」という思いを抱いていただけるような、運動とレクリエーションを取り入れた予防教室を検討する。
- ② すこやか倶楽部・通いの場参加者から、地域での活動の聞き取りを行い、予防事業の周知及び活動の幅を広げる。他予防センターが実施する介護予防教室・取組みの情報収集を行い、地域還元を行う。
- ③ LINE 運用のほか、instagramも活用を検討し、予防センターの取組みやすこやか倶楽部の発信など、地域へ予防センターの周知活動を行う。
- ④ 実施した男性対象の運動教室について一定数の需要があり、男性限定の集まりということでの「集いやすさ」を感じていただけたため、自地区内での取組みを検討する。
- ⑤ 地区内の運動グループがない地域（空白地帯）の情報について、運動できる場所が確保できるよう、地域住民の聞き取りを行う。特に、稲穂金山・星置地域の住民にとって通いやすい運動グループの設立を目指す。

【結果】

- ① 他地区の介護予防センターの見学や聞き取りを通じて、講師の選定やプログラムの進め方を研究し、『モルック』や『リズム体操』、『レクリエーション』を導入した結果、参加者から多大な反響を得ることができた。また、稲穂、金山、星置の全地区において、前年度を上回る新規参加者または、定期参加者の獲得につながった。次年度も、「ここに来れば楽しく運動ができ、誰かと話ができる」という期待に応えるため、引き続き、他センターとの情報共有を通じたプログラムの改善を図るとともに、定着率の向上を目指し、新規参加者が継続して通いたくなるようなコミュニティの形成を促進する。
- ② 他地区の事例や情報を参考に『津軽弁体操』や『健康フラダンス』を実演し、参加者から高い評価と再実施の要望をいただいた。また、『津軽弁体操』については、町内会からの講師依頼にも対応し、当センターの知見を直接に地域組織へ還元する仕組みを構築できた。次年度も、すこやか倶楽部や通いの場の参加者から、現在の地域活動に関するニーズを詳しく聞き取り、予防事業の周知と活動幅の拡大を図るとともに、外部講

師との協力体制を維持・強化し、地域住民の期待に沿った質の高いプログラムを継続的に提供する。

- ③ LINE(ライン)を用いて活動内容の定期発信を行い、周知範囲を拡大した。一方で、Instagram(インスタグラム)の運用については、効果的な活用方法の確立が課題として残った。次年度は、他センターと連携し、開催場所を可視化する『介護予防デジタルマップ』を新たに導入し、スマートフォンを利用する前期高齢者層へ戦略的なアプローチを行う。
- ④ 他地区の介護予防センターと合同で65歳以上の男性を対象とした運動教室を開催した。一定の需要と「男性同士の集いやすさ」という手応えは得られたものの、自地区内での継続的な参加定着には至らなかった。次年度は、男性参加者が心理的・物理的に通しやすい環境(場所や時間帯)を再検証し、男性の社会参加の場としての定着を促進する。
- ⑤ 稲穂金山地区の一部に存在する『運動グループの空白地帯』について、地域ケア会議(2026年1月)にて課題の共有を行ったうえで、介護老人福祉施設手稲ロータスの地域交流スペースを活用し、2026年5月下旬より短期体操教室を開始することを決定した。これを足がかりに、住民が主体となる常設の運動グループの設立を目指す。また、星置地区においては会場の確保が難航し、運動教室の実施に至らなかったため、民生委員等の関係団体や地元企業への訪問を強化し、未利用スペースの開拓に注力する。

2 介護予防センターの運営

(1)センターの開設

在宅介護支援センターの設置については、老人福祉法(昭和57年法律80号)第6条の2の規定にもとづき、平成10年10月16日付けで、札幌市長と委託契約を締結した。

介護保険法(平成17年法律第77号)にもとづき、平成18年3月31日付けで在宅介護支援センターの委託契約を解除し、平成18年4月1日付けで、介護予防センターの設置を札幌市長と委託契約を締結した。

令和3年4月1日に組織の再編制により、総称を「在宅地域支援施設手稲ゆうゆう」とした。

概要は、次のとおり

施設 の 名 称	札幌市手稲区介護予防センター稲穂・金山・星置
施設 の 所 在 地	札幌市手稲区稲穂5条2丁目6番5号
施設 の 種 類	介護予防センター

(2)施設職員の配置状況 2026.3.31 現在

		セ ン タ ー 長	相 談 員	計
予 防	現 員 (人)	(1)	2	2 (1)

※1 ()は兼務。○は非常勤の内数。

※2 基準配置については表記困難な為、現員についてのみ掲載。

(3) 介護予防センター 相談実件数及び相談内容

電話	訪問	面接	その他	合計
25 件	1 件	6 件	0 件	32 件

2026.3.31現在

相談内容	
介護保険サービスの利用希望	10 件
介護保険制度	4 件
介護予防	14 件
保健福祉サービス	1 件
高齢者虐待に関すること	0 件
消費者被害に関すること	0 件
権利擁護	0 件
認知症に関すること	3 件
心身の健康に関すること	0 件
家族の疾患・障害に関すること	0 件
医療に関すること	0 件
住まいに関すること	0 件
処遇困難	0 件
苦情	0 件
その他	0 件
合計	32 件

(4) 介護予防事業実施回数及び参加人数

内容	開催回数	参加延べ人数	平均参加人数
介護予防教室 (屋内・屋外・オンライン)	87 回	956 名	11.0 名
地域福祉活動支援	236 回	2,839 名	12.0 名
イベント	5 回	41 名	8.2 名
文書等の支援	1 回	1 名	1.0 名
広報紙の発行	12 回	11,359 世帯	946.6 世帯
会議及び打ち合わせ	78 回	1,463 名	18.8 名
合計	419 回	16,659 名	一開催当り 39.8 名

(重複掲載)

(5) 苦情受付件数と主な内容

0 件				
部門	苦情申出者	内 容	第3者委員等の報告	結果

(6) 介護事故件数

	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
予 防	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※事故に至っていない「ヒヤリ・ハット」を含む件数を計上しております。

(重複掲載)

(7) 地域における公益的な取組

- 介護予防教室・地域福祉活動支援・イベントを定期的実施した。
- 稲穂・金山地区では2025年6月に「親睦交流会」に参加したほか、2025年11月には「餅つき大会」、2026年3月には稲穂金山健康づくり事業「健康っていいね♪稲穂金山」に協力した。
- 星置地区では2026年1月の「餅つき大会」に協力したほか、2026年2月に星置養護学校・星置福まちと共に、健康作りイベント「つながる×ひろがる星置健康デー」を実施した。さらに、2026年3月には「高齢者ふれあい交流会」に出席した。

特 養 音 更

介護老人福祉施設 ロータス音更
ロータス音更（介護予防）通所介護事業所
ロータス音更（介護予防）認知症対応型通所介護事業所

1 重点推進項目の実施報告

介護老人福祉施設 ロータス音更

施設は、入居者様の生活の場であることを念頭におき、施設、及び職員はサービスの質の向上に努め、優しさと思いやりを持って、安心、安全なケアを提供するとともに、ご家族や地域の皆様、医療と連携し、個人の意思を尊重した支援を目指す。

《重点推進課題》

1. 入居者様に寄り添った、快適な生活を提供する。《中期経営計画（1）（2）（3）（4）》

入居者様それぞれの心身の状況や認知症状に合わせたケアを実施するほか、季節毎の施設内行事や外出行事、ご家族と共に過ごす時間や地域の皆様との交流機会などを提供し、笑顔が生まれる豊かな生活作りに努める。

そのために、職員は介護の基礎知識と技術を再確認するとともに、認知症に関する事例検討、及び新たな認知症ケアの手法を実践し、入居者様の希望に寄り添いながら、臨機応変に対応できる知識と技術を身に付ける。

【指標・評価方法】

- ① 入居者様に寄り添った介護を実施するため、介護の基礎知識や技術、コミュニケーションに関する研修を実施し、基礎に則ったケアを行う。又、入居者様の考えや気持ちに寄り添い、安心してケアを受けていただくことができるよう、信頼関係を築く。
- ② 一部のユニットにおいて、認知症ケアの手法のひとつである、ユマニチュード（「人間らしさを取り戻す」ための技法）を実践し、入居者様に寄り添う介護を行うとともに評価、実践報告を行う。
- ③ ご家族や地域の皆様との交流の機会を設けるため、四季に合わせた行事や外部余興を開催し、入居者様とご家族が笑顔で、共に過ごす時間を提供する。
- ④ 入居者様が安心してサービスを受けることができるよう、施設内の各会議及び感染症予防、事故防止、虐待防止、身体拘束廃止等の各委員会の実施内容を周知徹底し、サービスの改善を図る。
- ⑤ 施設職員として、自らの役割に責任を持ち、自らの考えや経験を他者に伝え、行動することができる主体的な職員を育成するため、施設内研修を充実させるほか個人目標を設定し、定期的に面談及び評価を実施する。
- ⑥ 他者の立場に立って物事を考えることができるよう他職員と日常のケアの課題、介護観などについて意見交換を行う場を設け、自らの考えを見直し成長する機会を提供する。

【結果】

- ① 介護の基礎知識を習得し、安心して支援を提供できるよう、受講期間内にはオンライン研修を実施し、集合研修では事例検討会を行った。特に認知症のある方への対応では、ご家族から趣味や嗜好について情報収集を行っており、それを踏まえて職員からは、好きな歌手の写真集作成、声掛けのタイミングの工夫や他者との交流機会の確保などの意見が挙がり、日常のコミュニケーションの場面で実践を行い、支援にあたっている。自己学習については、自発的な受講が少なく、学習意欲の向上に課題が残った。そのため、今後は継続的な学習を促すための働きかけを行っていく。
- ② ユニット会議でユマニチュードの基本を理解したことで、尊厳を守るケアについて職員の理解を深めることができた。実践面では、認知症の入居者様の不安な様子が見られたり拒否があったりしたとき、「話す」「触れる」といった基本技法を意識し支援したが、そのことによる入居者様の変化が評価できるほどなく、効果があったか判断できなかった。引き続き、意識して基本技法を続け様子を見ていく。
- ③ 感染予防に配慮しながら個別外出として、買い物や花見、道の駅おとふけ、ばんえい競馬へ行ったり、十勝川温泉で入浴したり、昨年度よりも多様な場所へ外出することができた。そして、外出の連絡をするとき「一緒にいかがですか」とご家族にお声がけしたところ、一部の方が外出に参加していただけた。また、食事などの制限を付けて日中ご自宅へ行ったりお正月に自宅に泊まったり、お墓参りへ連れていくことなどを案内しご家族と過ごす時間を確保する取り組みも行った。これらの活動を通して、入居者様が久しぶりにご家族とゆっくり過ごす姿も見られ、笑顔が増える場面が多く見られた。
- ④ ノルウェー疥癬の発生時、感染症予防対策マニュアルを見直し情報の共有を徹底することで感染が広がらないよう努めた。また、認知症ケアの基盤となるアセスメント力の向上や、専門的知識・技術の習得、ケアの統一を目的に事例検討会を実施し職員間で情報共有を進めるとともに、高齢者の人権や虐待防止に関する集合研修、虐待の定義を踏まえたグループワークを行った。このような、各種会議、委員会、研修会を定期、臨時に行うことで、サービスの質を向上させ安心して過ごしていただけるよう努めた。
- ⑤ ユニット目標や職員からの意見を踏まえ、年間研修計画を策定し実施した。集合研修については業務都合により受講率は約5割にとどまったものの、前年度よりも多くの研修を開催することができた。職員育成については、個人目標管理表に基づき進捗評価と上司面談を実施した。その中で、さらに他施設での学習機会を求める声が挙がったため、若手職員のスキル向上と視野拡大を目指し、帯広市内の老健施設の見学を実施した。見学を通して、他施設の取り組みやケア方法を学ぶ機会となり、職員からは「自施設に取り入れたい」「業務改善のヒントになった」などの前向きな意見も聞かれた。
- ⑥ 他者の立場に立って物事を考えられるよう、日常のケアにおける課題や介護観について、会議・委員会・施設内研修の場を活用して、職員同士が意見交換を行った。

ロータス音更(介護予防)通所介護事業所

ロータス音更(介護予防)認知症対応型通所介護事業所

利用者様の意思を尊重しながら、自分らしく日々笑顔で安心して過ごしていただける通所事業所を目指す。また、在宅生活の継続のために、心身機能の維持・向上を目指し、個々に適したサービスの提供を行う。

《重点推進課題》

1. 利用者様が楽しみを持ちながら、継続して通っていただけるサービスの提供と、安全な環境づくりを行いながら、お一人おひとりのニーズに合った支援を目指す。

《中期経営計画 (1)(2)(3)》

【指標・評価方法】

- ① 利用者様に活気ある時間を過ごしていただくために、個々が選択できる趣味活動の内容のバリエーションを増やし、やる気が起きる支援を行う。…(1)
- ② 地域ボランティアの方々と行う行事や外出等の計画を行うことで地域の方々との関係性を築けるサービスを目指す。…(3)
- ③ 屋外活動として、利用者様と施設周辺を散歩する。また、職員や他利用者様と交流しながら花や野菜の栽培を行い、成長を楽しむことで通所内の生活が有意義なものとなるよう努める。…(1)(3)
- ④ 利用者様の体調や身体の変化を見逃さないため、日々の観察や職員間での情報共有を行う。また、ご家族様と介護支援専門員へ利用中の変化の状況や、その他の情報共有を毎月のデイサービス通信の他、号外を発行することなどで密に行い、利用者様とご家族が安心して生活できるよう支援していく。…(1)(2)
- ⑤ 物品の整頓や、床の清掃、事業所内の環境整備を行い、転倒事故等が起きないように努める。…(1)

【結果】

- ① 利用者様一人ひとりのニーズに合わせた趣味活動や脳トレを充実させたことにより、通所する目的や楽しみに繋げることができた。個人目標を掲げたスタンプカードを導入し、目標達成のため、活動へ意欲的に取り組む姿勢が見られた。また壁画制作や月1回のレクリエーション、季節行事やカフェ行事、おしゃれ day など、多様なプログラムを通じて達成感を感じてもらいながら、また、リラックスしながら楽しめる時間も提供できた。さらに、午後の活動時間を前倒しし、小集団・個別での選択型レクリエーションを実施したことで、参加意欲や交流が活発化し、利用者様の満足度が向上した。全体として利用者様の主体性と意欲に良い変化が見られた。
- ② 感染予防対策により控えていた外出行事を再開し、特に普段外出する機会の少ない利用者様より気分転換やリフレッシュに繋がったとの声が多く聞かれた。敬老会では地域ボランティアの協力により、利用者様と一緒に楽しめる多彩な催しを行い、一体感のある交流の場を提供することができた。さらに、日々の活動を SNS で発信し、ご家族や関係機関との情報共有を図ったほか、夏季にはクーリングシェルターとして、自宅にエアコンがない

当日利用日でなかった利用者様を受け入れるなど、サービスの向上に努めた。

- ③ 施設敷地内での花見や散策により、季節の花々に触れる機会を提供し、利用者様の気分転換やリフレッシュを図った。園芸活動ではプランターを用いて花やカボチャ、キュウリ等の野菜を栽培し、水やりや手入れを利用者様とともに行った。収穫物は調理して食べたことで、満足感や達成感を高めることができた。さらに、栽培を通じて会話や交流が増え、利用者様同士や職員との関係性を深めることにも繋がった。
- ④ 送迎時のご家族への体調確認や通所後のバイタル測定、日中の様子確認を継続的にを行い、利用者様の体調変化の早期把握に努め、変化が見られた際には職員間で速やかに情報を共有し、ご家族へ随時連絡したり受診を促すなど、迅速な対応を実施した。結果、ご家族からも安心に繋がると評価を得た。また、変化が顕著な利用者様についてはカンファレンスを通じて、対応方法や観察ポイントを共有し、支援の統一を図った。さらに、利用者様やご家族の支援に対する困りごとなどをケアマネジャーへ随時報告を行うこととともに、サービス担当者会議等で他事業所との情報共有もを行い、支援計画やサービス調整に反映することができた。
- ⑤ デイルーム内や脱衣場前のレイアウト変更を行い、利用者様の動線の安全確保と職員による見守りのしやすさの両立を図った。また、創作活動等により物品が増える中でも、整理整頓を継続した状態を維持することで、転倒事故等のリスクを減らすことができた。

2 介護老人福祉施設・(介護予防)短期入所生活介護・

(介護予防)通所介護・(介護予防)認知症対応型通所介護の運営

(1)施設の開設

介護保険法第70条第1項（第79条第1項・第86条第1項・第94条第1項・第107条第1項・第115条の2第1項）の規定に基づき、平成20年4月17日付で北海道に対し指定（許可）申請を行い、平成20年4月28日付（老人福祉法第15条第4項）で認可を受け、同平成20年4月28日付で介護保険法第48条第1項第1号の指定介護老人福祉施設として指定された。

平成21年2月1日、標準型（介護予防）通所介護1日定員15名を開設。

平成22年3月1日、標準型（介護予防）通所介護1日定員を20名に変更。

平成22年8月1日、標準型（介護予防）通所介護1日定員を25名に変更

平成30年1月1日、標準型（介護予防）通所介護1日定員を30名に変更

平成30年1月1日、標準型（介護予防）通所介護1日定員を30名に変更

令和 3年2月1日、介護老人福祉施設の定員を80床、短期入所生活介護を空床型に変更

概要は、次のとおり

施設 の 名 称 介護老人福祉施設 ロータス音更
 施設 の 所 在 地 河東郡音更町中鈴蘭元町2番地9
 施設 の 種 類 介護老人福祉施設
 (介護予防)短期入所生活介護
 通所介護
 第一号通所事業
 (介護予防)認知症対応型通所介護
 入 所 定 員 80名(空床型ショートステイ)
 通 所 定 員 標準型30名・認知症型12名(1日当たり)

(2)施設職員の配置状況

2026.3.31現在

		施 設 長	医 師	事 務 員	生 活 相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	管 理 栄 養 士	栄 養 士	介 護 支 援 専 門 員	機 能 訓 練 指 導 員	介 助 員	介 護 ア シ ス タ ン ト	夜 間 警 備 員	調 理 員	計
入 所	基準数 (人)	1	1 ①		1	24	3	1		1	1					33 ①
	現 員 (人)	1 (1)	1 ①	2 (1)	2 (1)	39 ⑥	5	1		2 (2)	1	4 ⑤		3 ③	委 託	61 ②
通 所	一般型	基準数 (人)	1		1	3	1				1					7
	現 員 (人)	1 (1)			5 (5)	4 (4)④	1 (3)	1 (1)			2 (2)				委 託	14 ④
所 知 症 型	基準数 (人)	1			1	2	1				1					6
	現 員 (人)	1 (1)			5 (5)	4 (4)④	1 (3)	1 (1)			2 (2)				委 託	14 ④

* ()は兼務。○は非常勤の内数。

(3) 行事实施状況表(入居)

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	24日	花見(ドライブ)	鈴蘭公園	5名
	25日	ユニットレク(春の運動会)	きたこぶし・ななかまどユニット	19名
	28日	花見(散歩)	青葉公園	18名
	30日	花見(ドライブ)	工業団地通り～西5条橋付近	10名
5月	1日	周辺散歩	きたこぶし・ななかまどユニット	12名
	21日	買い物外出(きたなな)	音更サンキ、ダイイチ	3名
	23日	買い物外出(やままる)	しまむら音更店	4名
	23日	ユニットレク(的当てゲーム)	はなみずき・もくれんユニット	20名
	30日	個別外出(やますず)	柳月スイートピアガーデン、道の駅おとふけ	4名
6月	16日	個別外出(きたなな)	柳月スイートピアガーデン、道の駅おとふけ	4名
	20日	買い物外出(やますず)	音更サンキ、ダイイチ	名
	26日	個別外出(やままる)	ホテルテトラ十勝川	3名
7月	16日	買い物外出(きたなな)	フクハラ、しまむら	4名
8月	20日	個別外出(やままる)	道の駅おとふけ	4名
	21日	買い物外出(きたなな)	音更サンキ、ダイイチ	4名
	22日	納涼会(やままる)	やまぐわ・すずかけのきユニット	20名
	26日	ユニットレク(ジャンボ風船バレー)	はなみずき・もくれんユニット	20名
9月	7日	ユニットレク(敬老の日記念撮影)	やまもみじ・まろにえユニット	20名
	23日	ユニットレク(ボーリング大会)	やまぐわ・すずかけのきユニット	16名
	25日	ユニットレク(敬老のレクリエーション会)	きたこぶし・ななかまどユニット	20名
	25日	買い物外出(はなもく)	音更サンキ、ダイイチ	2名
	29日	個別外出(やますず)	ばんえい十勝	1名
10月	17日	秋祭り	2階・3階EVホール	80名
11月	26日	ユニットレク(作品作り)	やまもみじ・まろにえユニット	20名
	28日	ユニットレク(クリスマスリース作り)	はなみずき・もくれんユニット	20名
12月	9日	餅つき	各階EVホール	78名
	15日	ユニットレク(紅白歌合戦)	やまもみじ・まろにえユニット	20名
	16日	ユニットレク(クリスマス・忘年会)	やまぐわ・すずかけのきユニット	20名
	25日	ユニットレク(クリスマス会)	きたこぶし・ななかまどユニット	18名
	26日	ユニットレク(忘年会)	はなみずき・もくれんユニット	20名
1月	21日	調理レク	やまもみじ・まろにえユニット	18名
	27日	ユニットレク(もぐらたたきゲーム)	きたこぶし・ななかまどユニット	20名
	31日	ユニットレク(新聞引き寄せゲーム)	はなみずき・もくれんユニット	20名
2月	3日	ユニットレク(節分)	やまもみじ・まろにえユニット	19名
	3日	ユニットレク(節分)	やまぐわ・すずかけのきユニット	15名
	3日	ユニットレク(節分)	はなみずき・もくれんユニット	20名
	3日	ユニットレク(節分)	きたこぶし・ななかまどユニット	20名
3月	11日	ユニットレク(居酒屋レク)	やまもみじ・まろにえユニット	19名
	24日	ユニットレク(タケノコ狩りゲーム)	きたこぶし・ななかまどユニット	20名
	22日	ユニットレク(カラオケ)	やまぐわ・すずかけのきユニット	16名

(3)行事実施状況表 (通所)

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	7日・22日	カフェ行事	デイルーム	49名
5月	5日	入浴レク(菖蒲湯)	浴室	27名
	6日～11日	母の日週間	デイルーム	59名
	23日	園芸活動	デイルーム前ベランダ	8名
	9日・21日	カフェ行事	デイルーム	50名
6月	10日～15日	父の日週間	デイルーム	15名
	7日・20日	カフェ行事	デイルーム	50名
6～8月	6/11～8/28日	外出行事	デイルーム	54名
7月	15日・24日	カフェ行事	デイルーム	64名
8月	13日・23日	カフェ行事	デイルーム	50名
	9・12・14日	夏祭り行事	デイルーム	74名
	21日	入浴レク(夏気分)	浴室	26名
	21日	ソフトクリーム行事	デイルーム・デイ事務所前	26名
9月	25日	カフェ行事	デイルーム	22名
	10日～16日	敬老週間	デイルーム	175名
10月	18日	入浴レク(ジャスミンの湯)	浴室	32名
	29日	運動会	デイルーム	30名
	11日・26日	カフェ行事	デイルーム	55名
11月	7日・20日	カフェ行事	デイルーム	54名
	20日	焼き芋行事	デイルーム	31名
12月	21日	入浴レク(ゆず湯)	浴室	30名
	15日	カフェ行事	デイルーム	26名
	24日～26日	クリスマス忘年会		82名
1月	10日	餅つき	デイルーム	25名
	22日	昼食行事(天井)	デイルーム	29名
	17日・28日	カフェ行事	デイルーム	50名
2月	3日	節分行事	デイルーム	29名
	9日・24日	カフェ行事	デイルーム	53名
3月	3日	ひな祭り行事	デイルーム	27名
	20日	おやつレク	デイルーム	25名
	12日・25日	カフェ行事	デイルーム	55名
6～8月	6/11～8/28日	外出行事	デイルーム	54名

(4)利用者の状況

ア. 年齢別構成状況(人)

	未満 5 64	65 5 69	70 5 74	75 5 79	80 5 84	85 5 89	90 5 94	95 以上	合計	最低 年齢	最高 年齢	平均 年齢	前年 平均
男	0	0	0	1	3	5	4	1	14	76	99	87.1	85.7
女	1	0	1	5	9	14	25	7	62	64	104	88.6	87.8
計	1	0	1	6	12	19	29	8	76			88.3	87.4

イ. 要介護度別利用者状況(延人数)

性別	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計	平均	前年平均
男	0	0	2,720	910	1,604	5,234	3.79	3.69
女	0	0	11,101	7,349	3,870	22,320	3.68	3.79
計	0	0	13,821	8,259	5,474	27,554	3.70	3.77

ウ. 介護保険者別構成状況(人)

	音更町	帯広市	芽室町	幕別町	大樹町	足寄町	豊頃町	大阪府堺市	東京都葛飾区	合計
男	8	4	0	1	0	0	1	0	0	14
女	39	17	1	1	1	1	0	1	1	62
計	47	21	1	2	1	1	1	1	1	76

エ. 入所者所得段階(人)

	第1段階	第2段階	第3段階①	第3段階②	第4段階	合計
男	1	1	2	4	7	15
女	3	10	8	16	24	61
計	4	11	10	20	31	76

オ. 健康保険加入状況(人)

	後期高齢者医療制度	国民健康保険	社会保険	組合健康保険	生活保護	合計
男	13	0	0	0	1	14
女	59	0	0	0	3	62
計	72	0	0	0	4	76

カ. 在所者利用期間別構成状況(人)

	1年未満	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	10年以上	合計
男	6	1	1	2	2	0	2	0	0	0	0	14
女	12	14	14	8	4	6	1	1	0	1	1	62
計	18	15	15	10	6	6	3	1	0	1	1	76

キ. 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)(人)

	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	合計
男	0	1	0	1	5	1	4	1	1	14
女	0	2	1	4	18	8	22	4	3	62
計	0	3	1	5	23	9	26	5	4	76

ク. 認知症高齢者の日常生活自立度(人)

	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	合計
男	0	3	0	1	4	4	1	1	14
女	2	1	3	19	23	6	4	4	62
計	2	4	3	20	27	10	5	5	76

ケ. 通院状況(延人数)

	内科	精神科	循環器科	呼吸器科	外科	整形外科	形成外科	脳外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻科	歯科	合計
男	5	15	1	0	3	13	0	1	2	6	0	0	0	0	46
女	19	21	14	0	10	95	9	9	13	0	2	9	7	0	208
計	24	36	15	0	13	108	9	10	15	6	2	9	7	0	254

(重複掲載)

コ. 往診状況(延人数)

	内科	歯科	皮膚科	合計
男	380	114	45	539
女	1,432	128	167	1,727
計	1,812	242	212	2,266

(重複掲載)

サ. 入所・短期利用状況

利用状況	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
	日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	
入所利用延人数	2,264	2,374	2,281	2,338	2,349	2,295	2,343	2,254	2,294	2,329	2,109	2,324	27,554	27,404
短期利用延人数	104	68	82	64	54	71	53	54	85	55	74	52	816	706
1日平均人数	78.93	78.77	78.77	77.48	77.52	78.87	77.29	76.93	76.74	76.90	77.96	76.65	77.73	77.01
入所率(%)	98.67	98.47	98.46	96.85	96.90	98.58	96.61	96.17	95.93	96.13	97.46	95.81	97.16	96.27

シ. 入退所状況(人)

入所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
	家庭	1	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	1	
病院	0	0	0	1	2	0	1	0	1	1	0	1	7	3
他施設	0	2	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	7	11
合計	1	2	1	2	3	0	1	2	2	2	0	3	19	18
退所	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年合計
	家庭	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
病院	2	0	0	1	0	0	1	1	1	0	1	0	7	4
他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	0	2	2	3	0	0	1	1	0	1	2	2	14	17
合計	2	2	2	4	0	0	2	2	1	1	3	2	21	21

ス. 入所待機者状況(人)

	要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男	0	0	0	0	10	8	4	22
女	0	0	0	0	27	16	6	49
計	0	0	0	0	37	24	10	71

	入所減免額			(予防)短期減免額			(予防)通所減免額								合計 (円)	
	通常減免		1件当平均 (円)	通常減免		1件当平均 (円)	(一般型)				(認知症型)					1件当平均 (円)
	件数	金額(円)		件数	金額(円)		通常減免		特別減免		通常減免		特別減免			
			件数			金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)				
4月	14	355,035	25,360	0	94,026	0	1	7,055	0	0	2	6,463	22	92,437	4,238	555,016
5月	16	375,908	23,494	0	5,280	0	1	6,917	0	0	2	8,198	23	97,322	4,325	493,625
6月	17	378,483	22,264	0	5,280	0	1	4,433	0	0	2	5,768	23	82,492	3,565	476,456
7月	15	378,497	25,233	1	5,280	5,280	1	7,805	0	0	2	3,248	18	84,010	4,527	478,840
8月	13	386,858	29,758	1	5,280	5,280	1	5,500	0	0	1	6,013	17	82,110	4,928	485,761
9月	13	338,812	26,062	1	5,280	5,280	1	4,433	0	0	1	940	18	78,400	4,189	427,865
10月	14	373,754	26,697	1	5,280	5,280	1	4,801	0	0	0	0	19	89,050	4,693	472,885
11月	15	325,712	21,714	1	5,280	5,280	1	4,433	0	0	0	0	18	82,910	4,597	418,335
12月	16	352,733	22,046	1	5,280	5,280	1	4,801	0	0	0	0	17	78,310	4,617	441,124
1月	16	365,848	22,866	1	4,400	4,400	1	4,801	0	0	0	0	17	73,290	4,338	448,339
2月	16	318,284	19,893	2	11,774	5,887	1	4,065	0	0	0	0	20	74,405	3,737	408,528
3月	17	374,442	22,026	3	13,241	4,414	1	4,801	0	0	0	0	19	76,570	4,069	469,054
合計	182	4,324,366	23,760	12	165,681	13,807	12	63,845	0	0	10	30,630	231	991,306	51,821	5,575,828

ソ. (介護予防)通所実施状況

1)一般型

	登録人数	開放日数	利用人員	一日平均人数	利用率(%)	介護度別延べ人数(人)							サービス状況(回)		
						要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	入浴	食事	個別機能訓練
4月	90	26	484	18.62	62.1	15	46	286	70	61	6	0	412	484	135
5月	94	27	523	19.37	64.6	19	51	315	67	64	7	0	538	523	174
6月	92	25	455	18.20	60.7	13	44	295	40	37	5	21	536	455	188
7月	92	27	557	20.63	68.8	22	32	358	59	52	11	23	587	556	159
8月	94	26	525	20.19	67.3	19	24	334	62	60	16	10	563	524	167
9月	96	26	541	20.81	69.4	16	38	341	95	39	12	0	508	541	137
10月	104	27	598	22.15	73.8	28	50	344	116	45	15	0	536	599	152
11月	102	26	541	20.81	69.4	22	45	312	114	28	20	0	509	541	130
12月	102	26	579	22.27	74.2	24	57	335	123	26	14	0	470	579	142
1月	105	25	522	20.88	69.6	28	49	304	106	23	12	0	455	522	127
2月	109	24	522	21.75	72.5	28	45	312	103	21	6	7	397	522	120
3月	101	26	583	22.42	74.7	33	48	354	112	18	9	9	447	582	126
合計	311	6,430	20,688	20.68	68.92	267	529	3,890	1,067	474	133	70	5,958	6,428	1,757
前年合計	310	6,631	21,399	21.39	71.30	181	529	3,420	1,568	661	272	0	6,093	6,627	2,111

2)認知症対応型

	登録人数	開放日数	利用人員	一日平均人数	利用率(%)	介護度別延べ人数(人)							サービス状況(回)			
						要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	入浴	食事	個別機能訓練	若年性受入加算
4月	23	26	217	8.35	69.55	0	0	86	87	42	0	2	177	217	172	0
5月	24	27	225	8.33	69.44	0	0	96	85	44	0	0	178	225	225	0
6月	23	25	211	8.44	70.33	0	0	109	78	24	0	0	170	211	210	0
7月	21	27	217	8.04	66.98	0	0	124	85	8	0	0	178	217	217	0
8月	19	26	210	8.08	67.31	0	0	113	84	13	0	0	172	210	210	0
9月	21	26	207	7.96	66.35	0	0	123	73	11	0	0	168	207	207	0
10月	22	27	233	8.63	71.91	0	0	116	104	13	0	0	188	233	233	0
11月	20	26	210	8.08	67.31	0	0	103	96	11	0	0	171	210	210	0
12月	20	26	210	8.08	67.31	0	0	103	85	22	0	0	171	210	210	0
1月	21	25	195	7.80	65.00	0	0	96	79	20	0	0	156	195	195	0
2月	24	24	188	7.83	65.28	0	0	97	68	23	0	0	146	188	188	0
3月	21	26	197	7.58	63.14	0	0	105	70	22	0	0	153	197	197	0
合計	311	2,520	8,109	8.10	67.52	0	0	1,271	994	253	0	2	2,028	2,520	2,474	0
前年合計	310	2,305	7,449	7.44	61.96	0	0	780	840	471	104	110	1,882	2,264	2,113	0

(5) 苦情受付件数と主な内容

2 件		内 容	第3者委員等の報告	結果
部門	苦情申出者			
通所	ご家族	ご家族より、今朝から本人の足が痛く歩くことができない、デイサービス利用中に何かなかったか、また、病院に連れていけないので連れてもらえないかと電話 対応策→デイサービスにおいて痛みの原因となる経緯は確認できなかったが、痛みがあり歩行困難とのことであるため、緊急性があると判断し病院への送迎を行った。	無	解決
通所	ご本人	送迎の際、予定より早いとご立腹の様子であったが、予定時間通りであることをお伝えすると、職員の対応に納得がいかない、送迎時間を変えないでほしいとの訴えが 対応策→時間に対して強い思いがあり納得されず。現状では希望時間のお迎え対応できるが、今後時間の変更が生じる場合もあることを伝え納得されている。	無	解決

(6) 介護事故件数

重大事故 (行政報告)		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	0	13	1	3	0	0	0	0	0	(1)	0	2	19
	短期	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	通所	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	認知通所	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	0	18	2	3	0	0	0	0	0	0	(1)	0	2

事故 (施設内処理)		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	3	19	18	14	13	22	0	0	0	1	0	13	103
	短期	0	3	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	7
	通所	0	1	9	0	1	3	0	0	0	0	0	1	15
	認知通所	1	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	2	7
	合計	4	23	29	16	14	29	0	0	0	1	0	16	132

ヒヤリハット		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	26	6	17	23	0	1	0	0	0	0	0	1	74
	短期	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	通所	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5
	認知通所	0	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	1	6
	合計	27	7	23	24	0	1	1	0	0	0	1	3	87

(7) 慰問・ボランティア状況

	名 前	内 容	来 所 日	延べ人数
慰問関係	なでしこの会	デイサービス敬老会 余興	R7.9.10	7名
	赤とんぼの会	デイサービス敬老会 余興	R7.9.11	5名
	音更三絃会	デイサービス敬老会 余興	R7.9.12	6名
	大谷短大軽音部	デイサービス敬老会 余興	R7.9.13	5名
	オカリナサークル鳩笛	デイサービス敬老会 余興	R7.9.15	3名
その他	大福 順一	車椅子修理 清掃ボランティア	毎週火曜、水曜	85名
合 計			延べ人数(団体)	26名
			〃 (個人)	85名
			〃 合計	111名

(あんじゅ音更と重複掲載)

(8) 実習生受入れ状況

受入期間	人 数	受入日数	延べ人数	学 校 名	学 部 ・ 学 科	実 習 内 容
R 6 . 6 . 25 ~ R 6 . 6 . 26	2	2	4	帯広市医師会看護専門学校	看護学科	看護実習
R 6 . 10 . 2 ~ R 6 . 10 . 3	2	3	6	帯広大谷短期大学	看護学科	看護実習
R 7 . 2 . 10 ~ R 7 . 2 . 25	2	12	24	小博大谷短期大学	社会福祉科	介護実習
R 7 . 2 . 12 ~ R 7 . 2 . 18	1	5	5	帯広コア専門学校	介護実務科	初任者研修
R 7 . 5 . 13 ~ R 7 . 5 . 15	1	3	3	北海道介護支援専門員協会	介護支援専門員実務研修	実地研修
R 7 . 6 . 11 ~ R 7 . 6 . 13	1	3	3	北海道社会事業協会帯広看護専門学校	看護学科	看護実習
R 7 . 6 . 24 ~ R 7 . 6 . 26	3	3	3	帯広市医師会看護専門学校	看護学科	看護実習
R 7 . 6 . 30 ~ R 7 8 . 8	7	20	35	帯広大谷短期大学	看護学科	看護実習
R 7 . 9 . 9 ~ R 7 9 . 19	2	6	6	北海道社会事業協会帯広看護専門学校	看護学科	看護実習
合 計	7	22	39			

(9) 地域における公益的な取組(事例について自由記述)

<ul style="list-style-type: none"> ・音更町民生委員第7部会(包括支援センターより依頼)への施設紹介や施設職員との意見交換会を実施 ・音更高等学校インターンシップ 生徒2名参加 ・音更町社会福祉協議会福祉フェスタへの参加(介護施設紹介、入所相談)

音更町地域包括支援センター ロータス音更

1 重点推進項目の実施報告

音更町地域包括支援センター ロータス音更

引き続き2025年度からの5年間、音更町C圏域の地域包括支援センター運営委託業務を受託するとなり、2020年度からの実績を踏まえ、地域の総合相談窓口として、住み慣れた地域で安心して過ごす事ができるよう、心身の健康保持及び生活の安定のため必要な援助を行い地域づくりに貢献していく。

《重点推進課題》

1 健康で生きがいを持ち、安心して暮すことのできるまちづくりの実現に向けて

《中期経営計画 (1)(2)(3)》

町の目指す地域包括ケアを推進するため、総合相談窓口・介護予防計画作成など、基本的な役割に加え、総合相談の拠点機能を通じて、地域住民の生活課題から地域課題を抽出し、地域包括ケア実現に向けた機能の強化を図っていく。また総合相談のみでは、把握出来ない地域課題等については、民生委員等との情報交換で把握に努め地域住民のより良い生活の構築に寄与していく。

【指標・評価方法】

- ① 下記の7つの業務を円滑に行い、地域包括支援センターロータス音更が地域拠点の総合相談の拠点として機能していく。
 - 1) 介護予防ケアマネジメント業務
 - 2) 総合相談支援業務
 - 3) 権利擁護業務
 - 4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務
 - 5) 認知症施策の推進業務
 - 6) 在宅医療・介護連携の推進業務
 - 7) 地域ケア会議開催業務
- ② 独自の実態把握調査を継続して実施するとともに、圏域内の各民生委員部会と意見交換会を開催し、地域住民の生活課題や地域課題について情報交換を行う。抽出された課題については、必要に応じて各関係機関とも情報を共有し対応を協議する。
- ③ 地域住民の心身の健康保持を目的に、圏域内で出前健康講座を1回開催する。
- ④ 看護師養成校3校の実習を受入れ、地域包括支援センターの役割などについて学んで頂き、地域に於ける専門職員の育成に寄与する。

【結果】

- ① 介護予防ケアマネジメント A(介護給付実績)の実績は、自事業所担当件数が 1,150 件(前年比 75 件増)、居宅介護支援事業所への委託件数 843 件(前年比 77 件増)と、圏域内で介護認定を受け、介護保険サービスの利用を開始した方が増えた事が示されている。また介護予防ケアマネジメント B(音更町通所型介護予防事業)についても、229 件(前年比 77 件増)となり、自事業所の総担当件数は 152 件増加している。

2025 年度の総合相談件数は 506 件(前年比 57 件増)となった。主な相談内容は依然として介護認定の申請と付随する介護保険制度についての相談が上位を示している。相談方法としては、家族・親族による来設相談が多い結果となった。また対応としては、連絡調整が前年比 33 件増となっているが、医療機関への主治医意見書記載の調整や関係機関との連絡調整による増加となっている。

権利擁護に関する相談は、5 件の実績となり、うち 4 件が虐待の疑いがあるケースとして相談を受け付け、速やかに町と情報共有及び訪問対応等を行い、1 件が虐待認定となっている。また虐待疑い以外では、成年後見制度の活用に関する相談であり、課題支援型個別ケア会議へと発展したケースであった。対応結果として、成年後見制度の申立手続きには移行せず、関係機関等で情報の共有や対応策を検討するのみで終結している。

- ② 独自実態把握調査については、8 行政区を対象に実施した。実施方法については、アンケート調査用紙を送付し、意向に応じて訪問や電話連絡などの対応を行ったほか、地域課題については、公共交通機関への不安が浮き彫りとなり、行政とも調査結果を共有している。また民生委員との意見交換会は 1 部会と行う事が出来た。地域にある施設との情報共有を図りたいとの意向から、包括支援センターのみではなく、介護老人福祉施設ロータス音更・介護老人保健施設あんじゅ音更にも協力を頂き、施設概要等を紹介している。

- ③ 『みんなの笑顔』と題した地域健康イベントを地域の薬局と福祉用具貸与事業所の協力を得て初開催した。地域住民及び関係機関職員など総数 21 名の参加があり、地元新聞社に取材を行って頂き、記事として活動を地域に発信する事が出来た。

- ④ 看護師養成校 3 校から実習生 13 名(延べ 32 日間)受入れを行い、地域包括支援センターの役割を中心に学習する機会を提供した。また総合相談のみではなく、ケアマネジメントに於ける訪問にも同行し、在宅で暮らす高齢者との関わりや医療と介護の連携・介護予防等について学ぶ機会を持って頂いた。

2 地域包括支援センターの運営

(1) 事業所の開設

音更町より音更町地域包括支援センターC圏域の運営委託を受け、音更町地域包括支援センターロータス音更は2020年4月1日に開設した。主任介護支援専門員・保健師・社会福祉士等を配置して、3職種のチームアプローチにより、住民の健康保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援する事を目的としている。

概要は、次のとおり

施設 の 名 称 音更町地域包括支援センターロータス音更
 施設 の 所 在 地 河東郡音更町中鈴蘭元町2番地9
 施設 の 種 類 地域包括支援センター・介護予防支援事業所

(2) 施設職員の配置状況

2026.3.31 現在

		管 理 者	主 任 介 護 支 援 専 門 員	保 健 師 （ 看 護 師 ）	社 会 福 祉 士	介 護 支 援 専 門 員	計
居 宅	現 員 （ 人 ）	1	2	1	1		5

※1 ()は兼務。

※2 基準配置については標記困難な為、現員についてのみ掲載。

1 利用者状況（介護給付実績 ケアマネジメントA）

包括担当	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	前年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
要支援1	14	37	12	39	14	43	14	43	14	47	15	48	15	48	14	50	11	52	13	49	13	46	14	45	710	589	
要支援2	11	26	12	25	12	24	11	23	12	22	13	22	14	25	13	24	16	24	14	24	12	24	13	24	440	486	
計	88		88		93		91		95		98		102		101		103		100		95		96		1150	1075	
初回加算	3		5		7		4		4		5		4		1		7		2		1		3		46	27	
終了者 (前月末)	要介護	2		3		4		1		0		2		1		1		2		2		2		2		22	23
	施設入所	1		0		0		0		2		0		0		0		1		0		0		0		4	0
	死亡	1		0		0		1		0		0		0		0		0		0		1		0		3	1
	その他	0		0		0		1		2		0		1		0		1		0		0		1		6	3
	計	4		3		4		3		4		2		2		1		4		2		3		3		35	26

居宅委託	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	前年
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
要支援1	7	21	7	22	9	22	9	24	7	24	9	24	8	26	8	27	9	27	9	25	8	25	8	23	388	320
要支援2	8	34	9	33	8	36	7	33	7	31	7	31	7	28	8	27	8	26	8	27	7	29	7	29	455	446
計	70		71		75		73		69		71		69		70		70		69		69		67		843	766

2 利用者状況（音更町通所型介護予防事業 ケアマネジメントB）

	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	前年	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
事業対象者	1	11	1	11	1	12	1	12	3	15	2	14	2	15	2	14	2	14	2	13	2	13	2	12	177	121	
要支援1	0	2	0	3	0	2	0	2	0	2	1	3	0	3	0	2	0	5	0	6	0	3	0	3	37	17	
要支援2	0	3	0	2	0	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	14	13	
要介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	
計	17		17		16		15		21		21		21		19		22		23		19		18		229	152	
初回加算	1		0		1		0		5		0		1		0		0		1		0		0		9	9	
終了者 (前月末)	要介護	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		2		0		2	2
	施設入所	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	死亡	0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0		0	0
	その他	0		0		0		0		0		0		0		0		1		0		0		2		3	0
計	0		0		0		0		0		0		0		0		1		0		2		2		5	2	

3 相談件数・内訳

相談件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年
新規	43	34	29	27	33	41	21	29	26	29	26	21	359	322
継続	6	15	19	10	8	15	7	15	14	12	17	9	147	127
計	49	49	48	37	41	56	28	44	40	41	43	30	506	449

受付時間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年
平日	49	49	46	37	41	54	28	44	40	40	43	30	501	438
休日	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	4	5
夜間	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
早朝・深夜	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
計	49	49	48	37	41	56	28	44	40	41	43	30	506	449

相談方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年
電話	11	28	22	15	15	20	9	23	14	11	11	9	188	151
訪問	5	3	2	6	3	2	2	5	2	2	0	5	37	45
来所	33	18	24	16	22	34	17	16	24	27	32	16	279	252
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	1
計	49	49	48	37	41	56	28	44	40	41	43	30	506	449

相談者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年
本人	6	8	1	5	3	6	2	5	4	2	3	6	51	55
家族・親族	30	24	21	24	19	36	15	22	18	28	26	14	277	246
関係委員	0	0	3	0	6	3	0	0	1	0	3	1	17	3
医療機関	2	6	8	5	5	5	2	7	4	2	2	2	50	51
近隣知人	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4
行政	0	0	1	0	1	0	1	1	3	1	0	0	8	5
居宅介護支援事業所	8	9	11	2	3	3	7	5	9	6	9	5	77	74
介護サービス事業所・施設	3	1	0	0	1	3	0	2	1	1	0	1	13	7
地域包括支援センター	0	0	1	0	1	0	1	2	0	0	0	1	6	2
民間業者	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	1
警察	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1
計	49	49	48	37	41	56	28	44	40	41	43	30	506	449

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年
認定申請	37	31	30	28	24	36	22	26	29	32	31	27	353	330
介護保険	26	20	24	26	20	37	19	21	22	28	27	23	293	236
総合事業	0	0	2	0	4	1	1	0	0	0	0	0	8	14
認知症	5	3	6	4	5	4	5	4	1	5	8	2	52	47
施設サービス	7	2	5	2	2	7	3	2	3	10	9	2	54	31
介護保険外サービス	5	2	2	4	1	2	1	2	3	3	3	2	30	27
苦情	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
権利擁護	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	2	0	6	6
地域資源	1	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	6	4
心配な人 (SOS)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心配な人 (安否確認)	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	0	0	5	1
心配な人 (認知・精神)	0	0	3	0	4	1	0	1	3	1	0	0	13	4
心配な人 (生活困難)	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	3
心配な人 (その他)	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	3	1	8	3
医療・介護 (退院支援)	2	3	7	2	2	1	1	3	3	1	0	1	26	23
医療・介護 (制度・サービス)	1	0	1	3	1	2	1	0	0	0	1	0	10	17
医療・介護 (在宅療養)	0	1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	4	6
医療・介護 (その他)	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3	0
事業所相談 (ケアマネジメント)	0	3	1	1	0	0	2	1	1	0	0	0	9	8
事業所相談 (ケース対応・困難事例)	2	4	2	0	0	3	0	3	1	1	4	0	20	9
事業所相談 (その他)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
その他	1	2	1	0	0	2	1	3	1	0	0	0	11	8
計	88	75	84	72	70	103	56	67	70	83	88	58	914	779

対応方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年
制度や対応の説明	37	30	28	28	23	41	20	26	27	33	32	22	347	308
認定調査	32	21	24	21	23	30	18	22	22	27	27	23	290	275
家庭訪問	2	3	2	1	3	4	1	7	1	2	0	2	28	32
連絡調整	1	6	7	5	7	10	4	3	3	6	9	3	64	31
心配な人 (家庭訪問)	0	1	0	2	2	1	0	2	1	1	1	0	11	3
心配な人 (対応説明)	0	0	2	0	4	2	0	0	1	1	2	0	12	8
心配な人 (連絡調整)	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	1	5	0
心配な人 (SOS)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療・介護 (制度や対応の説明)	3	6	6	3	4	5	2	3	1	1	1	1	36	37
医療・介護 (ケアマネ調整)	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4	4
医療・介護 (家庭訪問)	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3	5
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
事業所相談 (助言・指導)	2	7	3	1	0	4	1	3	2	0	4	0	27	14
事業所相談 (継続支援)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	4
事業所相談 (保険者回答)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
苦情 (事業所への指導・助言)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
苦情 (当事者間の調整)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
苦情 (相談者に説明・助言)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
苦情 (他機関を紹介)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
苦情 (道へ通報)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
苦情 (謝罪・対応)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	77	74	75	63	68	97	47	67	62	71	76	52	829	722

4 訪問件数・内訳

訪問件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年
アセスメント	20	22	21	17	17	18	18	16	22	10	9	10	200	146
ケアマネジメントA	52	56	50	50	52	65	65	49	61	57	48	49	654	607
ケアマネジメントB	6	1	5	3	10	5	7	4	7	6	4	11	69	53
サービス未利用者	0	0	0	6	6	6	16	9	6	4	1	0	54	48
継続支援	0	3	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	8	34
認知症初期集中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
困難事例	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
権利擁護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
虐待	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1
あんしんネットワーク	0	1	0	3	0	2	1	0	0	0	0	0	7	4
その他	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0
計	79	84	77	80	85	98	107	78	96	77	64	71	996	894

5 認定調査件数

認定調査件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年
新規調査	13	15	14	16	10	21	12	6	18	16	14	13	168	200
区分変更調査	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	95
更新調査	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	85
計	14	16	14	16	10	21	12	6	19	16	15	13	172	380

※ 2025(R7)年度より居宅実施分を除き、包括支援センター実施分を計上

6 地域活動（出前講座など）

2025年5月21日（水）10時50分～12時10分	
開催場所	十勝川温泉湯の里会館
対象者	十勝川温泉幸生会 参加人数 21名
内容	終活について（ACP）
担当職員	武田管理者（町共催）

2025年8月6日（水）16時00分～17時00分	
開催場所	音更町総合福祉センター
対象者	音更町民生児童委員第7部会 参加人数 11名
内容	地域包括支援センター・介護老人保健施設・介護老人福祉施設について
担当職員	武田管理者

2025年8月17日（日）8時50分～10時00分	
開催場所	千野会館
対象者	千隆町内会 参加人数 13名
内容	要支援者の移動・移乗介助について
担当職員	武田管理者・加須屋主任（町危機対策共催）

2025年9月16日（火）13時10分～14時0分	
開催場所	音更町立緑南中学校
対象者	音更町立緑南中学校3年生 参加人数 87名
内容	認知症サポーター養成講座
担当職員	若林社会福祉士・武田管理者（町共催）

2025年9月17日(水) 11時00分～12時00分	開催場所 宝来団地集会所	対象者 宝来第1区町内会老人会	参加人数 18名
	内容 地域包括支援センターの役割と介護保険制度について		
	担当職員 加須屋主任		
2025年10月9日(木) 10時00分～10時30分	開催場所 とかち帯広YMCA幼保園	対象者 とかち帯広YMCA幼保園 年長	参加人数 10名
	内容 認知症キッズサポーター養成講座		
	担当職員 木戸看護師・若林社会福祉士(町共催)		
2025年10月22日(水) 13時30分～15時30分	開催場所 すずらん生活館	対象者 地域住民	参加人数 21名
	内容 みんなの笑顔2025		
	担当職員 在宅地域支援部門		
2025年11月12日(水) 10時00分～10時30分	開催場所 きたのこぐま保育園	対象者 年長・年中	参加人数 7名
	内容 認知症キッズサポーター養成講座		
	担当職員 武田管理者・千葉主任(あんじゅ音更)(町共催)		
2025年11月19日(水) 13時25分～14時10分	開催場所 音更町立下土幌小学校	対象者 小学4・3年生	参加人数 8名
	内容 認知症キッズサポーター養成講座		
	担当職員 加須屋主任・木戸看護師(町共催)		
2025年12月2日(火) 13時00分～13時45分	開催場所 音更町立木野東小学校	対象者 小学4年生	参加人数 78名
	内容 認知症キッズサポーター養成講座		
	担当職員 武田管理者・藤田主任(あんじゅ音更)(町共催)		
2025年12月5日(金) 10時00分～10時30分	開催場所 すずらん保育園	対象者 年長児	参加人数 33名
	内容 認知症キッズサポーター養成講座		
	担当職員 武田管理者・藤田主任(あんじゅ音更)(町共催)		
2026年1月23日(金) 13時00分～13時30分	開催場所 木野南保育園	対象者 年長児	参加人数 30名
	内容 認知症キッズサポーター養成講座		
	担当職員 加須屋主任・若林社会福祉士(町共催)		
2026年2月20日(金) 13時30分～14時0分	開催場所 宝来こども園	対象者 年長児	参加人数 36名
	内容 認知症キッズサポーター養成講座		
	担当職員 若林社会福祉士・藤田主任(あんじゅ音更)(町共催)		

あんじゅ音更 指定居宅介護支援事業所

1. 重点推進課題の実施報告

あんじゅ音更指定居宅介護支援事業所

利用者様、ご家族が望む生活を実現するため、心身の状況や病状の理解、利用者様に影響を与えるその他の因子などを把握し、保健・医療・福祉サービス事業所とその情報を共有し、連携することで、利用者様の現在の能力に適したサービスが行われるようなケアマネジメント業務を行う。

《重点推進課題》

1. 利用者様が自宅や地域で暮らし続けたいという思いに寄り添う支援を行うため、事業所内勉強会や外部研修で専門職としての資質向上を図り、職員一人ひとりが抱える利用者様個々の課題を明確にする。その上で適切なケアマネジメントを提供できるよう取り組む。

《中期経営計画 (1)(2)(3)(4)》

【指標・評価方法】

- ① 利用者様の思いに寄り添うため、適切なケアマネジメント手法を用いながら、面接やアセスメントを実施する。特に身寄りのない利用者様については、生活環境や支援体制を考慮し、自己決定が限定的とならないよう配慮し、必要な調整を関係機関や関係事業所と図る。
- ② 職員一人ひとりが抱える利用者様個々の課題について、事例検討会を通じて課題を明確にし、適切な対応策を検討する。また、支援過程における担当職員の思いも共有しながら、事業所としての支援の方向性を導き出す。
- ③ BCP に基づいた行動計画をより具体的に想定し、予測される事態を事業所内で共有しながら対策を検討する。また、検討内容を踏まえて、必要に応じて BCP の修正を行い、実効性のある計画とする。

【結果】

- ① 定期的な面接やアセスメントを実施したうえで、利用者様およびご家族の意向について確認し、意向を尊重した支援を行うことができるよう調整を図った。特に身寄りのない利用者様については、生活状況や支援体制を踏まえて抽出された課題に基づき、関係機関との連携を図ることで、自己決定の機会が損なわれないよう支援を行った。
- ② 事業所内において定期的に事例検討会を実施し、職員が抱える利用者様個々の課題を共有した。支援過程における担当ケアマネジャーの悩みや葛藤についても意見交換を行うことで、多角的な視点から対応策を検討した。
- ③ BCP に基づく行動計画の具体化に向け、机上訓練を実施し、災害発生時から出勤まで

の初動対応について職員間で共有した。これにより、行動のイメージ化や意識向上につながった。一方で、参集後の対応や役割分担、利用者様支援に関する具体化は不十分であり、実効性のある計画には至っていない。今後は、課題を踏まえた具体的な手順の整理や実践的な訓練を進め、BCPの見直しを図っていく。

2 居宅介護支援の運営

(1) 事業所の開設

居宅介護支援事業は、介護保険法に基づき平成18年2月1日に開設した。

利用者が要介護状態になった場合、適切でかつ速やかに介護支援を受けることが出来るように、利用者の選択に基づき保健サービス及び福祉サービスが総合的・効率的に提供できるように運営。

概要は、次のとおり

施設 の 名 称 あんじゅ音更 指定居宅介護支援事業所
施設 の 所 在 地 河東郡音更町中鈴蘭元町2番地9
施設 の 種 類 居宅介護支援

(2) 施設職員の配置状況 2026.3.31 現在

		管 理 者	主任 介 護 支 援 専 門 員	介 護 支 援 専 門 員	計
居 宅	現 員 (人)	1	1 (1)	6	8

※1 ()は兼務。○は非常勤の内数。

※2 基準配置については表記困難な為、現員についてのみ掲載。

(3) 居宅介護支援事業所 相談実件数及び相談内容

電話	来所	訪問	合計
62 件	5 件	4,154 件	4,221 件

介護保険関係						合計
制度全般	認定申請	在宅サービス	施設サービス	保険・利用料等	相談・苦情	
4 件	4 件	127 件	23 件	0 件	2 件	160 件

地域・福祉・医療関係						合計
高齢者福祉	障害制度	通院・入院	介護予防	地域支援	その他	
13 件	0 件	24 件	0 件	1 件	8 件	46 件

(重複掲載)

(4) 介護度別 居宅介護サービス計画作成状況

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	前年合計
4月	5.7 件	6.4 件	103 件	41 件	21 件	11 件	5 件	193.1 件	202.6 件
5月	6.7 件	7.7 件	122 件	43 件	17 件	11 件	6 件	213.4 件	200.7 件
6月	7.4 件	9.0 件	118 件	45 件	19 件	11 件	5 件	214.4 件	197.3 件
7月	7.4 件	8.0 件	122 件	45 件	20 件	11 件	5 件	218.4 件	199.7 件
8月	7.0 件	8.0 件	125 件	42 件	18 件	13 件	5 件	218.0 件	200.0 件
9月	7.4 件	8.4 件	118 件	46 件	14 件	13 件	4 件	210.8 件	195.7 件
10月	7.0 件	8.7 件	125 件	52 件	16 件	12 件	5 件	225.7 件	201.0 件
11月	7.7 件	8.0 件	126 件	51 件	17 件	11 件	6 件	226.7 件	200.7 件
12月	8.5 件	7.7 件	121 件	51 件	17 件	8 件	7 件	220.2 件	206.3 件
1月	7.7 件	8.7 件	125 件	48 件	17 件	10 件	8 件	224.4 件	199.4 件
2月	7.4 件	9.4 件	127 件	49 件	19 件	10 件	8 件	229.8 件	193.3 件
3月	7.4 件	10.0 件	130 件	48 件	18 件	10 件	8 件	231.4 件	203.3 件
合計	87.3 件	100.0 件	1,462 件	561 件	213 件	131 件	72 件	2,626.3 件	2,400.0 件

(5) 苦情受付件数と主な内容

0 件				
部門	苦情申出者	内 容	第3者委員等の報告	結果
		対応策 ⇒		

(6) 介護事故件数

	誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬誤配	転倒	転落	打撲捻挫脱臼変色	火傷裂傷皮膚剥離	無断外出行方不明	送迎車による事故	自傷行為暴力	職員言動処遇	溺水	その他	合計
居宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

※事故に至っていない「ヒヤリ・ハット」を含む件数を計上しております。

(重複掲載)

(7) 地域における公益的な取組

介護支援専門員現場実習事業による実習生受け入れ 本年度2名実績
 自立支援型個別ケア会議への参加及び事例提供(音更町地域包括支援センターロータス音更/らんらん 各包括主催)
 音更町地域包括支援センターロータス音更が主催する、みんなの笑顔2025の運営に協力した

老 健 音 更

介護老人保健施設 あんじゅ音更
あんじゅ音更(介護予防)通所リハビリテーション事業所
あんじゅ音更(介護予防)訪問リハビリテーション事業所

1. 重点推進課題の実施報告

介護老人保健施設 あんじゅ音更

利用者様が、住み慣れた環境(地域)において、笑顔で自立した生活を送ることができるよう、個々に合わせたリハビリやレクリエーション、軽作業、季節ごとの行事などの活動を提供し、生活機能の維持・向上を図り、老人保健施設の役割である在宅復帰・在宅療養支援の機能を果たしていく。

《重点推進課題》

1 老健施設の役割を踏まえた支援内容の見直し 《中期経営計画(1)(2)》

昨年度、入所者様のできることを一つでも多く増やせるようカンファレンスでの視点を三つ上げ、支援内容の検討を行うとしてきた。しかし、各職種に担当者がいるものの、業務の都合にてカンファレンスの開催ができない事が多く、十分に検討・改善ができなかった。また、日中の活動内容の見直しや自主訓練の機会も作るよう努めてきたが、まだまだ生活の中で実施できるリハビリの余地があることから、昨年同様の重点推進課題を上げ、入所者様の機能の維持・向上を図る。

【指標・評価方法】

- ① ミニカンファレンスを随時開催し、集まるときに話し合い「できている事に対し、可能な限り続けられるための視点」「できそうなことに対し、できるようになるための視点」「できない事に対し、できそうなことやできる事につなげられる視点」を踏まえて評価を行い支援内容の検討を行う。
- ② 日中の活動内容の見直しを図り、日常生活で実施できるリハビリや自主訓練を各職種で検討し実施する。

【結果】

- ① 課題に合わせて必要な職種を招集する「ミニカンファレンス」は、施設全体への浸透を図るなかで定着化し始めた段階にある。これにより服薬の影響確認や、在宅復帰を見据えた日常生活動作の検討など、多職種での具体的な協議がプラン変更に関わり始めている。今後はこの体制をさらに定着させ、全職種が「三つの視点」を共通言語として活発に議論できる場を増やしていく。
- ② 日中の活動内容を見直すなかで、日常生活の中で行える自主訓練を習慣化させるため、リハビリ職と介護職の連携により「リハビリノート」や「訓練スケジュール表」を導入し、意欲向上に寄与した。一方で、行事や調理レクリエーション等の活動については、現状「楽しむこと」が主目的となっており、老健の役割である機能訓練の視点が不足している実態を共有した。今後は、外出し行事等を含めた全ての日中の活動をリハビリテーションの一環と捉え、生活能力の向上や認知機能への刺激といった明確な目的を設定し、実施・評価する体制へと移行していく。

2 生産性の改善による質の向上

《中期経営計画(4)》

長年行ってきた業務内容や委員会活動の内容を見直し、効率化を図ると共に職員一人ひとりが課題意識を持ち、自ら改善や新たな取り組みを意見・提案できる環境や仕組みを作り、サービスの質の向上や業務の効率化を図る。

【指標・評価方法】

- ① 業務改善委員会を設置、各部署の課題点を抽出できる仕組み作りを導入する。
- ② 課題の抽出後は各部署で協議し、業務の改善につなげる。
- ③ 各委員会の目的、役割、活動内容を再確認する機会を作り運用する。

【結果】

- ① 各部署の主任職で構成した業務改善委員会を設置。効果的な会議の進め方を学ぶため、厚生労働省主催の「介護現場の生産性向上に関する普及加速事業ビギナ・フォローアップセミナー」に参加。成功の秘訣は「準備が8割」にあることを学んだ。これを受け、2025年度は2026年度からの本格始動に向けた「準備期間」と位置づけ、各部署の現場職員で構成された「プロジェクトチーム」の職員選抜を行い、会議等の場を通じて業務改善の重要性を職員に伝え、意識改革を図るための土壌づくりを最優先に進めた。
- ② 2025年度を準備期間としたため、具体的な課題の抽出や部署間での協議・改善の実施までには至らなかった。しかし、年度末の振り返りにおいて、利用者担当制における業務レベルが職員によってバラツキが見られることが大きな問題として共有された。この要因として、担当業務の明確なマニュアルが存在しないために判断基準が職員個々に委ねられていることが考えられたため、次年度は担当業務マニュアルを早期に整備し、全職員が一定のレベルで業務を遂行でき、かつ自ら考え判断し動くことができる体制の構築を課題として取り組んでいく。
- ③ 委員会が存在する意義を踏まえながら会議が進行できるよう各委員会にオブザーバー制度を導入。委員会の目的や役割を再認識する契機となった。今後においては、委員長・副委員長が交代しても一貫した運営が可能となるよう「委員会運営要領」の策定を検討し、これにより、誰がリーダーになっても迷わず、メンバー自らが能動的に考えて活動を推進できる体制の構築を目指していく。

あんじゅ音更(介護予防)通所リハビリテーション事業所

自立支援を主軸とし、心身機能の維持回復を図る通所リハビリテーションの役割を踏まえ、現在提供しているリハビリテーションの適正評価を行いながら、住み慣れた地域や自宅で継続した生活が送れるよう支援を行っていく。

又、新たな魅力を兼ね備えた通所サービスへと進化、成長することで、顧客満足度をさらに上げ、安定した利用率の確保を目指す。

《重点推進課題》

1 新たなリハビリ評価システムの運用 《中期経営計画 ①②》

現在、介護職員が付き添い指導する「リハ補助」と称してリハビリを提供する利用者様の数が増大しているため、日々リハビリをこなすことで精一杯の状況であり、本当に必要なリハビリ内容となっているのか否かを評価できていない。新たなリハビリ評価システムを運用することで、定期的且つ多角的にリハビリ内容を評価し、利用者様の身体機能や生活ニーズに合わせた適切なリハビリが提供できる体制を構築する。

【指標・評価方法】

- ① 新たに作成した評価システムを用いて、3か月に1回、現状のリハビリ内容の整合性を評価するためのミニカンファレンスを開催し、評価内容を記録に残す。
- ② 「リハ補助」に登録されている利用者様の人数が多くなっているため、利用者様への適切な移行評価の説明を行いつつ、「自主訓練」へ移行する人数をさらに増加し、自主的なリハビリテーション実施へと繋げていく。

【結果】

- ① ミニカンファレンスの開催回数は年間で249回。利用者様総数は84名のため、安定した開催を実施できた1年となった。ミニカンファレンス内で介護・リハビリ・相談員の3者による多角的な視点で様々な意見交換を行うことが出来、リハビリ内容を評価・修正できたことは進歩であると考え。課題としては、3者が同時刻に集まる頻度が激減してしまったため、業務効率化を推進することで、顔を見合わせながら行えるミニカンファの安定開催に向けた仕組み作りが必要と感じる。
- ② 令和7年3月時点で「リハ補助」対象者61名、「自主訓練」対象者17名。
令和7年9月末時点で「リハ補助」対象者55名、「自主訓練」対象者13名。
令和8年3月末時点で「リハ補助」対象者54名、「自主訓練」対象者17名で推移。
上半期では「リハ補助」「自主訓練」ともに対象者が減少して推移した。下半期は「リハ補助」の人数が据え置き半面、自主訓練者を微増に繋げることができた。

2 魅力ある通所サービスへの進化

《中期経営計画 ①》

現在提供している通所サービスにおいて、マンネリ化が目立ち、まだまだ改善や検討の余地があると考えている。介護、リハビリ、相談の各部門が一体となって改革に取り組む事で「あんじゅへまた来たい」と思わせる工夫を盛り込み、皆様に選んで頂けるような魅力溢れる通所サービスへとさらに進化する。

【指標・評価方法】

- ① 午後からの趣味活動(麻雀・カラオケなど)がマンネリ化しているため、新たな趣味活動メニューを半年に1度は考案し、実践していく。
- ② 体を使ったゲーム等のレクリエーションメニューを考案し、毎月のデイケア会議内にて評価及び検討を行う。
- ③ 新型コロナウイルス感染症が蔓延して以降、外食行事が実施できていなかったため、外食行事の再開を目指す。

【結果】

- ① 新たな趣味活動メニューの考案までには至らなかったが、少人数で実施可能なランプや花札など提供する機会を午後の時間を中心として提供することができた。今後もマンネリ防止の観点から、提供方法の見直しや満足度向上に向けた検討・修正を行っていく必要がある。
- ② 主に行事のレクリエーションとして、体を使ったゲームの実践を行った。毎月の会議内での評価や検討には至らなかったため、次年度へ繋げるためにも定期的な評価や検討を行う必要があると考える。
- ③ 9月中旬から10月上旬にかけて、日程を確保し、回転寿司と買い物散策コースの外食行事を企画・実施した。男性利用者があまり買い物へのニーズにそぐわない面もあったが、総合的には参加者の高評価を得ることができた。外食という普段とは違った環境下での利用者様の行動を把握することで外出能力の評価にも繋げることが出来た。

あんじゅ音更(介護予防)訪問リハビリテーション事業所

生活機能の維持・向上のための個別リハビリを行う事に加えて、自主訓練や生活の中で出来る活動の提案及び定着を図っていくことで、住み慣れた家と地域で、利用者様、ご家族が笑顔で在宅生活を続ける事ができるよう支援する。

《重点推進課題》

1. 継続した在宅生活への支援

《中期経営計画(1)(2)》

利用者様の機能・能力、日常生活や家屋状況を把握し、適切なリハビリテーションプログラムを立案・実行する事で、安心安全な生活を送れるよう支援する。個別訓練に偏った関わりから脱却するため、訪問リハビリ以外の時間をどう過ごして頂くかマネジメントすることにも重点を置き、個々に合わせた自主訓練メニューを行って頂く事や、他サービスを利用している方についてはその事業所とも連携を取り運動機会を増やすことで効果的に心身機能の維持向上に繋がるよう支援する。

【指標・評価方法】

- ① 医師の診察・指示のもと、利用者様個々の状態に合わせたリハビリテーションプログラムを作成・実施し、心身機能の維持・向上を図る。また利用者様やご家族の在宅生活を営む上での希望と、家屋環境を踏まえたリハビリテーションプログラムを作成し、実際の生活に即した訓練を提供する。
- ② 自主訓練メニューの提供とそのメニューを継続して行って頂けるように支援することや、他サービスも併せて利用している方についてはその事業所との連携を図り、訪問リハビリテーション以外の時間にも訓練を行う時間を持っていただくことで効果的に心身の維持向上を図っていく。
- ③ 3カ月ごとにリハビリテーション会議を開催し、利用者様とご家族、医師、担当リハビリ職員でリハビリテーションの進捗状況の確認や今後の方針について情報共有を行う。また訪問リハビリテーションから他の居宅系サービスへの移行など現状に適したサービスへの切り替えも検討する。必要に応じて関係機関へ会議の内容を伝達し、情報共有を図る。

【結果】

- ① 利用者様の希望や現在の心身機能を踏まえてリハビリテーションプログラムを作成し、ご本人の動きを確認しながら、ご自宅での生活に合わせた訓練を行うことができた。
- ② 自主訓練は継続して提供している。他事業所を利用している利用者様には、定期的な他事業所と実施状況等を共有することができれば、利用者様の心身機能の維持向上につながると思われるので、来年度以降、実施状況の共有ができる機会を持てるよう

にしていきたい。

- ③ リハビリテーション会議を定期的を開催し、利用者様とご家族、医師、担当リハビリ職員で、利用者様の心身機能やリハビリテーションの進捗状況、今後の方針を話し合い情報共有している。ケアマネージャーには毎月利用者様の現状を報告している。現在の利用者様は、訪問リハビリテーションの必要性が高く、他の居宅系サービスへの移行は難しい状況だった。

2 介護老人保健施設・(介護予防)短期入所療養介護・

(介護予防)通所リハビリテーション・(介護予防)訪問リハビリテーションの運営

(1) 施設の開設

第二種社会福祉事業としての老人保健施設の設置については、介護保険法（平成9年法律123号）第94条の第1項の規定に基づき、平成16年4月7日付で北海道知事に対し設置許可申請を行い、平成16年4月23日付（十保保第153号-1号指令）で許可を受けた。

平成16年5月1日付で「老人保健施設事業開始届」を北海道知事に提出し受理された。併せて、デイケアサービス利用定員20名の開始も受理された。

また、平成18年1月1日より事業拡大の為、通所利用定員30名に変更した。

平成21年8月20日付けで介護保険法第70条第1項の規定に基づく同法第41条第1項本文の指定居宅サービス事業者、並びに同法第115条の2第1項の指定に基づく同法第53条第1項本文の指定介護予防サービス事業者として指定され、訪問リハビリテーション・介護予防訪問リハビリテーションのサービスを平成21年8月25日より開始した。

概要は、次のとおり

施設の名 称	介護老人保健施設 あんじゅ音更
施設の所在地	河東郡音更町中鈴蘭元町2番地9
施設の種 類	介護老人保健施設 (介護予防)短期入所療養介護 (介護予防)通所リハビリテーション (介護予防)訪問リハビリテーション
入 所 定 員	100名(短期入所療養介護・定員10名、ただし空床利用)
通 所 定 員	30名(1日当たり)

(2) 施設職員の配置状況

(2026/3/31 現在)

		施設長 (医師・管理者)	事 務 長	事 務 員	支 援 相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	管 理 栄 養 士	セ ラ ピ ス ト	介 護 支 援 専 門 員	介 護 ア シ ス タ ン ト	介 助 員	運 転 手	用 務 員	夜 間 警 備 員	調 理 員	計	
入 所	基準数 (人)	1			1	24	10	1	1	1								39
	現員 (人)	1 (1)	1	2	4 (4)	38 ⑧	15 ⑤	2 (2)	8 (8)	4 (4)	8 ⑧	6 ⑥		2 ②	3 ③	委 託		94 (19) ⑩
通 所	基準数 (人)	1				3			1									5
	現員 (人)	1 (1)			1	10 ③		2 (2)	8 (8)		1 ①		3 ③				委 託	26 (11) ⑦
訪 問	基準数 (人)								1									1
	現員 (人)								8 (8)								委 託	8 (8)

* ()は兼務。○は非常勤の内数。

(3) 行事実施状況

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	24日	お寿司行事(3階)	3階食堂	50名
	25日	お寿司行事(2階)	2階食堂	47名
	30日	調理レク サンドイッチ・揚げパン作り(2階)	2階食堂	45名
5月	22日	開設21周年記念食事会	2階3階食堂	96名
6月	12日	季節行事 梅ソースアイスクリーム(3階)	3階食堂	50名
	25日	季節の行事 お好み焼き・焼きそば(2階)	2階食堂	45名
7月	27日	夏まつり 延期		名
	14日	フルーツシャーベット作り(3階)	3階食堂	45名
	20日	夏レク かき氷作り(3階)	2階食堂	45名
	28日	あんみつ作り(3階)	3階食堂	45名
9月	16日	敬老祝賀会(3階)	3階食堂	43名
	16日	敬老祝賀会(2階)	2階食堂	46名
10月	5日	2階3階合同秋まつり	施設前庭・1階フロア	98名
	23日	寿司行事 (3階)	3階食堂	46名
11月	11日	運動レクレーション (2階)	2階食堂	47名
	17日	かぼちゃ団子づくり (3階)	3階食堂	49名
12月	20日	クリスマス会(2階)	2階食堂	49名
	22日	クリスマス会(3階)	3階食堂	49名
1月	19日	もちつき (3階)	3階食堂	48名
	21日	もちバイキング(2階)	2階食堂	44名
2月	2日	節分 豆まき (3階)	3階食堂	47名
	4日	節分 豆まき (2階)	2階食堂	46名
	25日	鍋行事(2階)	2階食堂	46名
3月	2日	ひな祭りデザートレク(3階)	3階食堂	50名
	26日	マシュマロムース作り(3階)	3階食堂	46名
	26日	運動レクレーション (2階)	2階食堂	47名

(通所)

月	実施日	内 容	場 所	参加人数
4月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	5名
5月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	11名
	22日	昼食行事(開設記念行事食)	デイルーム	22名
6月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	8名
7月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	3名
	10~12日	夏祭り	デイルーム	80名
8月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	5名
	4~6日	夏祭り	デイルーム	80名
9月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	2名
	8~11日	敬老会(表彰者10名)	デイルーム	144名
	16~26日	外食行事	まつりや、とから村・羽衣亭、愛菜	39名
10月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	9名
	6~9日	外食行事	まつりや、とから村・羽衣亭、愛菜	14名
	24日	調理レク(どらやき&かぼちゃ団子作り)	デイルーム	28名
11月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	3名
	26日	昼食行事(パンバイキング)	デイルーム	25名
12月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	7名
	22日	入浴行事(ゆず湯)	お風呂場	18名
	22日~27日	クリスマス週間	デイルーム	153名
1月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	8名
	17日	昼食行事(インデアンカレー)	デイルーム	25名
2月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	9名
3月	各誕生日	誕生日会	デイルーム	11名
	23日	昼食行事(海鮮ちらし寿司)	デイルーム	24名

(4) 利用者の状況

ア. 年齢別構成状況(人)

		未満	65	70	75	80	85	90	95	合計	最低年齢	最高年齢	平均年齢	前年平均
		5	5	5	5	5	5	5	以上					
一般棟	男	0	1	0	1	2	3	1	1	9	64	97	83.4	83.1
	女	0	1	0	3	6	8	8	5	31	67	103	87.9	87.4
	計	0	2	0	4	8	11	9	6	40			86.9	86.6
認知症専門棟	男	0	0	0	1	2	1	4	0	8	79	93	87.3	84.6
	女	0	0	1	3	6	5	10	10	35	72	107	89.8	89.6
	計	0	0	1	4	8	6	14	10	43			89.3	88.7
合計		0	2	1	8	16	17	23	16	83			88.1	87.7

イ. 要介護度別利用者状況(延人数)

性別	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計	平均	前年平均
男	934	1,594	953	1,800	469	5,750	2.87	3.10
女	4,967	6,621	3,866	7,316	3,371	26,141	2.90	2.72
計	5,901	8,215	4,819	9,116	3,840	31,891	2.90	2.79

ウ. 介護保険者別構成状況(人)

	帯広市	音更町	士幌町	上士幌町	清水町	池田町	本別町	鹿追町	広尾町	芽室町	陸別町	豊頃町	幕別町	合計
男	2	14	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	17
女	18	45	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	66
計	20	59	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	83

エ. 入所者所得段階

	第1段階	第2段階	第3段階①	第3段階②	第4段階	合計
男	1	0	2	4	10	17
女	4	9	12	15	26	66
計	5	9	14	19	36	83

オ. 健康保険加入状況(人)

	後期高齢者医療制度	国民健康保険	社会保険	組合健康保険	生活保護	合計
男	15	1	0	0	1	17
女	62	0	0	0	4	66
計	77	1	0	0	5	83

カ. 在所者利用期間別構成状況(人)

	1年未満	1~2	2~3	3~4	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	10年以上	合計
男	12	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1	17
女	36	11	5	5	3	1	0	0	0	2	3	66
計	48	13	7	5	3	1	0	0	0	2	4	83

キ. 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)

	自立	J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	合計
男	0	0	0	0	11	0	6	0	0	17
女	0	0	1	8	25	7	20	2	3	66
計	0	0	1	8	36	7	26	2	3	83

ク. 認知症高齢者の日常生活自立度

	自立	I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	合計
男	0	0	0	4	7	4	2	0	17
女	1	2	3	9	25	19	6	1	66
計	1	2	3	13	32	23	8	1	83

ケ. 通院状況(延人数)

	内科	精神科	循環器科	心臓血管外科	外科	総診	整形外科	リンパ外来	脳外科	皮膚科	泌尿器科	婦人科	眼科	耳鼻科	神経内科	口腔外科	合計
男	9	7	5	1	0	0	2	0	2	3	11	2	0	0	0	0	42
女	17	42	25	2	6	1	26	9	1	16	8	2	8	4	9	4	180
計	26	49	30	3	6	1	28	9	3	19	19	2	10	4	9	4	222

(重複掲載)

コ. 往診状況(延人数)

	内科	歯科	眼科	皮膚科	合計
男	0	55	0	0	55
女	0	154	0	0	154
計	0	209	0	0	209

(重複掲載)

サ. リハビリ実施状況(延人数)

		入所	通所	合計
内 容	集団活動 体操	0	0	0
	個別訓練 機能訓練・ADL訓練・嚥下訓練・言語訓練(入所:ショート ステイの個別訓練含む) 知的活動(パズル・計算・語想起等)	14,264	2,167	16,431
合計		14,264	2,167	16,431

シ. 入所・短期利用状況

利用 状況	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 合計														前年合計
	日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	365
入所利用延人数	2,553	2,769	2,591	2,663	2,652	2,587	2,732	2,714	2,849	2,670	2,441	2,670	31,891	32,468	
短期利用延人数	266	159	205	245	188	131	238	196	148	136	155	177	2,244	2,083	
1日平均人数	93.97	94.45	93.20	93.81	91.61	90.60	95.81	97.00	96.68	90.52	92.71	91.84	93.52	94.66	
入所率(%)	93.97	94.45	93.20	93.81	91.61	90.60	95.81	97.00	96.68	90.52	92.71	91.84	93.52	94.66	

ス. 入退所状況(人)

入 所	4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 合計														前年合計
	家庭	12	5	9	7	10	8	7	12	5	4	6	6	91	79
病院	6	2	4	4	1	5	3	2	2	5	4	4	42	45	
他施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	18	7	13	11	11	13	10	14	7	9	10	10	133	124	
退 所	家庭	8	9	6	11	6	5	9	4	6	4	4	7	79	79
	病院	3	2	4	3	3	3	2	4	4	5	4	6	43	39
	他施設	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	6	6
	死亡	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	2	2	7	6
合計	11	12	11	15	9	10	12	9	11	9	10	16	135	130	

セ. 入所待機者状況(人)

	要支援1	要支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	合計
男			4	2	4	2	1	13
女			7	2	5	1	0	15
計			11	4	9	3	1	28

ソ. 入所者・利用者減免状況

	入所減免額			(予防)短期減免額			(予防)通所減免額					合計 (円)
	通常減免		1件当平均 (円)	音更町減免		1件当平均 (円)	通常減免		音更町減免他		1件当平均 (円)	
	件数	金額(円)		件数	金額(円)		件数	金額(円)	件数	金額(円)		
4月	5	212,120	42,424	1	65,748	65,748	0	0	3	5,973	1,991	283,841
5月	5	192,700	38,540	0	0	0	0	0	3	8,053	2,684	200,753
6月	4	173,600	43,400	1	17,967	17,967	0	0	3	8,605	2,868	200,172
7月	4	179,660	44,915	2	44,809	22,405	0	0	3	7,830	2,610	232,299
8月	4	178,830	44,708	1	16,418	16,418	0	0	3	8,387	2,796	203,635
9月	5	225,120	45,024	1	16,266	16,266	0	0	2	7,170	3,585	248,556
10月	5	231,740	46,348	1	29,954	29,954	0	0	1	5,365	5,365	267,059
11月	5	221,820	44,364	1	18,683	18,683	0	0	1	908	908	241,411
12月	5	225,820	45,164	2	11,159	5,580	0	0	1	1,347	1,347	238,326
1月	5	225,280	45,056	0	0	0	0	0	0	0	0	225,280
2月	5	171,550	34,310	1	1,864	1,864	0	0	1	1,347	1,347	174,761
3月	4	177,970	44,493	1	1,993	1,993	0	0	1	1,800	1,800	181,763
合計	56	2,416,210	518,745	12	224,861	196,877	0	0	22	56,785	27,301	2,697,856

タ. (介護予防)通所実施状況

	登録人数	開放日数	利用人員	一日平均人数	利用率(%)	介護度別延べ人数(人)							サービス状況(回)							
						要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	入浴	入浴(予)	食事	リハマネロ(イ)	短期集中リハ	認知症短期	運動機能	送迎減算
4月	81	26	614	23.62	78.72	17	41	263	148	78	40	27	446	35	548	0	0	0	0	19
5月	86	27	689	25.52	85.07	18	47	317	160	63	60	24	488	35	611	0	0	0	0	28
6月	87	25	665	26.60	88.67	19	44	279	186	55	58	24	473	32	585	0	0	0	0	31
7月	83	27	725	26.86	89.51	33	53	280	198	68	69	24	499	43	621	0	0	0	0	29
8月	82	26	661	25.43	84.75	27	42	288	164	69	53	18	463	34	575	0	0	0	0	24
9月	88	26	689	26.50	88.34	29	52	282	188	69	49	20	468	41	558	0	0	0	0	26
10月	89	27	756	28.00	93.34	29	50	316	229	54	58	20	519	40	651	0	0	0	0	37
11月	90	25	679	27.16	90.54	24	36	269	237	43	50	20	497	35	603	0	0	0	0	20
12月	85	26	665	25.58	85.26	26	45	257	216	49	40	32	467	35	577	0	0	0	0	28
1月	80	25	664	26.56	88.54	27	48	255	237	28	37	32	483	50	573	0	0	0	0	25
2月	81	24	613	25.55	85.14	24	46	222	238	41	13	29	419	46	527	0	0	0	0	31
3月	81	26	645	24.81	82.70	26	55	258	229	42	15	20	439	57	546	0	0	0	0	27
合計	310	8,065	26,02	86.73	299	559	3,286	2,430	659	542	290	5,661	483	6,975	0	0	0	0	325	
昨年同期	309	8,142	26.35	87.84	329	535	3,563	2,253	1,103	192	166	5,997	534	8,138	0	0	0	0	146	

チ. (介護予防)訪問リハビリテーション実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実人数 ()内は予防	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	17 (0)
延べ人数	7	7	4	8	6	4	3	4	6	4	4	5	62
昨年同期	10	2	6	8	7	5	8	6	4	3	2	6	67

(5) 苦情受付件数と主な内容

2 件		内 容	第3者委員等の報告	結果
部門	苦情申出者			
通所	ご家族	利用者がリハビリ職員から冷たい態度を取られた。無視された。リハビリの道具をポンと置いて「やってね」の声掛けのみ。態度を改めてほしい。	なし	ご理解を得る
		対応 → 利用中に本人と相談員で面談し詳細を確認。不快な思いをさせてしまった事を謝罪する。又、苦情申出者には電話にて面談内容及び謝罪を行う。		
通所	ご家族	通所中に転倒し、結果的に入院手術となったが、入院して以降、施設から心配の連絡がひとつも無い。非人道的ではないか。	なし	理解得られず 顧問弁護士に相談。弁護士へ別家族が連絡し理解得られ終息
		対応 → 相談員より電話にて配慮に欠ける対応だった事を謝罪。改めて自宅へ訪問したい旨を伝えるも拒否され、一方的に電話を切られてしまう。		

(6) 介護事故件数

重大事故 (行政報告)		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他 (転倒以外 の骨折)	合計	
	入所	0	22	6		5	0	0	0	0	0	0	0	2	35
	短期	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	デイケア	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	0	23	7	0	6	0	0	0	0	0	0	0	2	38

事故 (施設内処理)		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計
	入所	5	1	52	33	15	19	0	0	0	0	0	4	129
	短期	0	1	31	2	1	6	0	0	0	0	0	3	44
	デイケア	1	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	合計	6	3	93	35	16	25	0	0	0	0	0	7	185

ヒヤリハット		誤嚥 (誤飲・誤食・異食・窒息等)	誤薬 誤配	転倒	転落	打撲 捻挫 脱臼 変色	火傷 裂傷 皮膚剥離	無断外出 行方不明	送迎車に よる事故	自傷行為 暴力	職員言動 処遇	溺水	その他	合計	
	入所	2	16	84	50	8	0	0	0	0	0	0	2	23	185
	短期	0	5	37	5	0	0	1	0	1	0	1	9	59	
	デイケア	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	
	合計	3	21	122	55	8	0	1	0	1	0	3	33	247	

(7) 慰問・ボランティア状況

	名 前	内 容	来 所 日	延べ人数
慰 問 係	レクダンスおとふけ	演舞披露	2025年 9月 8日	9名
	レクダンスおとふけ	演舞披露	2025年12月25日	5名
	お祭りユニット「KANTO」	和太鼓演奏	2025年12月27日	4名
合 計			延べ人数(団体)	18名
			〃 (個人)	0名
			〃 合計	18名

(8) 実習生受入れ状況

受 入 期 間	人 数	日 数	延べ人数	学 校 名	学 部 ・ 学 科	実 習 内 容
2025 . 7 . 21 ~ 2025 . 8 . 1	2	10	20	帯広大谷短期大学	社会福祉課介護福祉専攻2年	介護実習3
2025 . 8 . 18 ~ 2025 . 9 . 12	2	20	40	帯広大谷短期大学	社会福祉課介護福祉専攻2年	介護実習3
2025 . 8 . 25 ~ 2025 . 8 . 27	1	3	3	帯広大谷短期大学	社会福祉課介護福祉専攻1年	介護実習1(通所)
2025 . 8 . 28 ~ 2025 . 8 . 30	1	3	3	帯広大谷短期大学	社会福祉課介護福祉専攻1年	介護実習1(通所)
2025 . 9 . 3 ~ 2025 . 9 . 5	2	3	6	帯広大谷短期大学	社会福祉課介護福祉専攻1年	介護実習1(通所)
2026 . 2 . 9 ~ 2026 . 2 . 24	2	12	24	帯広大谷短期大学	社会福祉課介護福祉専攻1年	介護実習2
合 計	10	51	96			

(9) 地域における公益的な取組(事例について自由記述)

①「すずらんスマイルガーデン」施設の前庭を提供し、花畑作業を通して、地域の方々との交流を図る 月1回程度 7回実施
②音更町社会福祉協議会の音更福祉フェスタ2025 開催準備ボランティア 2025年11月1日
③RUN伴北海道2025 とから 企画・参加 2025年9月27日
④認知症キツサポーター養成講座 講師派遣 2025年12月2日、12月5日、2026年2月6日